

# 飯舘村 住民意向調査 報告書

平成26年3月

復興庁  
福島県  
飯舘村



# 飯舘村 住民意向調査

## 報告書

### 目 次

<b>I 調査の概要</b> .....	1
1-1 調査目的.....	3
1-2 調査内容.....	3
1-3 調査設計.....	3
1-4 回収結果.....	3
1-5 報告書の見方.....	3
<b>II 回答者の属性</b> .....	5
2-1 回答者の属性.....	7
<b>III 調査結果</b> .....	11
3-1 現在の状況.....	13
3-1-1 現在の避難先自治体.....	13
3-1-2 世帯構成・人数.....	15
3-1-3 職業.....	22
3-1-4 住居形態.....	31
3-1-5 自動車保有.....	37
3-1-6 ペットの有無.....	38
3-2 復興公営住宅の入居意向.....	39
3-2-1 復興公営住宅への入居希望.....	39
3-2-2 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由.....	44
3-2-3 入居を希望する地域と家族構成.....	45
3-2-4 分散して入居する場合の住居形態.....	50
3-2-5 分散して避難している家族との同居意向.....	51
3-2-6 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由.....	52
3-2-7 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能.....	56
3-2-8 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス.....	58
3-2-9 復興公営住宅以外の避難期間中の住居.....	60
3-2-10 現在の住居で継続して暮らしたい理由.....	62
3-2-11 避難期間中、転居を希望する自治体.....	65
3-2-12 避難期間中、転居する場合の住宅形態.....	67
3-2-13 避難期間中の住宅や居住環境についての意見.....	68

3-2-14	避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること	69
<b>3-3</b>	<b>将来の意向</b>	<b>71</b>
3-3-1	今後の職業についての意向	71
3-3-2	職場を選ぶ際に重要視すること	81
3-3-3	飯舘村への帰還意向	82
3-3-4	飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報	87
3-3-5	帰還する場合の住居形態	91
3-3-6	元の持ち家に戻る場合に必要な修繕	94
3-3-7	帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	96
3-3-8	帰還する場合に行政に望む支援	98
3-3-9	現時点で戻らないと決めている理由	100
3-3-10	帰還しない場合に居住したい自治体	103
3-3-11	帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態	108
3-3-12	帰還しない場合に今後の生活において求める支援	109
<b>3-4</b>	<b>意見・要望</b>	<b>111</b>
<b>IV</b>	<b>参考資料</b>	<b>125</b>
4-1	使用調査票	127

# I 調査の概要



## 1-1 調査目的

本調査は、飯舘村住民の復興公営住宅の希望など、避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

## 1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

## 1-3 調査設計

(1) 調査地域	飯舘村
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 3,024 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 25 年 11 月 15 日（金）～11 月 29 日（金）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、飯舘村
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

## 1-4 回収結果

有効回収数 1,458 世帯（有効回収率 48.2%）

## 1-5 報告書の見方

- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ $n$  値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。



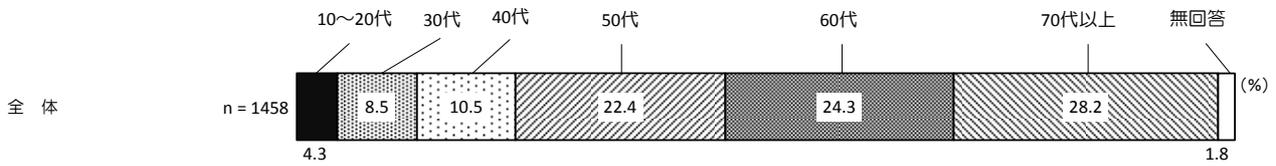
## II 回答者の属性



## 2-1 回答者の属性

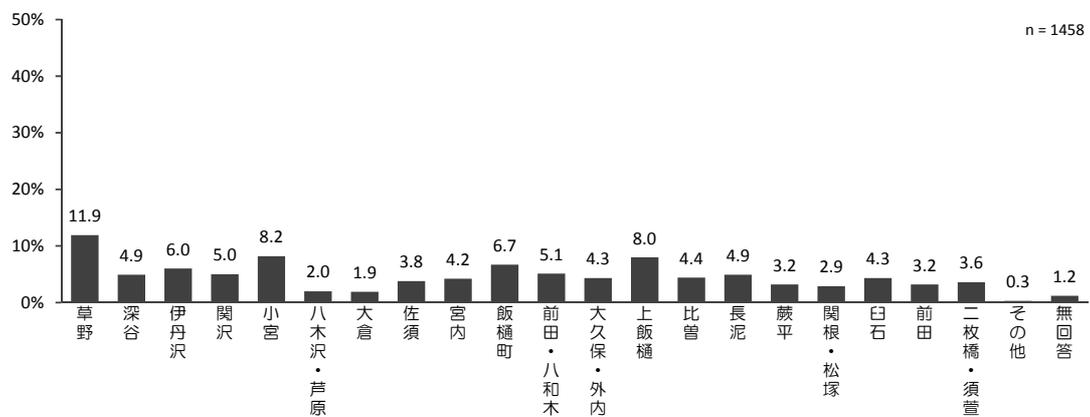
### (1) 年齢

<図表2-1-1 年齢>



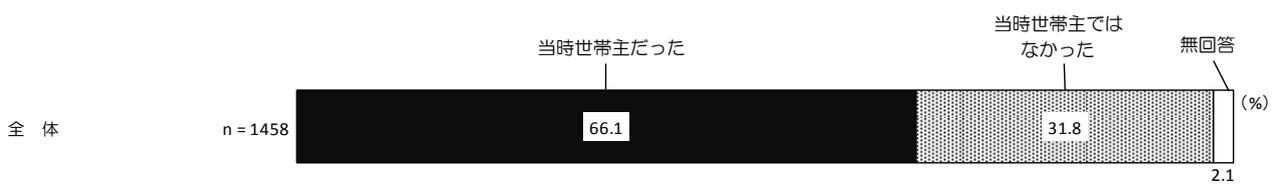
### (2) 震災発生時に居住していた行政区

<図表2-1-2 居住行政区>



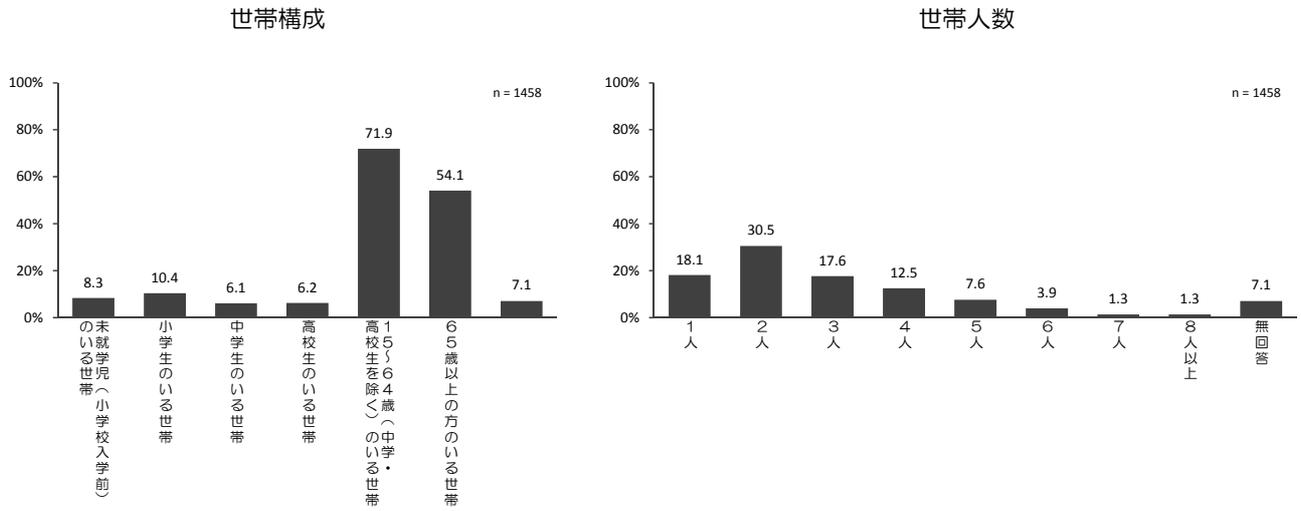
### (3) 震災発生当時の世帯での立場

<図表2-1-3 震災発生当時の世帯での立場>

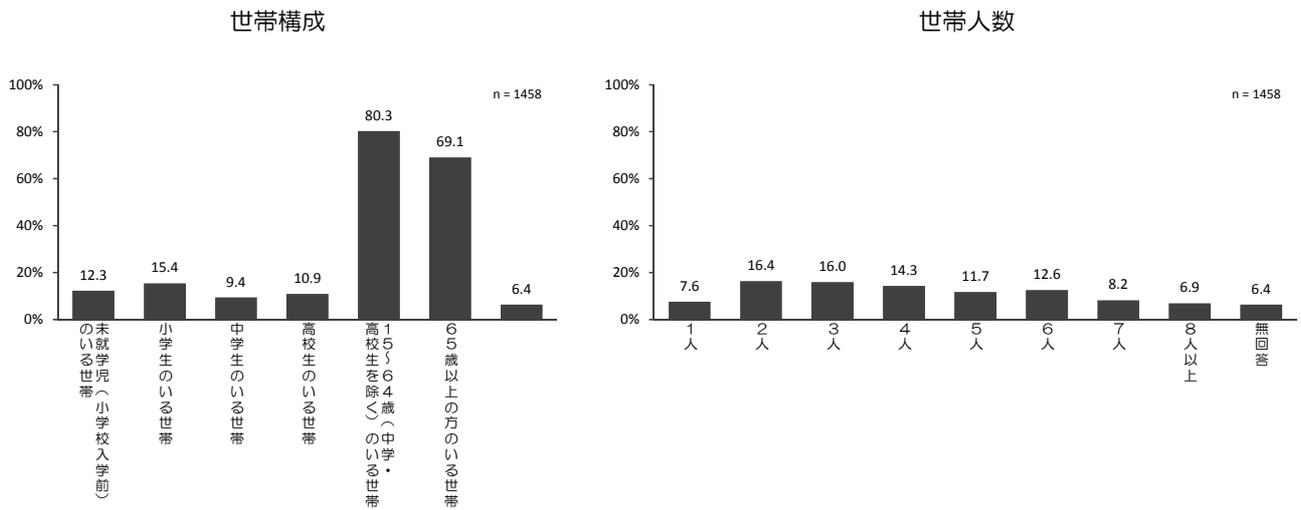


(4) 世帯構成・人数

<図表2-1-4 現在の世帯構成・人数>

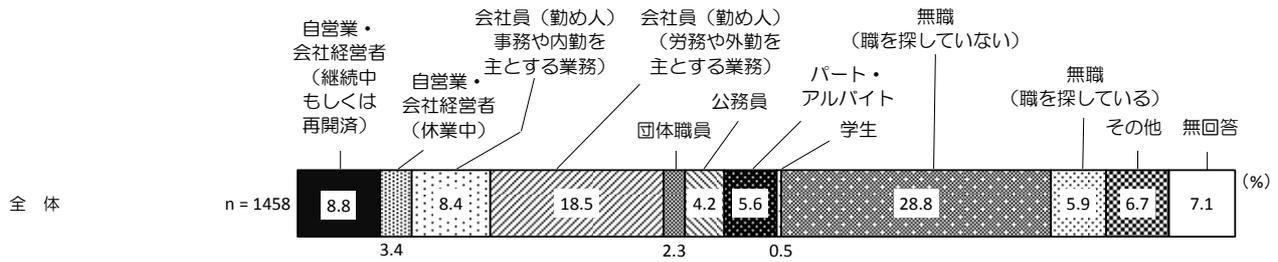


<図表2-1-5 震災発生当時の世帯構成・人数>

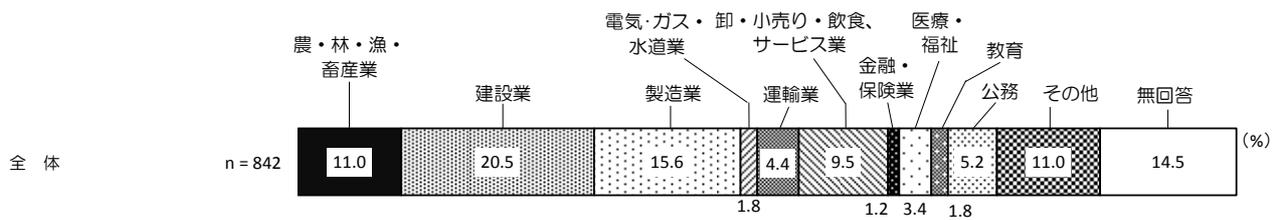


(5) 職業

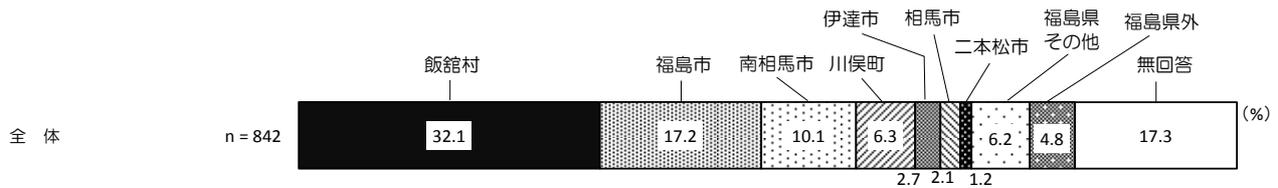
<図表2-1-6 現在の職業（就業形態）>



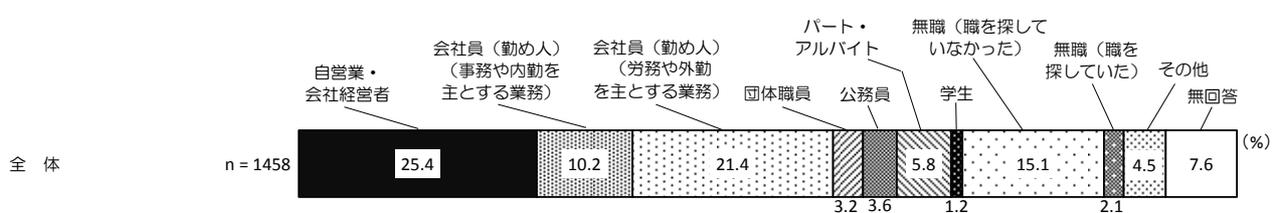
<図表2-1-7 現在の業種>



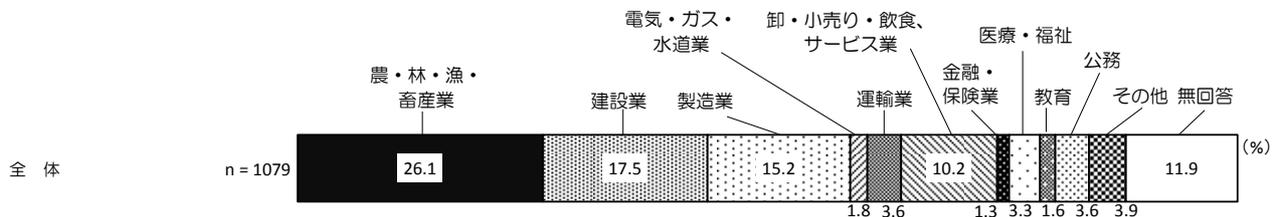
<図表2-1-8 現在の就業先>



<図表2-1-9 震災発生当時の職業（就業形態）>



<図表2-1-10 震災発生当時の業種>



<図表2-1-11 震災発生当時の就業先>





### **III 調査結果**





### Ⅲ 調査結果

震災発生時の居住行政区別にみると、「伊達市」は、前田（48.9%）、佐須（36.4%）で他の行政区より高くなっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（居住行政区別）>

	n	(%)					
		相馬市	南相馬市	福島市	伊達市	川俣町	福島県外
全 体	1458	6.9	6.6	55.5	10.2	8.0	6.0
草野	173	5.2	9.8	51.4	12.1	3.5	8.7
深谷	72	5.6	1.4	65.3	6.9	4.2	6.9
伊丹沢	87	6.9	6.9	63.2	4.6	6.9	6.9
関沢	73	9.6	8.2	47.9	4.1	16.4	9.6
小宮	119	11.8	18.5	43.7	10.1	5.0	6.7
八木沢・芦原	29	13.8	20.7	58.6	-	-	-
大倉	27	70.4	7.4	7.4	-	3.7	7.4
佐須	55	5.5	-	36.4	36.4	7.3	3.6
宮内	61	6.6	4.9	62.3	1.6	6.6	8.2
飯樋町	97	5.2	3.1	56.7	9.3	10.3	10.3
前田・八和木	74	8.1	8.1	58.1	1.4	10.8	5.4
大久保・外内	63	3.2	11.1	57.1	9.5	11.1	1.6
上飯樋	117	3.4	1.7	65.8	6.8	13.7	4.3
比叢	64	1.6	1.6	65.6	3.1	15.6	4.7
長泥	72	5.6	6.9	63.9	8.3	4.2	6.9
蕨平	47	6.4	6.4	63.8	8.5	8.5	2.1
関根・松塚	43	4.7	7.0	58.1	14.0	2.3	2.3
白石	63	1.6	3.2	65.1	19.0	4.8	1.6
前田	47	-	-	31.9	48.9	8.5	8.5
二枚橋・須萱	52	-	-	65.4	7.7	15.4	1.9
その他	5	20.0	-	40.0	-	-	40.0

### 3-1-2 世帯構成・人数

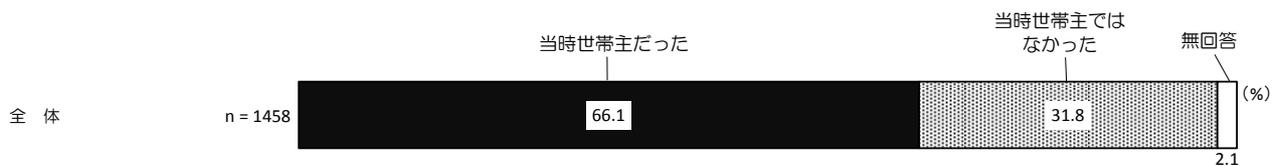
#### (1) 震災発生当時の世帯での立場

問4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(〇は1つ)

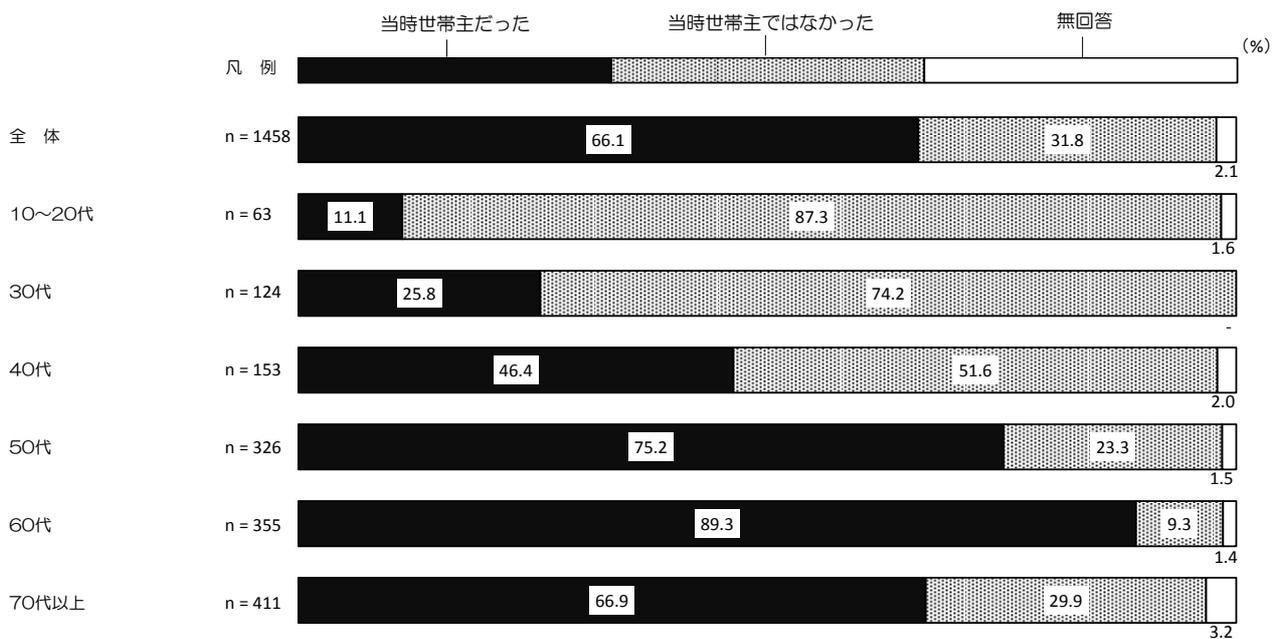
震災発生当時の世帯での立場については、「当時世帯主だった」が66.1%と6割を超えている。

世帯主の年齢別にみると、「当時世帯主だった」は、50代で75.2%、60代で89.3%、70代で66.9%となっており、40代以下と比べ高くなっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯での立場>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯での立場(世帯主の年齢別)>



(2) 現在の世帯構成・人数

問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

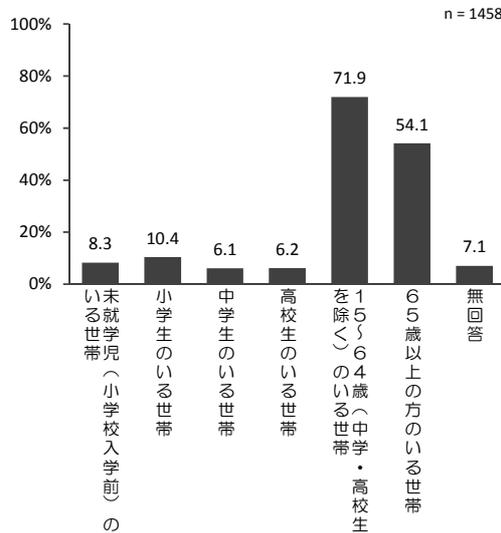
(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

①現在の世帯構成

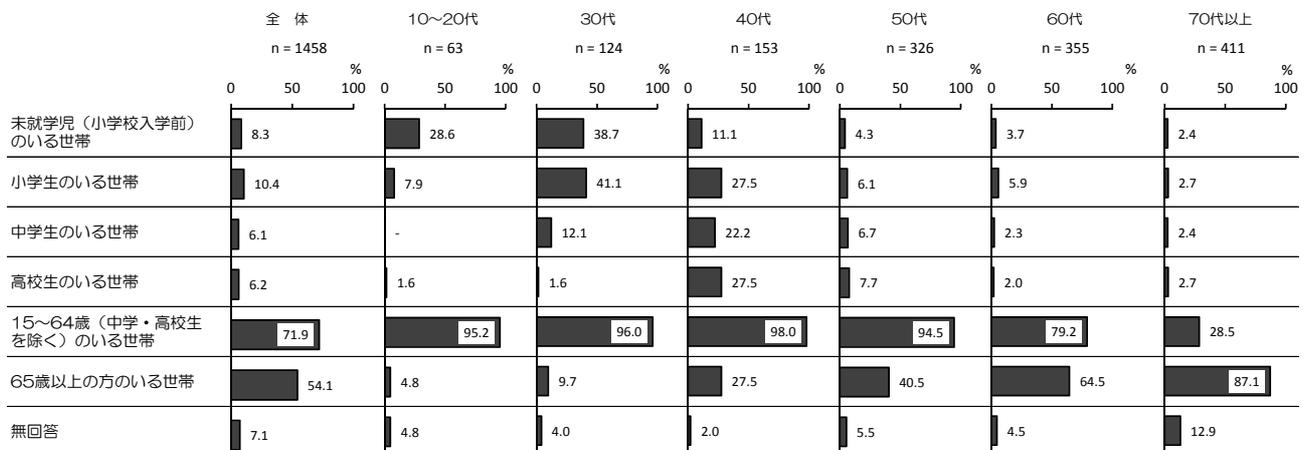
現在の世帯構成は、高校生以下(「未就学児」、「小学生」、「中学生」、「高校生」)が同居する世帯はそれぞれ1割程度となっており、一方「65歳以上の方のいる世帯」は54.1%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「15～64歳(中学・高校生を除く)のいる世帯」は、概ねいずれの年齢層でも高くなっているが、30代では「未就学児(小学校入学前)」が38.7%、「小学生」が41.1%となっている。また、40代では「中学生」が22.2%、「高校生」が27.5%と、他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-1-2-3 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-4 現在の世帯構成(世帯主の年齢別)>

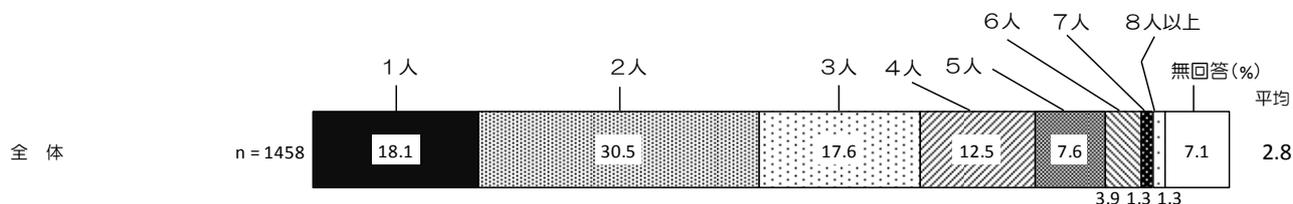


②現在の世帯人数

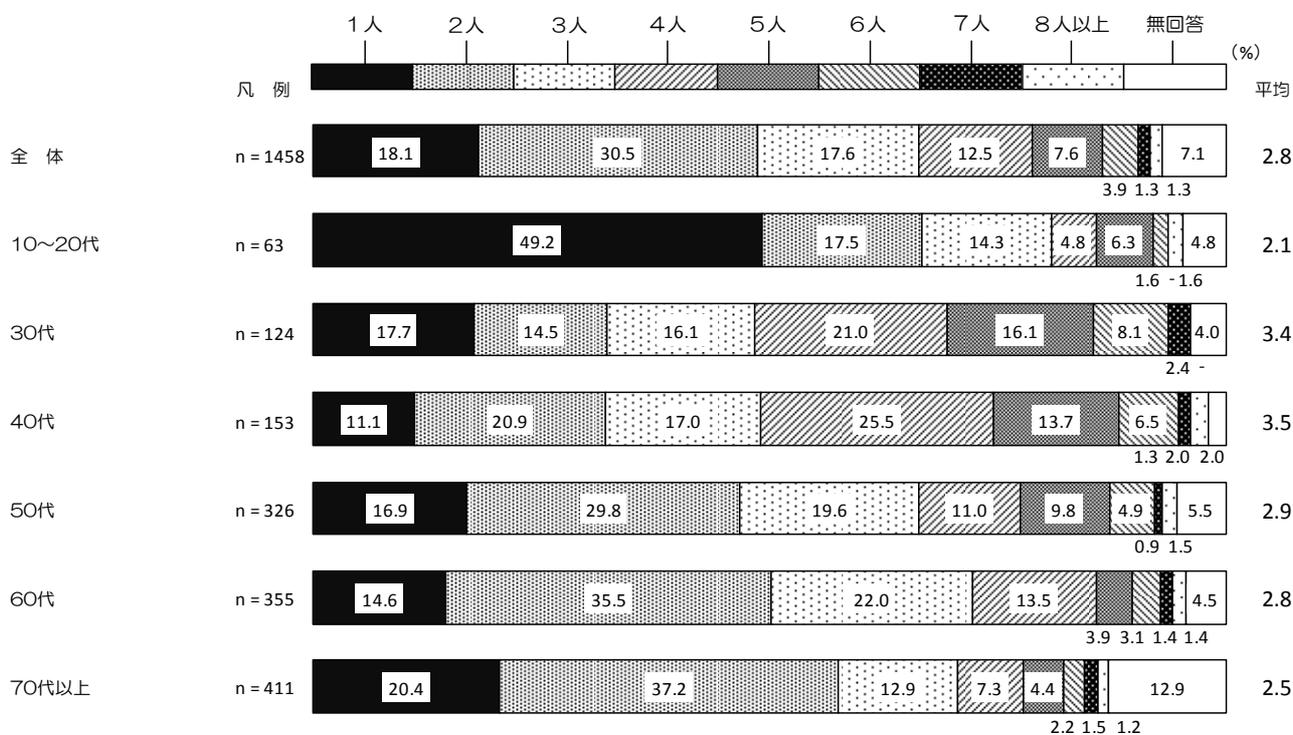
現在の世帯人数については、「2人」が30.5%と最も高く、次いで「1人」が18.1%、「3人」が17.6%となり、平均人数は2.8人となっている。

世帯主の年齢別にみると、「1人」は10~20代（49.2%）で5割程度と高くなっている。

<図表3-1-2-5 現在の世帯人数>



<図表3-1-2-6 現在の世帯人数（世帯主の年齢別）>



(3) 震災発生当時の世帯構成・人数

問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

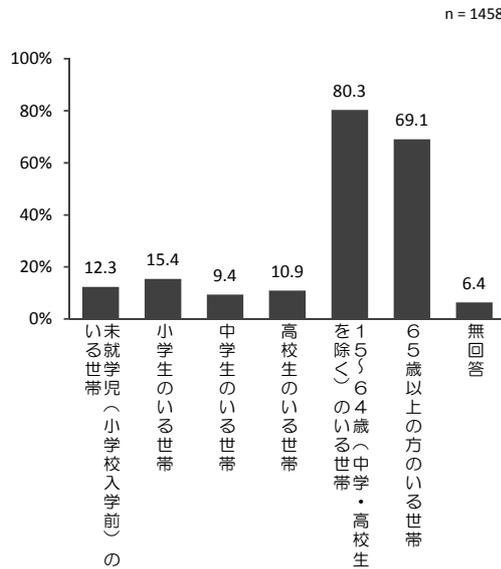
(2) 震災発生ときに、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

①震災発生当時の世帯構成

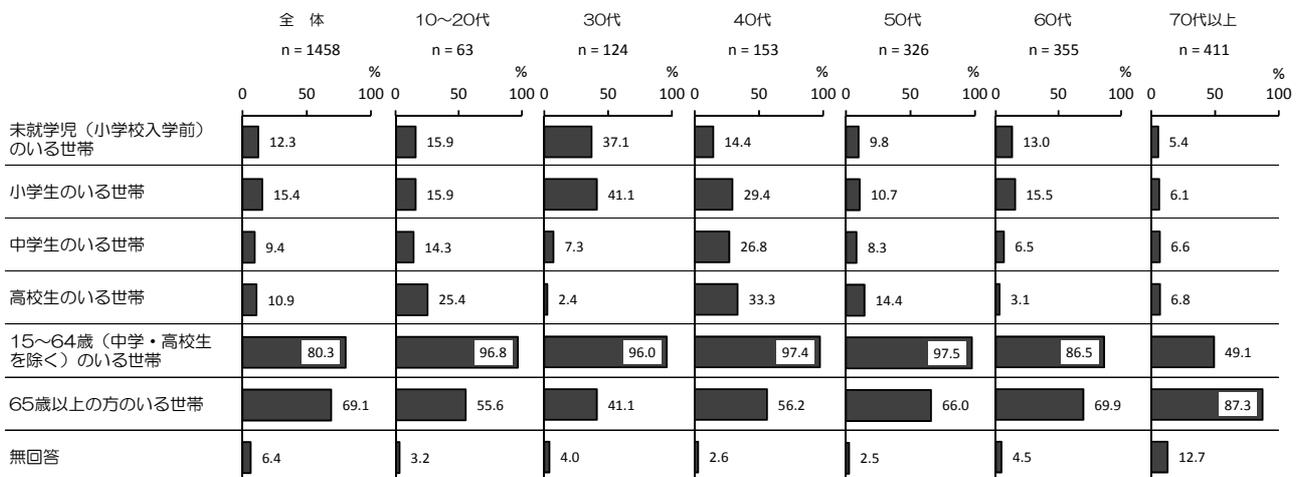
震災発生当時の世帯構成については、高校生以下（「未就学児」、「小学生」、「中学生」、「高校生」）が同居する世帯はそれぞれ1割前後、「65歳以上の方のいる世帯」は69.1%と高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、「15～64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」は、概ねいずれの年齢層でも高くなっている。また、30代では「小学生のいる世帯」（41.1%）、「未就学児（小学校入学前）のいる世帯」（37.1%）と4割前後で、他の年齢層と比べ高くなっている。

<図表3-1-2-7 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-8 震災発生当時の世帯構成（世帯主の年齢別）>

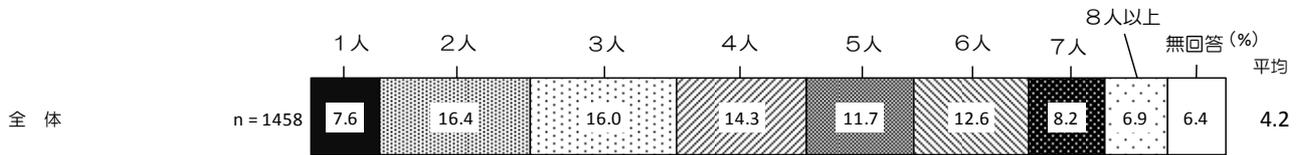


②震災発生当時の世帯人数

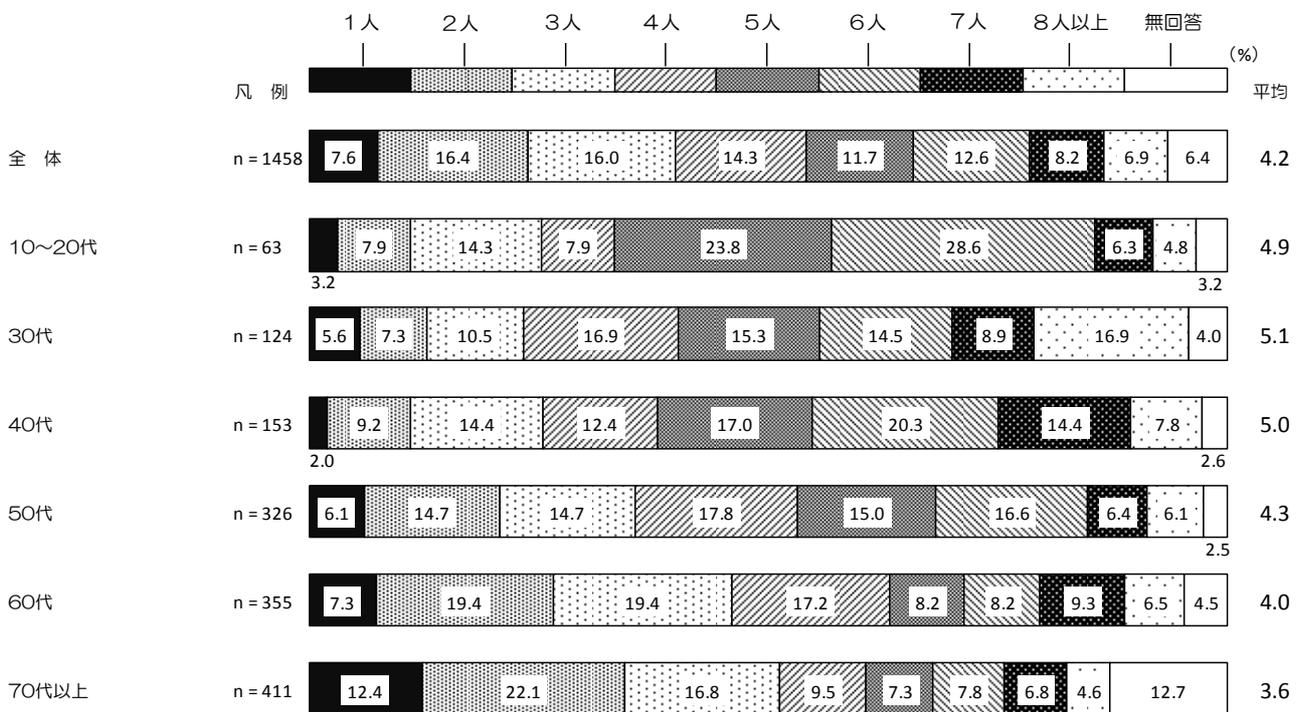
震災発生当時の世帯人数は、「2人」が16.4%、「3人」が16.0%、「4人」が14.3%となっており、平均人数は4.2人となっている。

世帯主の年齢別にみると、「2人」、「3人」は概ね年齢が高くなるに従い高くなっている。

<図表3-1-2-9 震災発生当時の世帯人数>



<図表3-1-2-10 震災発生当時の世帯構成（世帯主の年齢別）>



(4) 世帯の分散状況

問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(3) 震災発生当時ご一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)

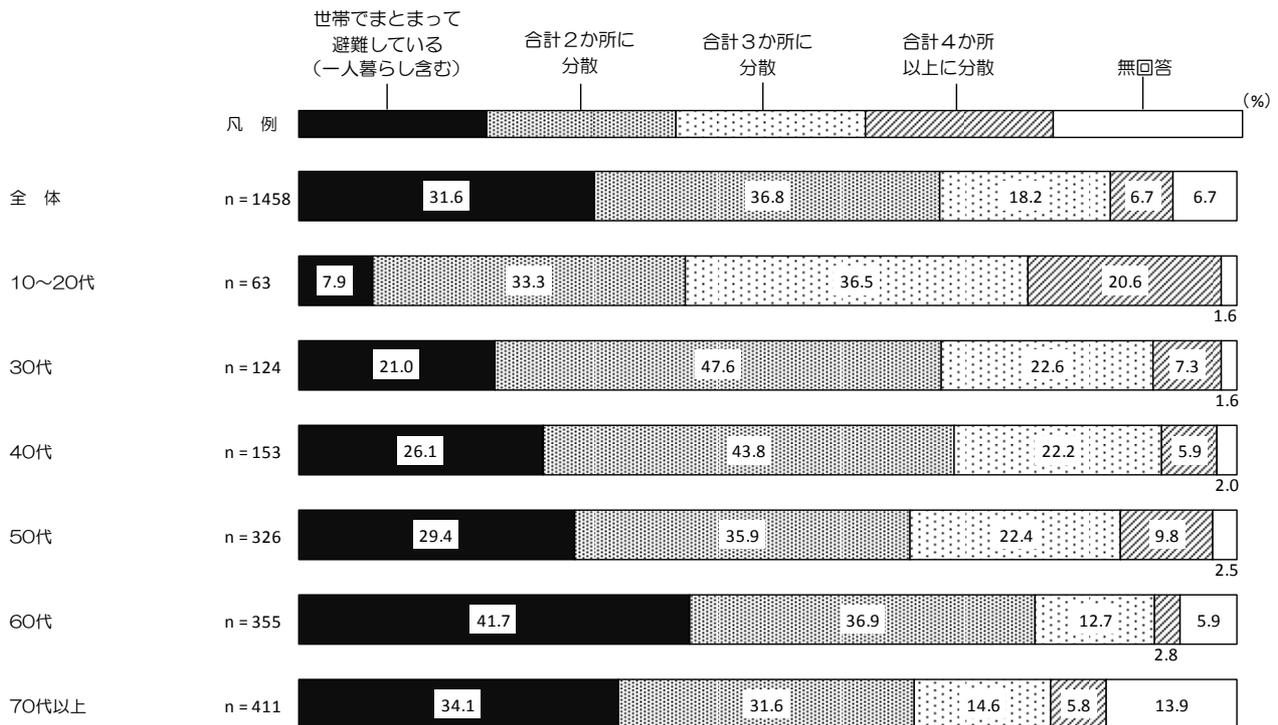
世帯の分散状況については、「合計2か所に分散」が36.8%と最も高く、次いで「世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む)」が31.6%となっている。2か所以上に分散している世帯は、61.7%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む)」は、概ね年齢が高くなるに従い高くなっている。

<図表3-1-2-11 世帯の分散状況>

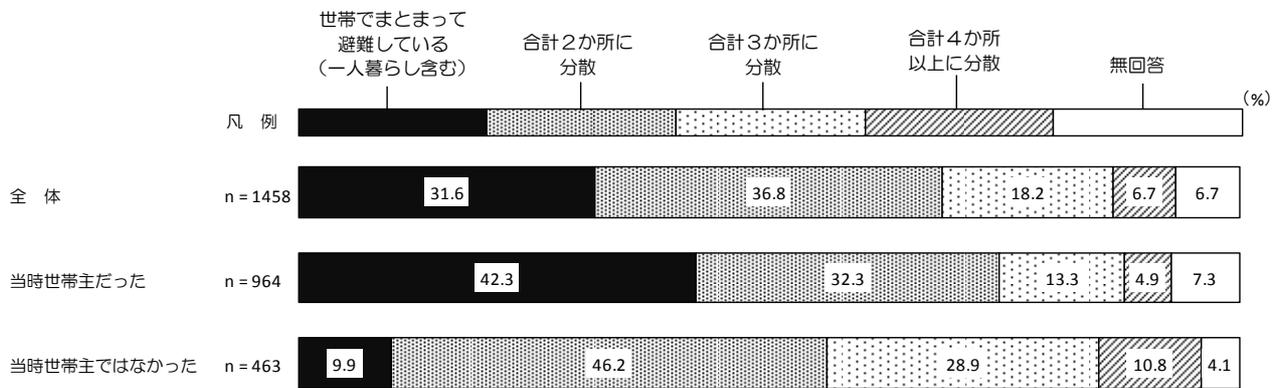


<図表3-1-2-12 世帯の分散状況(世帯主の年齢別)>



震災発生時の世帯での立場別にみると、「世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）」は、当時世帯主だったという世帯で42.3%、一方で当時世帯主ではなかった世帯で9.9%となっている。当時世帯主ではなかった世帯では、「合計2か所に分散」が46.2%、「合計3か所に分散」が28.9%となっており、2か所以上に分散している世帯は85.9%となっている。

<図表3-1-2-13 世帯の分散状況（当時の世帯での立場別）>



### 3-1-3 職業

#### (1) 現在の職業（就業形態）

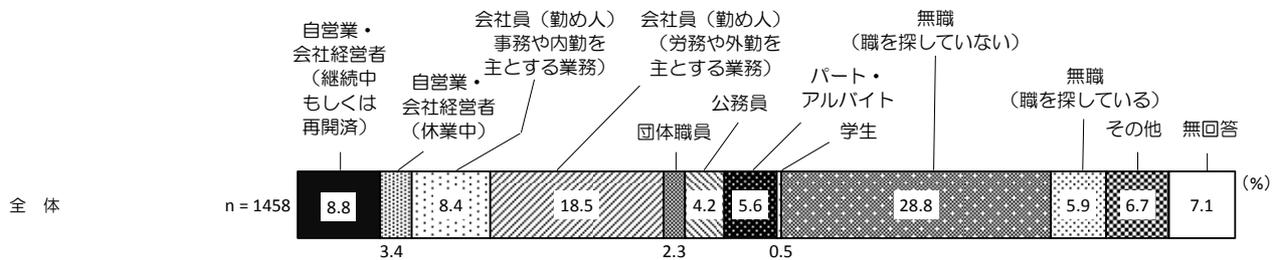
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

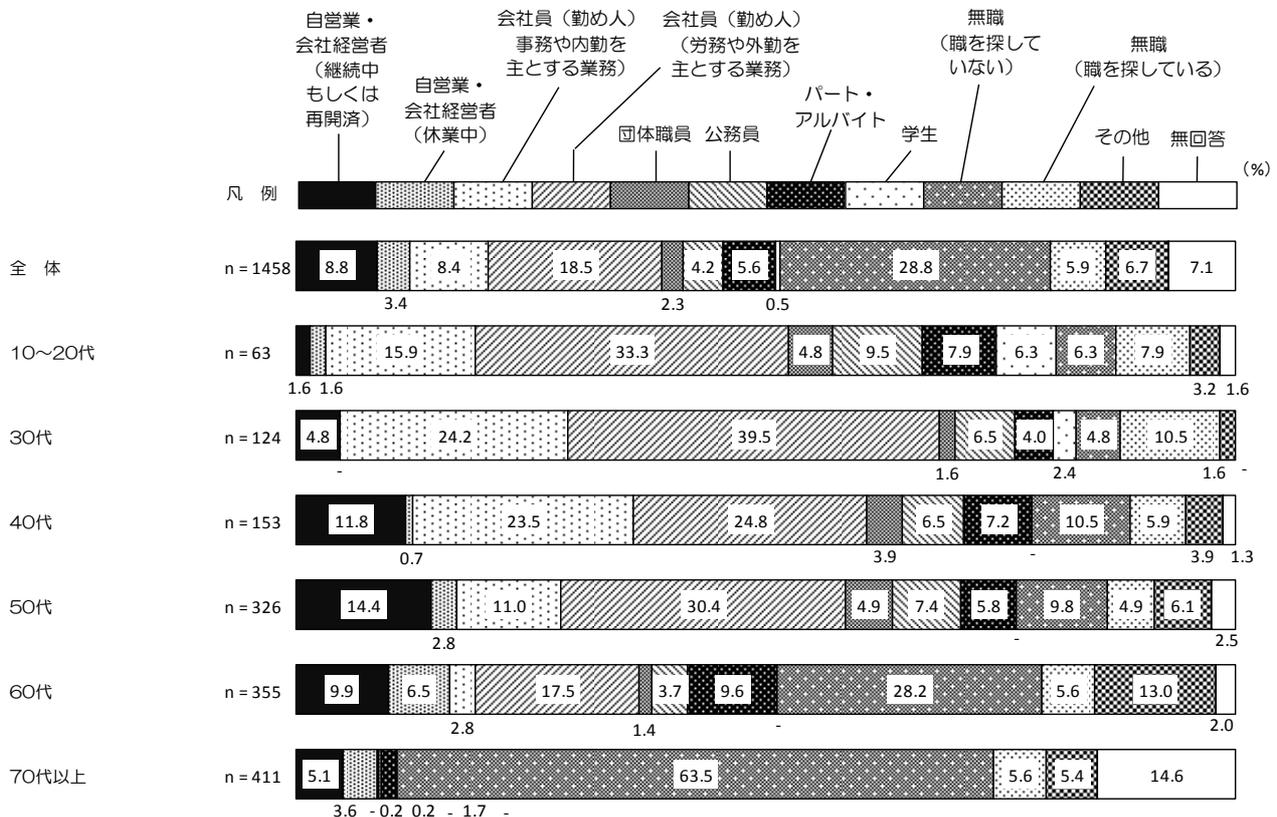
現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない）」が28.8%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が18.5%となっている。「無職（職を探していない）」(28.8%)と「無職（職を探している）」(5.9%)を合わせた「無職」は34.7%となり、3割を超えている。

世帯主の年齢別にみると、「無職（職を探していない）」と「無職（職を探している）」を合わせた「無職」は、10~20代で14.2%、30代で15.3%、40代で16.4%、50代で14.7%と1割半ばとなっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業>

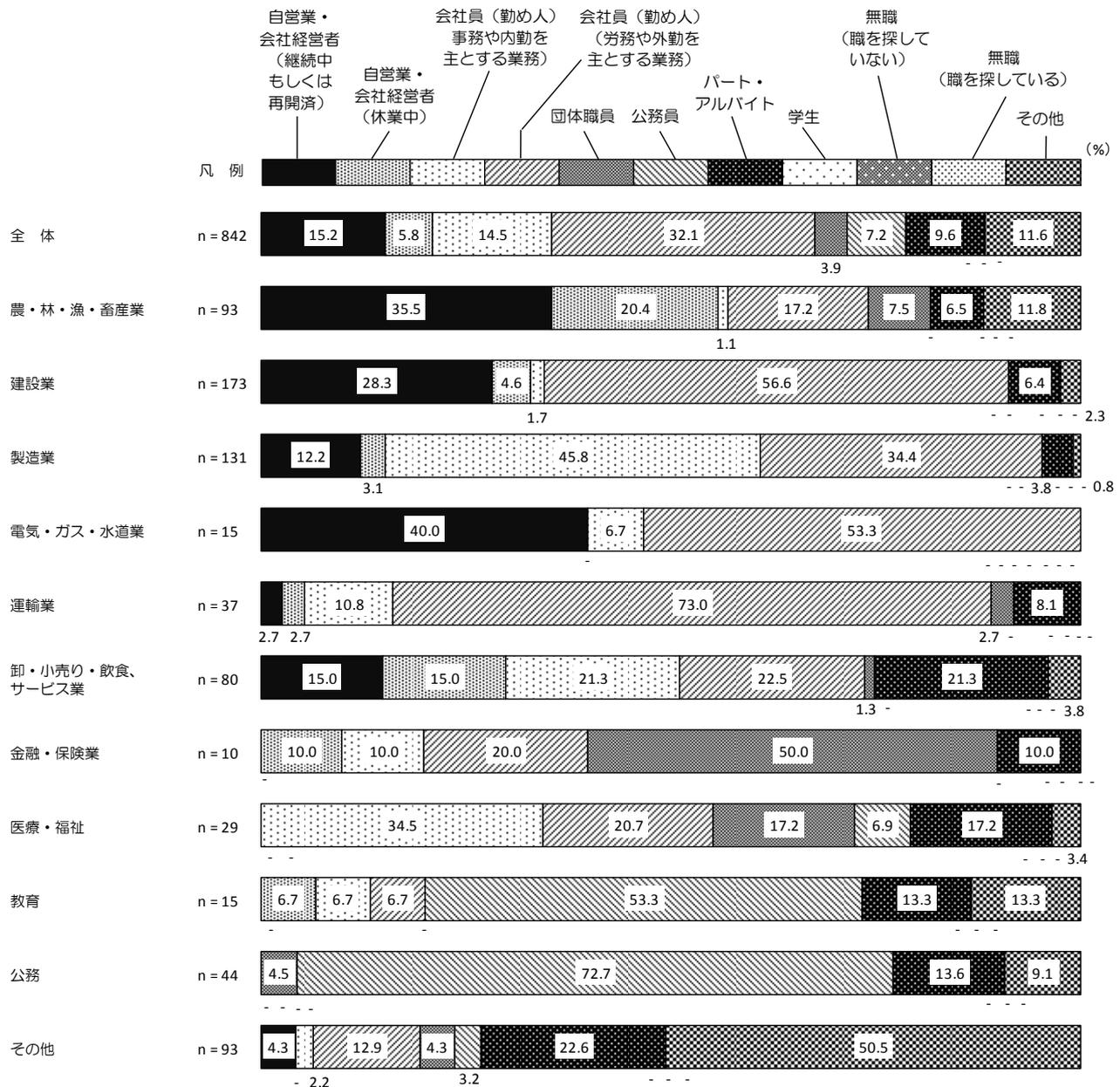


<図表3-1-3-2 現在の職業（世帯主の年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について、現在の職業の業種別にみると、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）が農・林・漁・畜産業で35.5%、建設業で28.3%と他の業種に比べて高くなっている。一方で「自営業・会社経営者（休業中）」では、農・林・漁・畜産業で20.4%となっている。

<図表3-1-3-3 現在の職業（現在の業種別）>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

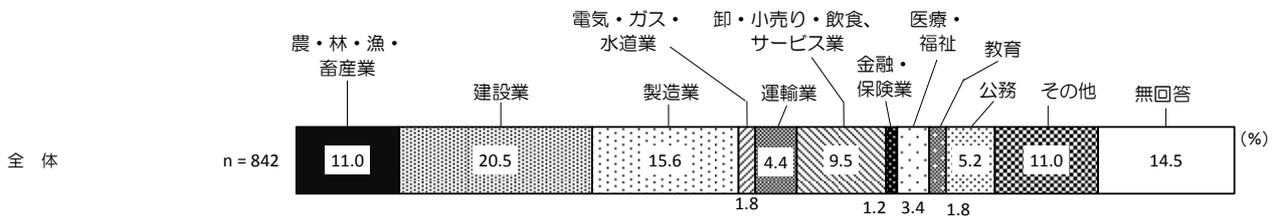
【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

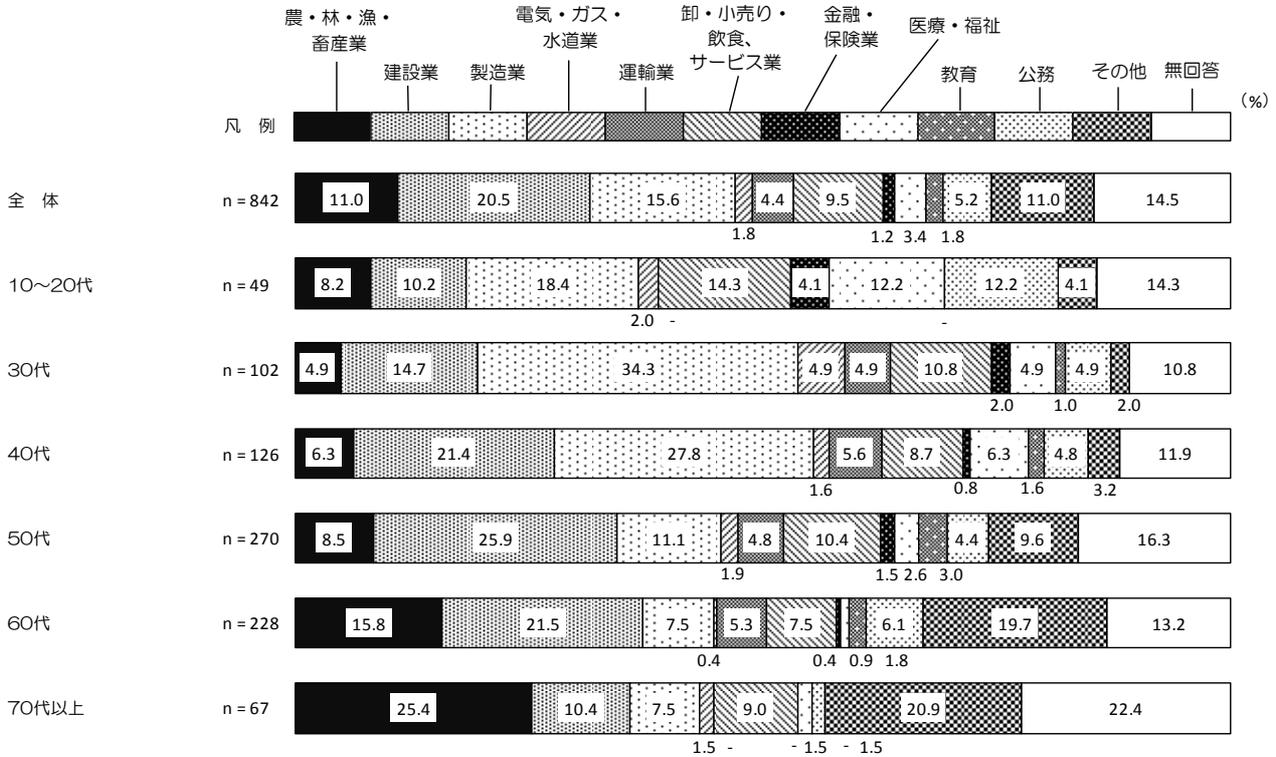
世帯主が就業しているとした世帯の現在の業種については、「建設業」が20.5%と最も高く、次いで「製造業」が15.6%、「農・林・漁・畜産業」が11.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「建設業」は40代(21.4%)、50代(25.9%)、60代(21.5%)で2割を超えている。また「製造業」は30代(34.3%)、40代(27.8%)で3割前後となり、他の年齢層より高くなっている。

<図表3-1-3-4 現在の業種>



<図表3-1-3-5 現在の業種(世帯主の年齢別)>



(3) 現在の就業先

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

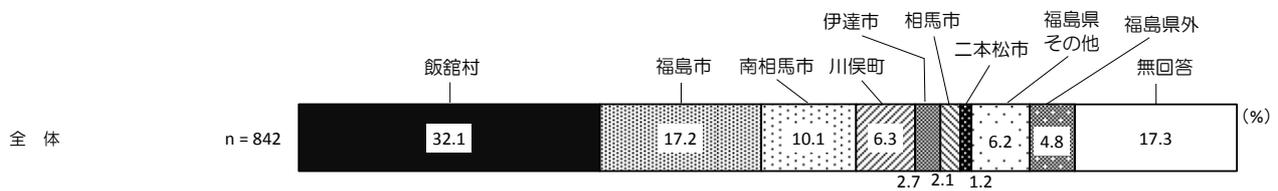
【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

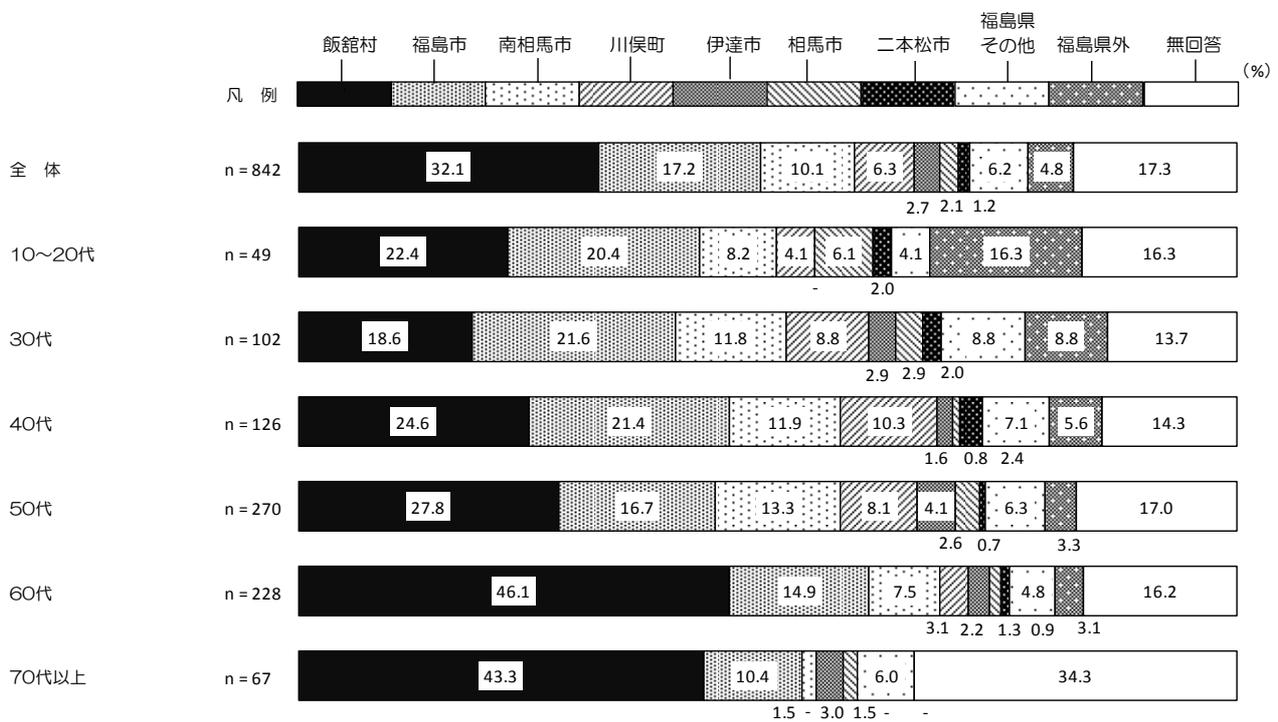
世帯主が就業しているとした世帯の現在の就業先自治体については、「飯舘村」が32.1%と最も高く、次いで「福島市」が17.2%、「南相馬市」が10.1%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「飯舘村」は、概ね年齢が高くなるに従い割合が高くなり、60代(46.1%)、70代以上(43.3%)で4割を超えている。

<図表3-1-3-6 現在の就業先>



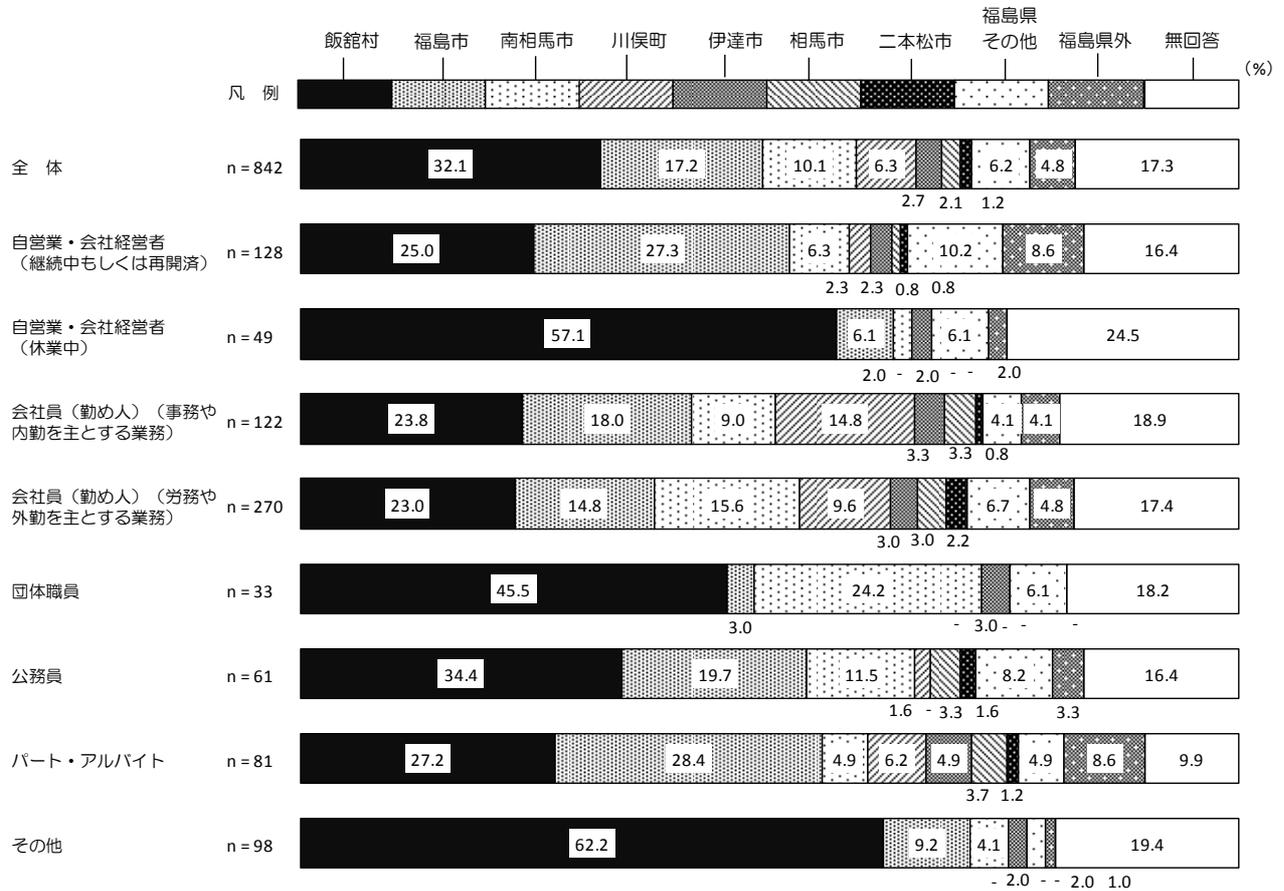
<図表3-1-3-7 現在の就業先(世帯主の年齢別)>



### Ⅲ 調査結果

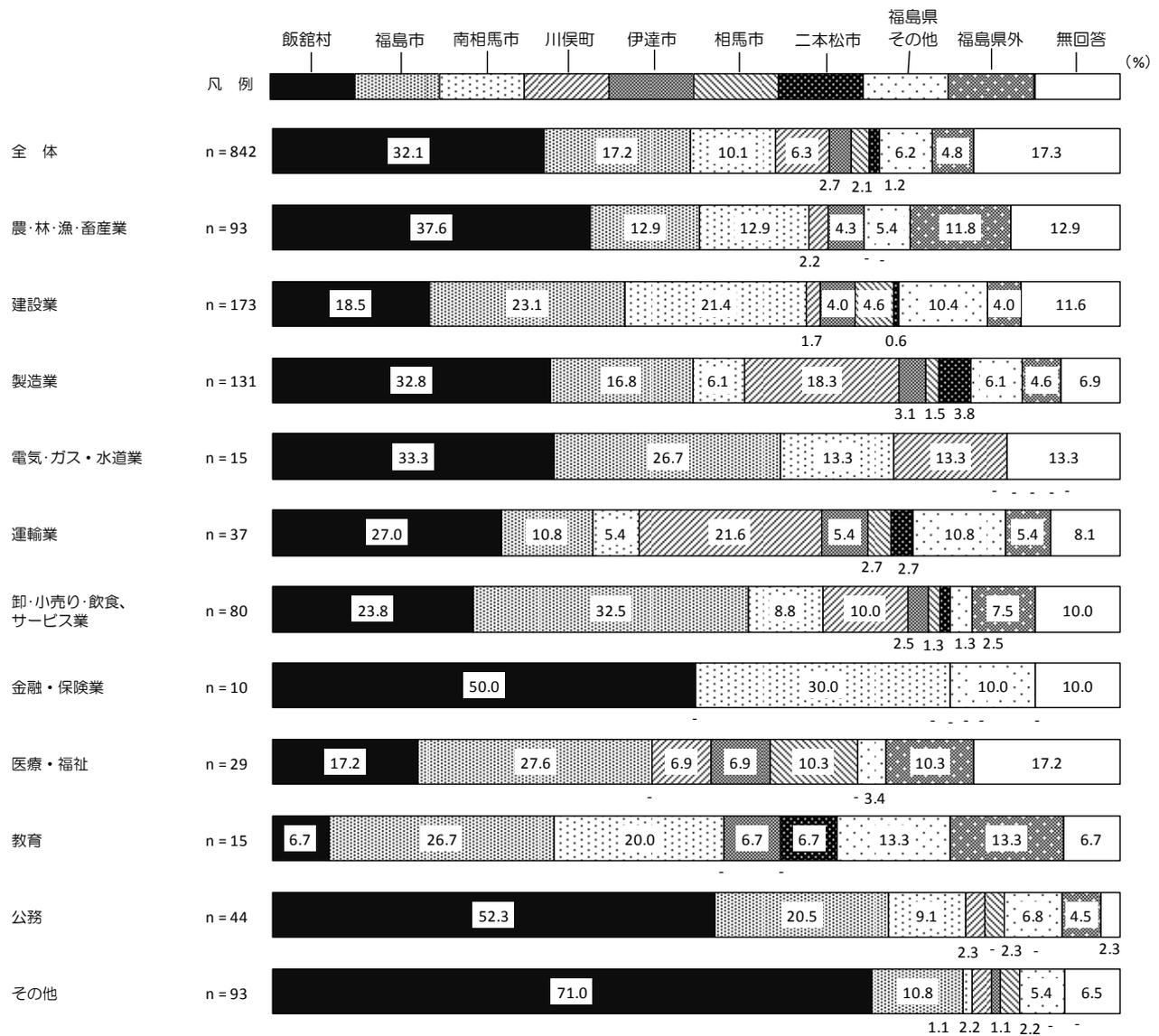
世帯主が就業しているとした世帯について、現在の職業別にみると、「飯舘村」は自営業・会社経営者（休業中）で57.1%と他の職業に比べ高くなっている。また、「福島市」は、パート・アルバイトが28.4%、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）が27.3%と、他の職業に比べて高くなっている。

<図表3-1-3-8 現在の就業先（現在の職業別）>



世帯主が就業しているとした世帯について、現在の業種別にみると、「福島市」は卸・小売り・飲食、サービス業（32.5%）、建設業（23.1%）で、「南相馬市」は建設業（21.4%）で、他の職業と比べて高くなっている。

＜図表3-1-3-9 現在の就業先（現在の業種別）＞



(4) 震災発生当時の職業（就業形態）

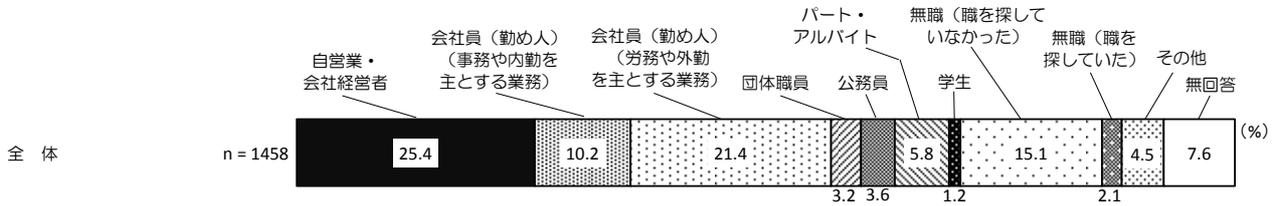
問5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

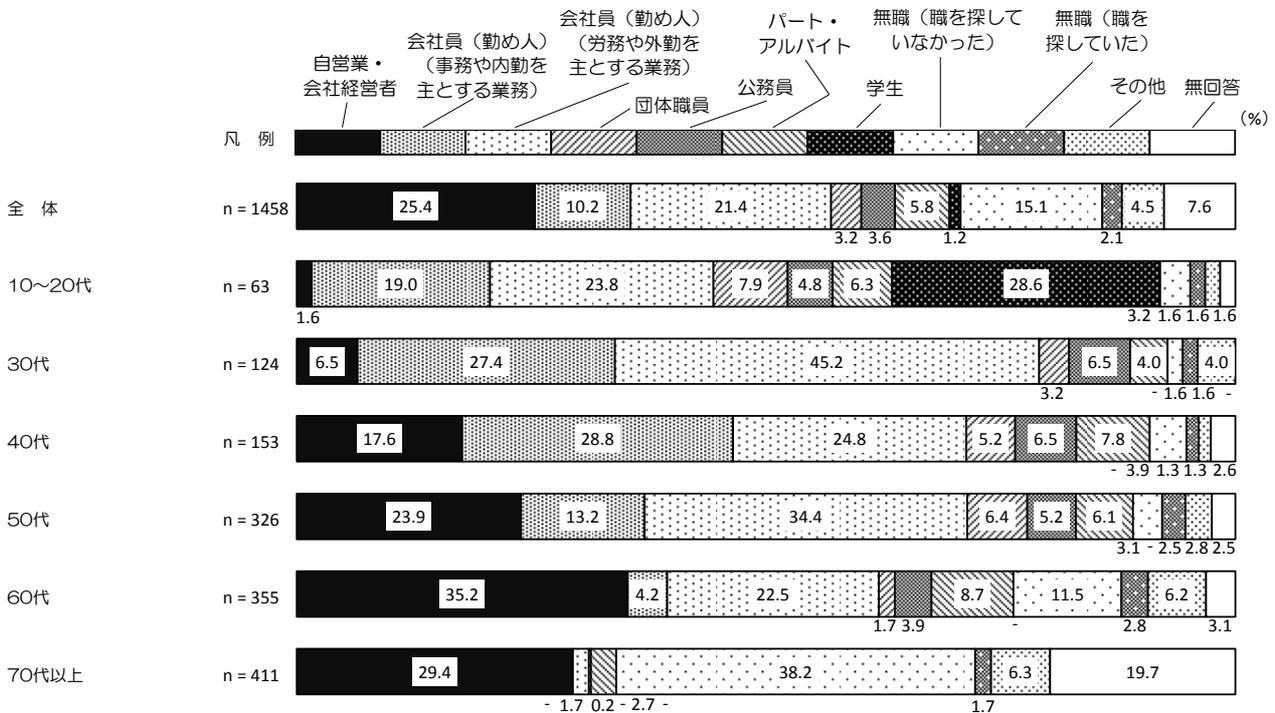
震災発生当時の職業については、「自営業・会社経営者」が25.4%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が21.4%、「無職（職を探していなかった）」が15.1%となっている。

世帯主の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるに従って「自営業・会社経営者」の割合が高く、60代では35.2%となっている。また「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が、30代で45.2%と高くなっている。

<図表3-1-3-10 震災発生当時の職業>



<図表3-1-3-11 震災発生当時の職業（世帯主の年齢別）>



(5) 震災発生当時の業種

問5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

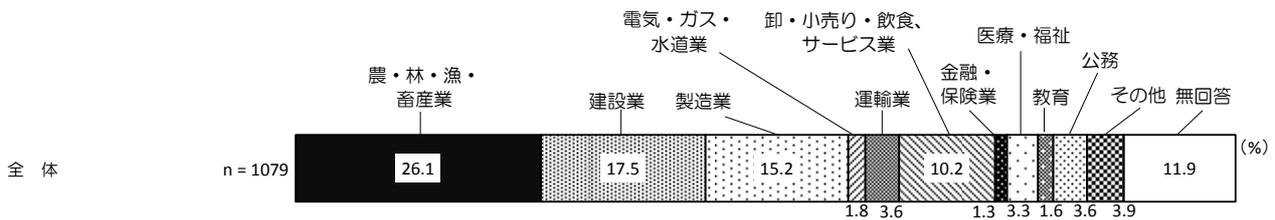
【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

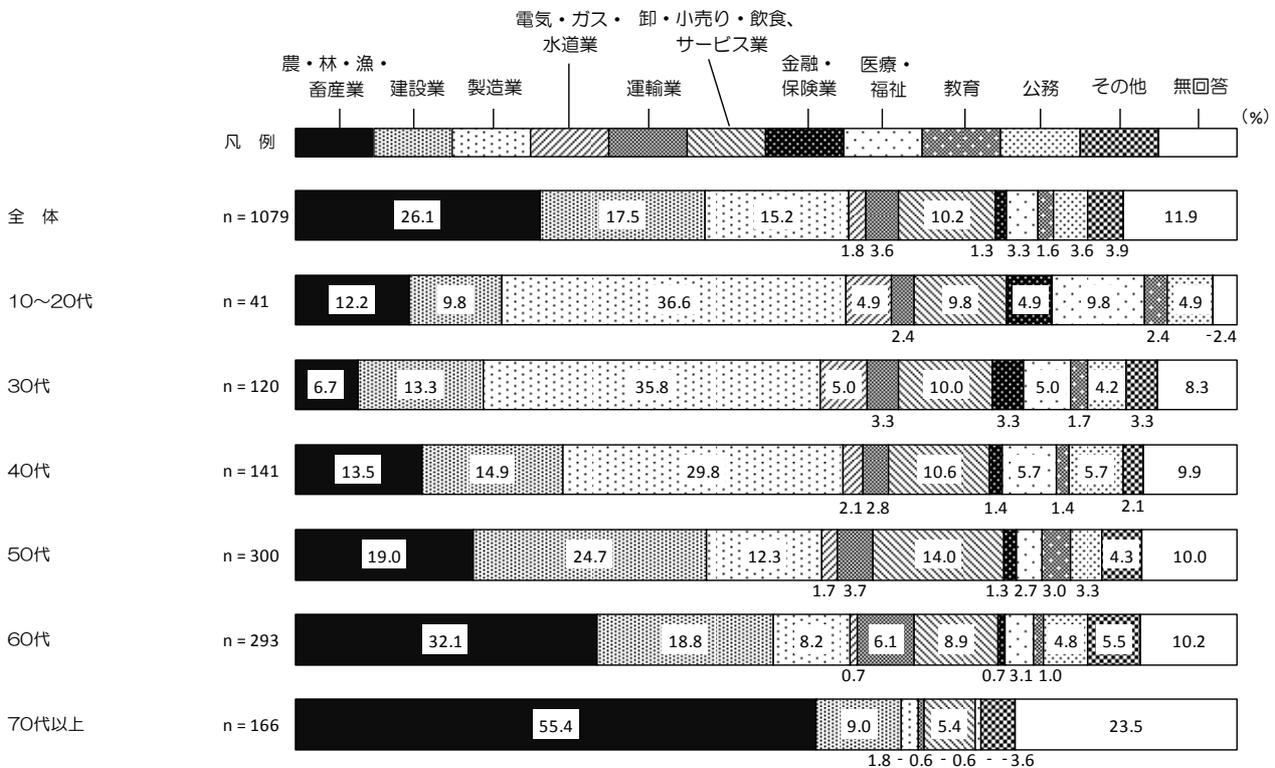
震災発生当時の業種については、「農・林・漁・畜産業」が26.1%と最も高く、次いで「建設業」が17.5%、「製造業」が15.2%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「農・林・漁・畜産業」は、概ね年齢が高くなるに従ってその割合が高く、70代以上で55.4%となっている。一方、「製造業」は年齢が高くなるに従い、その割合は低くなっている。

<図表3-1-3-12 震災発生当時の業種>



<図表3-1-3-13 震災発生当時の業種(世帯主の年齢別)>



(6) 震災発生当時の就業先

問5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

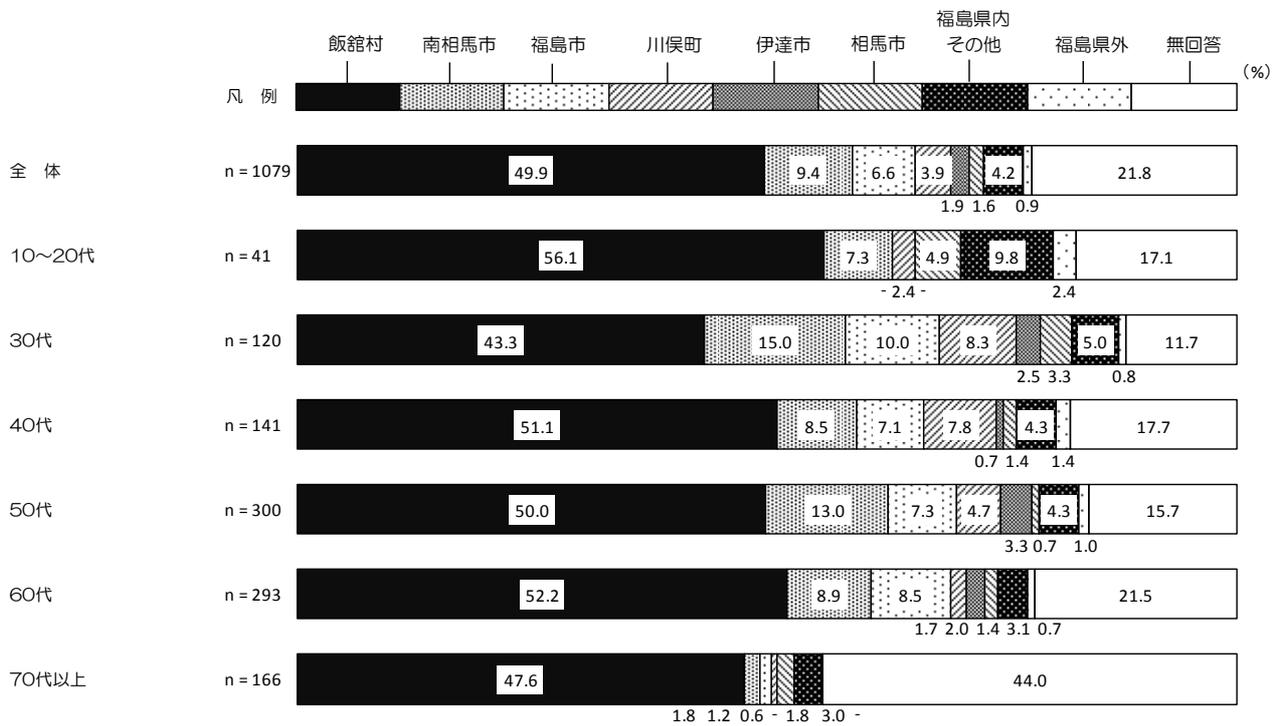
震災発生当時の就業先自治体については、「飯舘村」が49.9%と最も高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、「飯舘村」がいずれの年齢層でも最も高く、概ねいずれの年齢層でも5割前後を占めている。

<図表3-1-3-14 震災発生当時の就業先>



<図表3-1-3-15 震災発生当時の就業先(世帯主の年齢別)>



### 3-1-4 住居形態

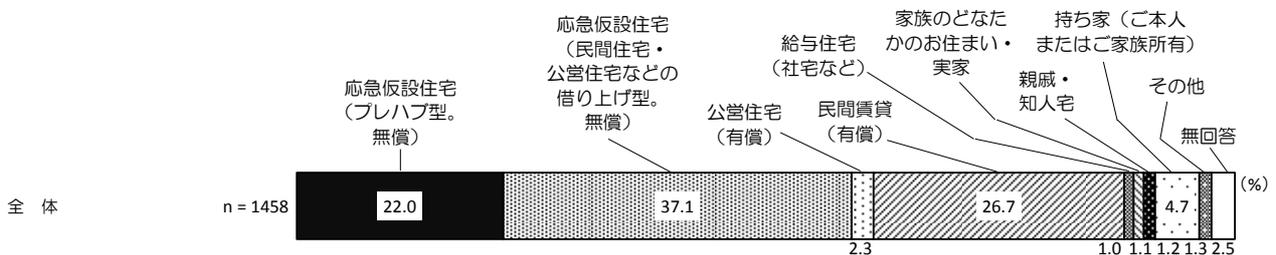
#### (1) 現在の住居形態

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

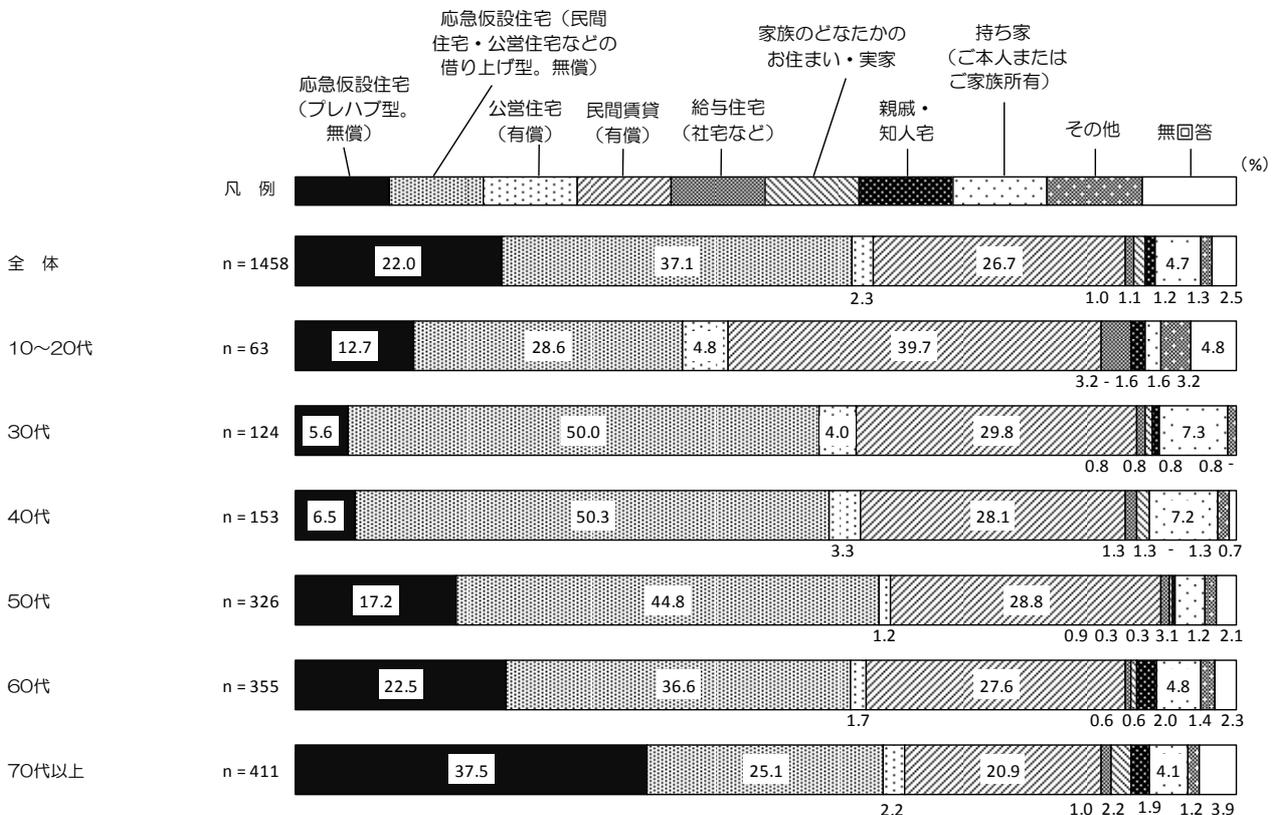
現在の住居形態については、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が37.1%と最も高く、次いで「民間賃貸（有償）」が26.7%、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」が22.0%となっている。「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」と「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」を合わせた「応急仮設住宅」は59.1%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が概ね最も高くなっているが、10～20代では「民間賃貸（有償）」が39.7%と最も高くなっている。

<図表3-1-4-1 現在の住居形態>



<図表3-1-4-2 現在の住居形態（世帯主の年齢別）>

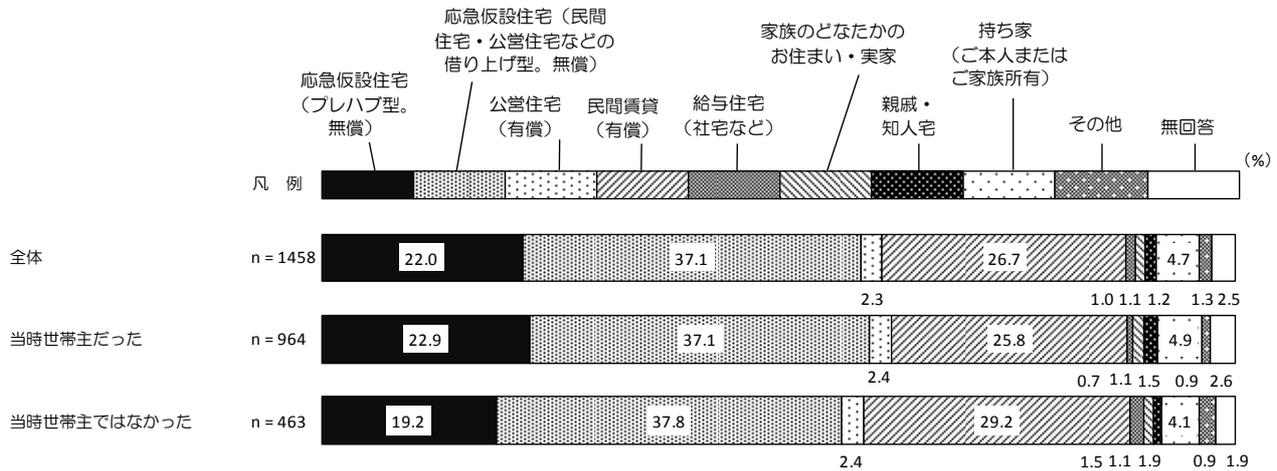


### III 調査結果

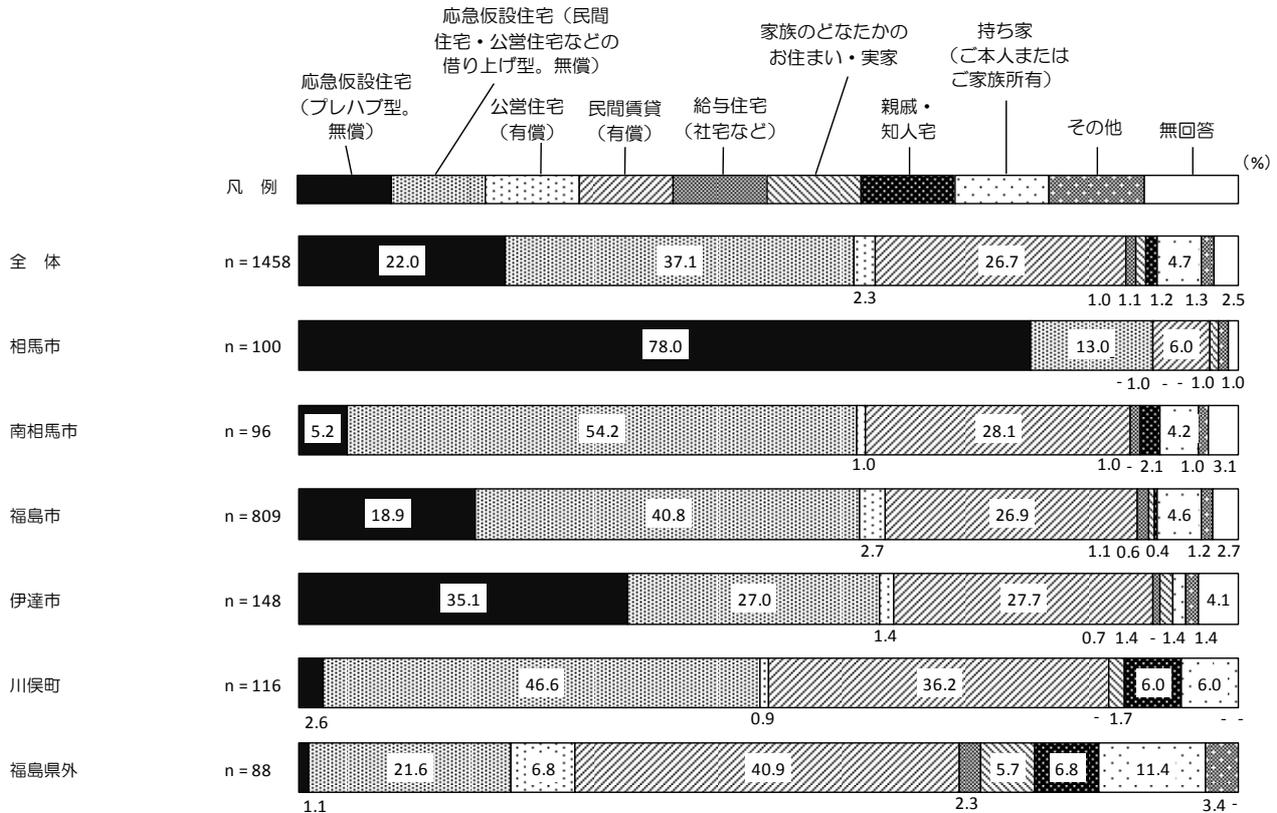
震災発生当時の世帯での立場別にみると、「民間賃貸（有償）」は、当時世帯主ではなかったという世帯で29.2%とやや高くなっているものの、全体の傾向と同様となっている。

主な避難先の自治体別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、南相馬市（54.2%）、川俣町（46.6%）で5割前後と他の自治体と比べて高くなっている。また、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、相馬市（78.0%）で8割弱を占めている。

<図表3-1-4-3 現在の住居形態（震災発生当時の世帯での立場別）>



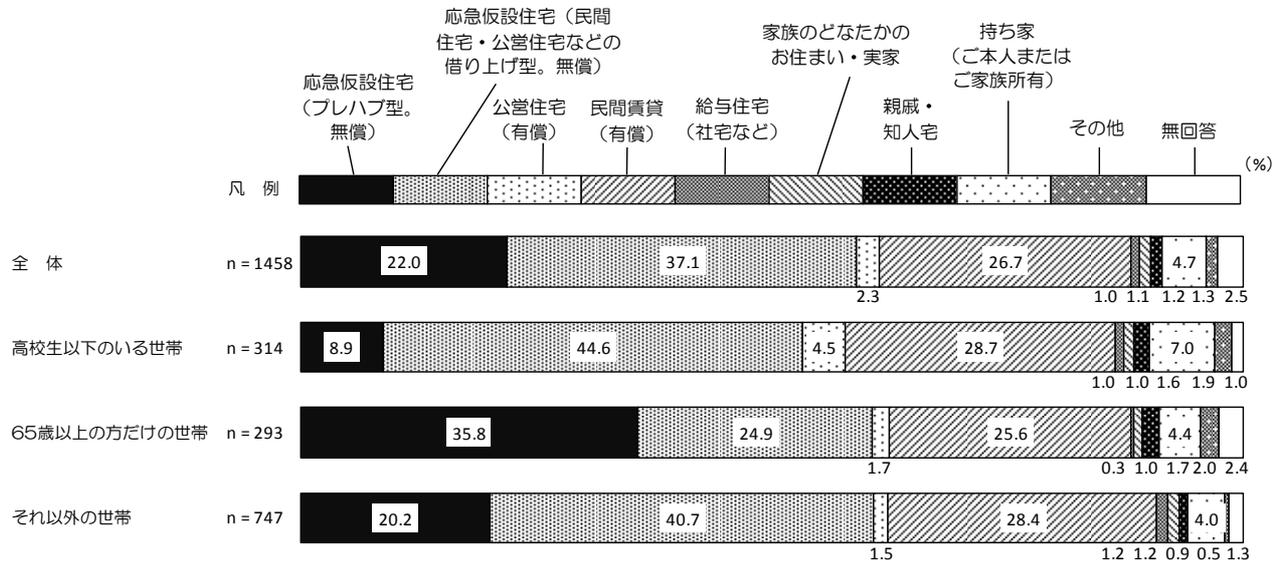
<図表3-1-4-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



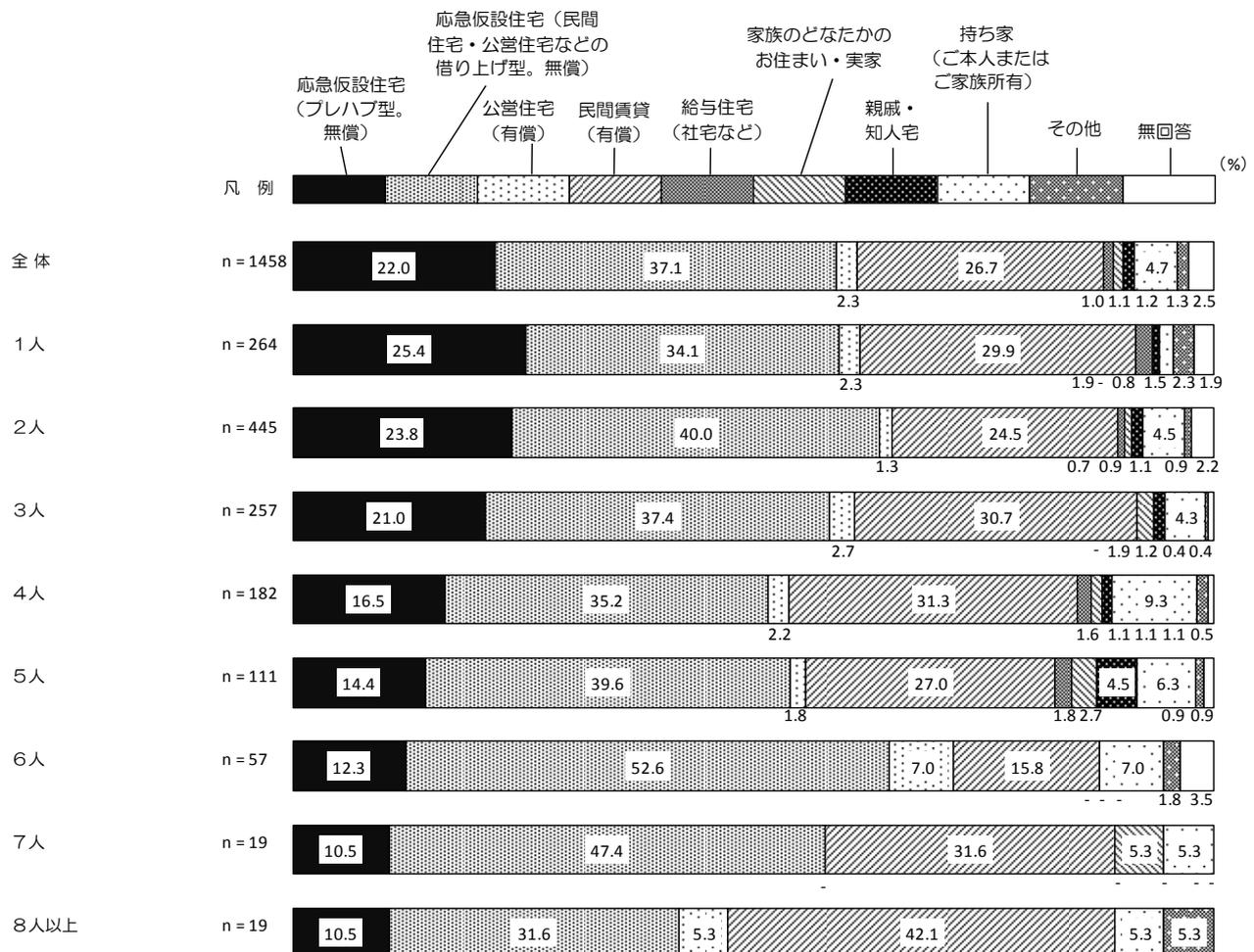
現在の世帯構成別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、高校生以下のいる世帯では44.6%となっており、一方「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は65歳以上の方だけの世帯」が35.8%で、他の世帯構成と比べ高くなっている。

現在の世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」はいずれの世帯人数でも最も高くなっている。

<図表3-1-4-5 現在の住居形態（現在の世帯構成別）>



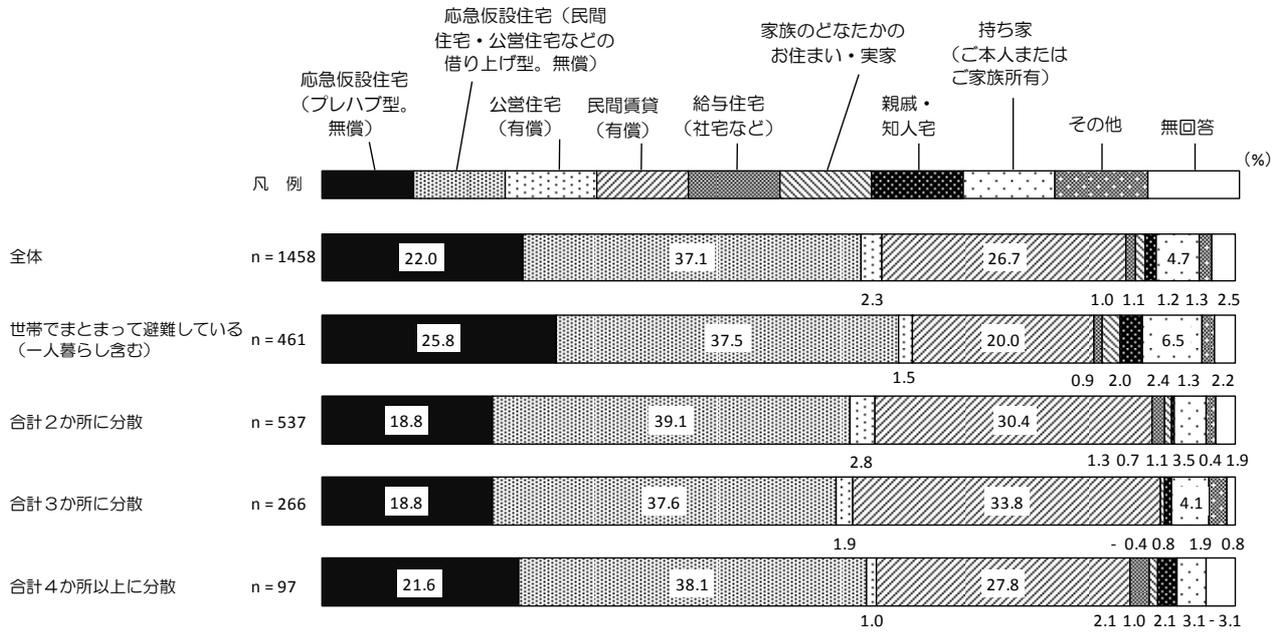
<図表3-1-4-6 現在の住居形態（現在の世帯人数別）>



### III 調査結果

世帯の分散状況別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）という世帯で25.8%と、他の分散状況に比べてやや高くなっている。

<図表3-1-4-7 現在の住居形態（世帯の分散状況別）>



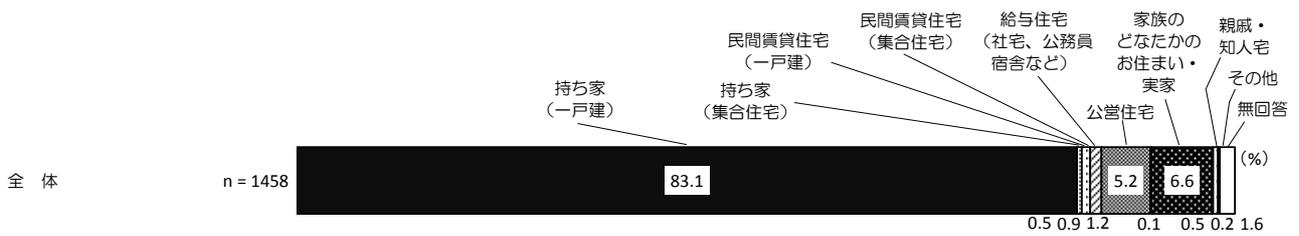
(2) 震災発生当時の住居形態

問6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

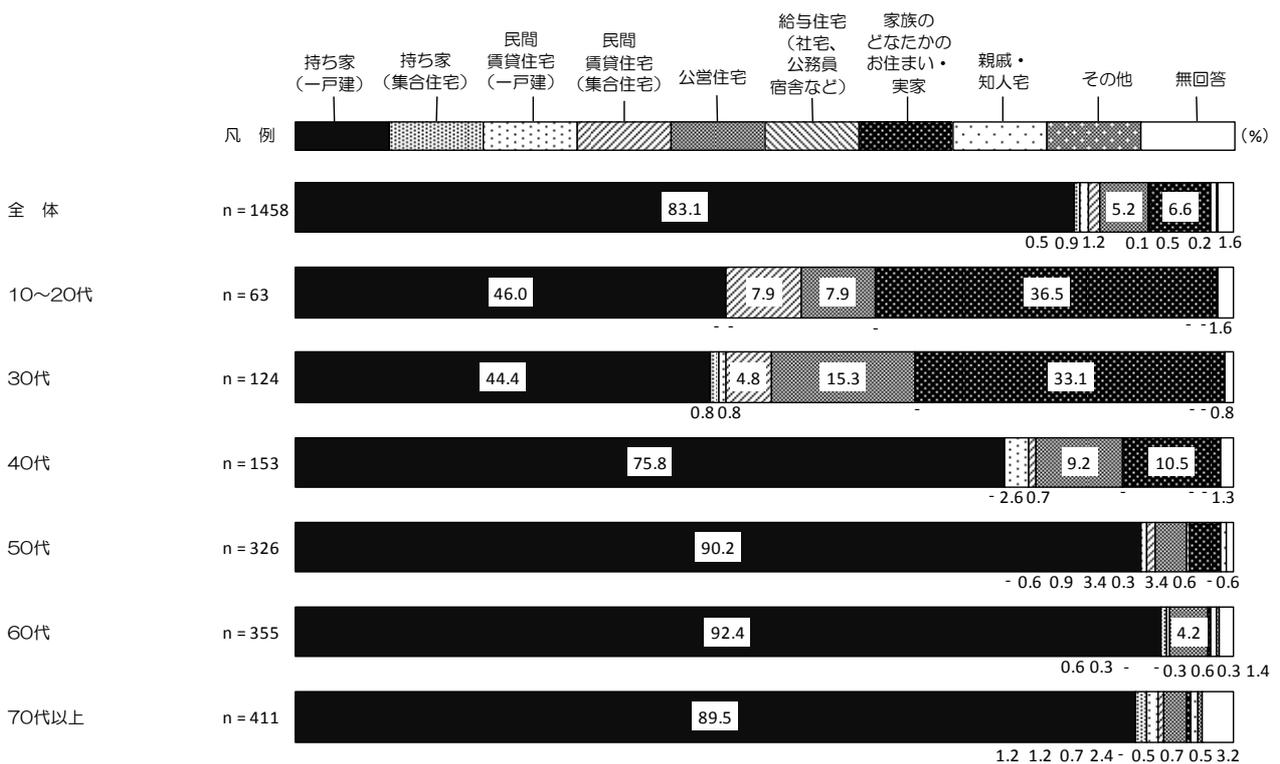
震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が83.1%と最も高く、8割を超えている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は、概ね年齢が高くなるに従って割合も高くなり、50代以上では9割程度を占めている。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高くなっており、10～20代で36.5%、30代で33.1%となっている。

<図表3-1-4-8 震災発生当時の住居形態>



<図表3-1-4-9 震災発生当時の住居形態（世帯主の年齢別）>



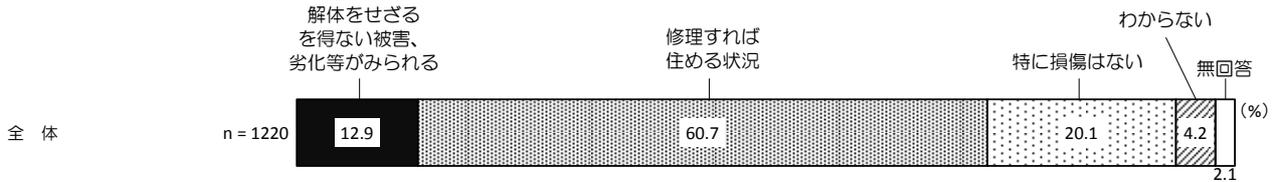
(3) 震災発生当時の住宅の状況

【問6で「1.持ち家（一戸建）」「2.持ち家（集合住宅）」と回答した方にうかがいます。】

問6-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。（〇は1つ）

震災発生当時の住宅の状況については、「修理すれば住める状況」が60.7%と最も高く、次いで「特に損傷はない」が20.1%、「解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」が12.9%となっている。

＜図表3-1-4-10 震災発生当時の住宅の状況＞



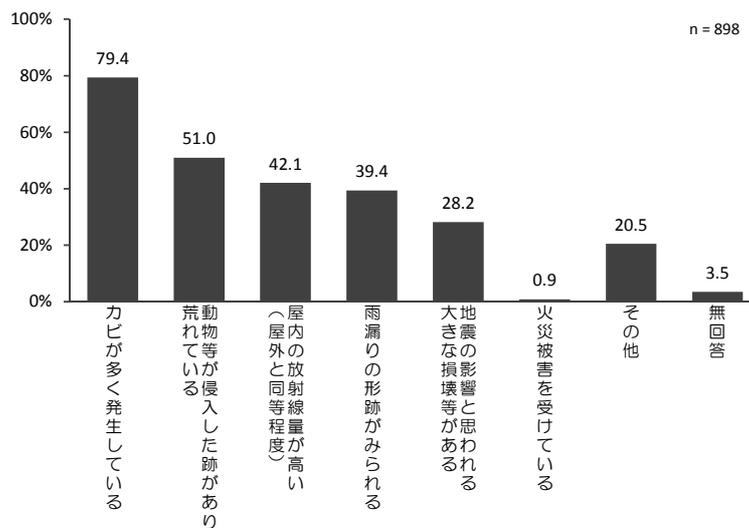
(4) 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容

【問6-1で「1.解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2.修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

問6-2 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。（〇はいくつでも）

震災発生当時の住宅の具体的な被害内容については、「カビが多く発生している」が79.4%と最も高く、次いで「動物等が侵入した跡があり荒れている」が51.0%、「屋内の放射線量が高い（屋外と同等程度）」が42.1%などとなっている。

＜図表3-1-4-11 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容＞



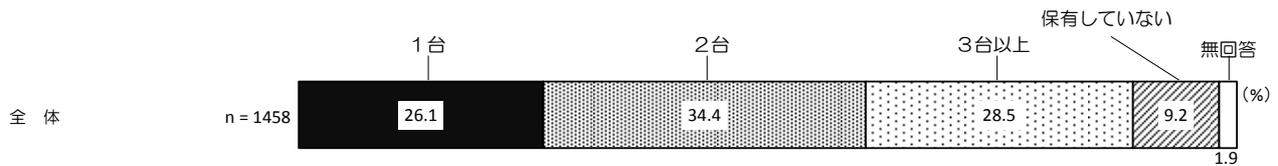
### 3-1-5 自動車保有

問 10 現在、自動車は何台保有していますか。(〇は1つ)

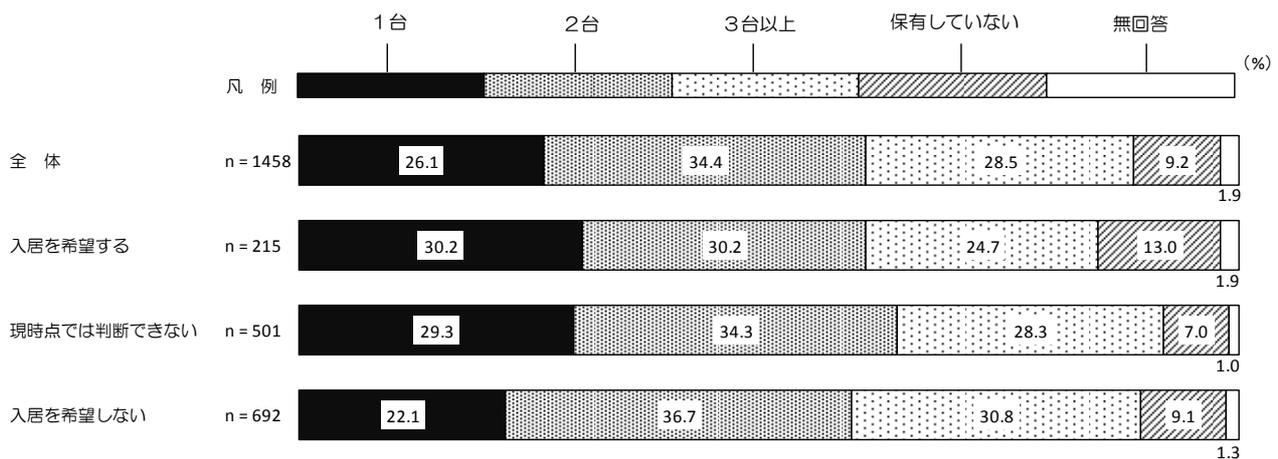
自動車保有については、「1台」が26.1%、「2台」が34.4%、「3台以上」が28.5%、「保有していない」が9.2%となっている。

復興公営住宅への入居希望別にみると、「2台以上」は、入居を希望する世帯が54.9%、入居を希望しない世帯が67.5%となっており、入居を希望しない世帯の方が自動車を2台以上保有している割合が高くなっている。

<図表3-1-5-1 自動車保有>



<図表3-1-5-2 自動車保有（復興公営住宅への入居希望別）>



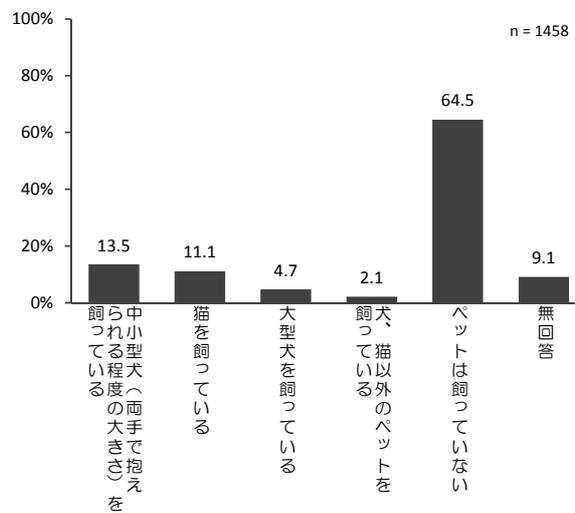
3-1-6 ペットの有無

問 11 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

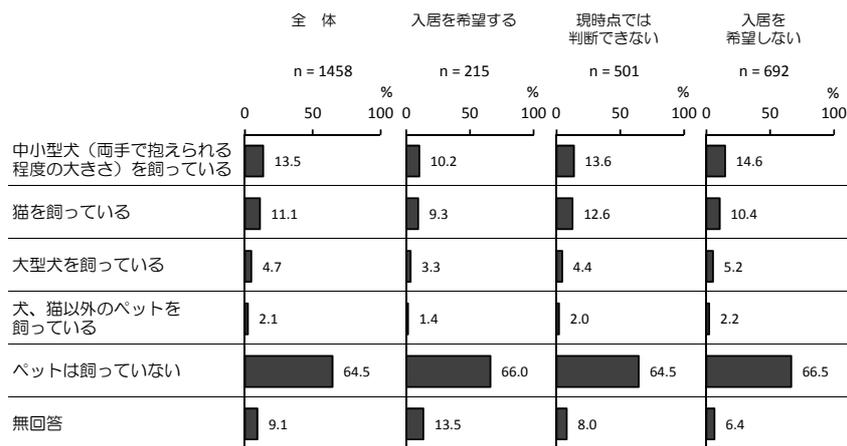
ペットの有無については、「中小型犬（両手で抱えられる程度の大きさ）を飼っている」が13.5%、「猫を飼っている」が11.1%、「大型犬を飼っている」が4.7%となり、「ペットは飼っていない」は64.5%となっている。

復興公営住宅への入居希望別にみると、入居希望により傾向の違いはみられないものの、「中小型犬（両手で抱えられる程度の大きさ）を飼っている」は、入居を希望する世帯で10.2%となるのに対し、入居を希望しない世帯で14.6%とやや高くなっている。

<図表3-1-6-1 ペットの有無>



<図表3-1-6-2 ペットの有無（復興公営住宅への入居希望別）>



## 3-2 復興公営住宅の入居意向

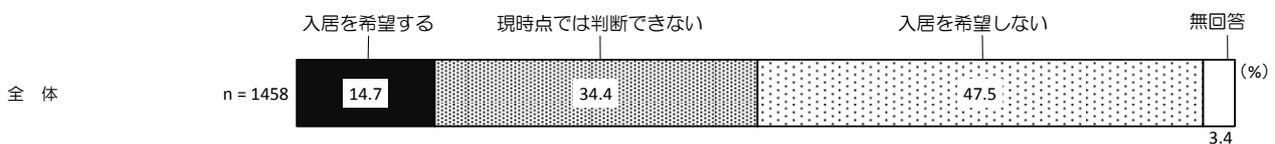
### 3-2-1 復興公営住宅への入居希望

問 12 現在、福島県、飯舘村では上記の通り、復興公営住宅の整備を予定しています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(〇は1つ)

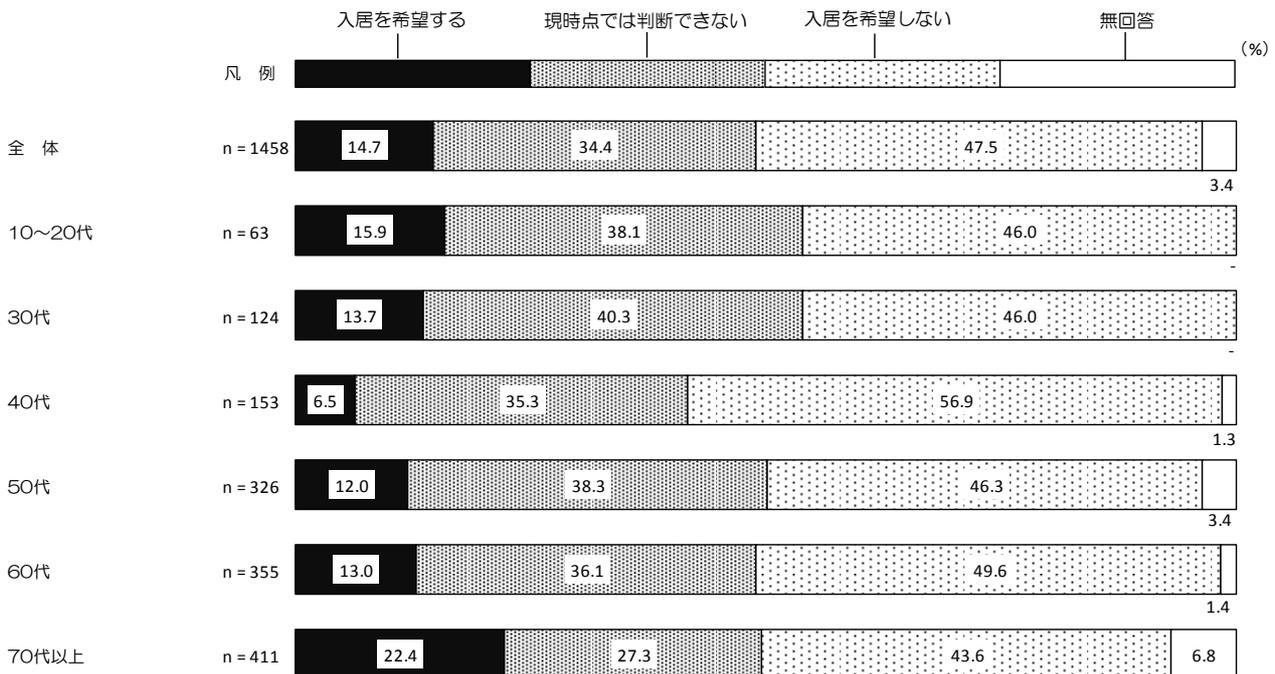
復興公営住宅への入居希望については、「入居を希望しない」が47.5%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が34.4%、「入居を希望する」は14.7%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「入居を希望しない」がいずれの年齢層でも最も高くなっているが、70代以上では「入居を希望する」が22.4%と、他の年齢層に比べてやや高くなっている。

<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居希望>



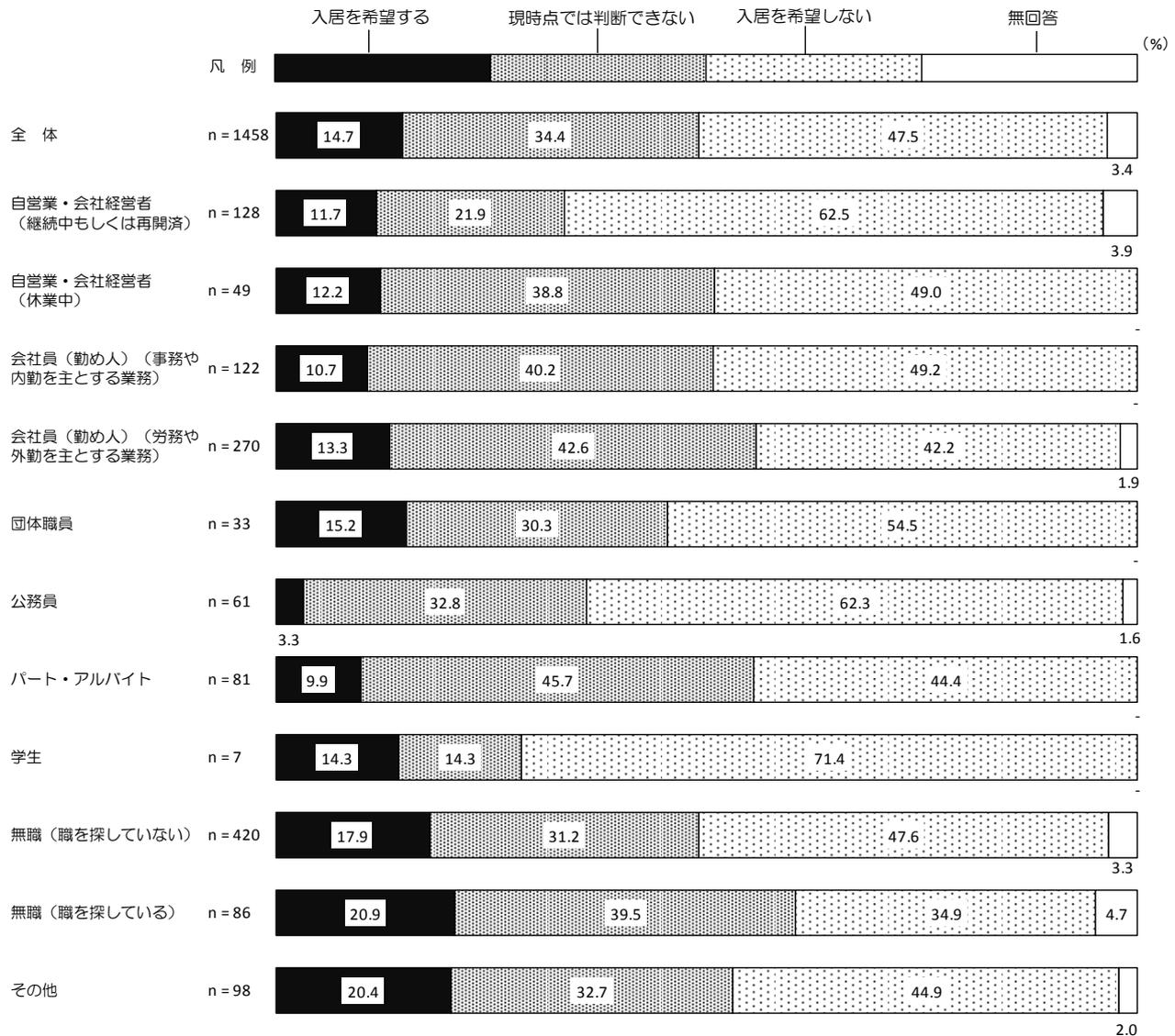
<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居希望（世帯主の年齢別）>



### Ⅲ 調査結果

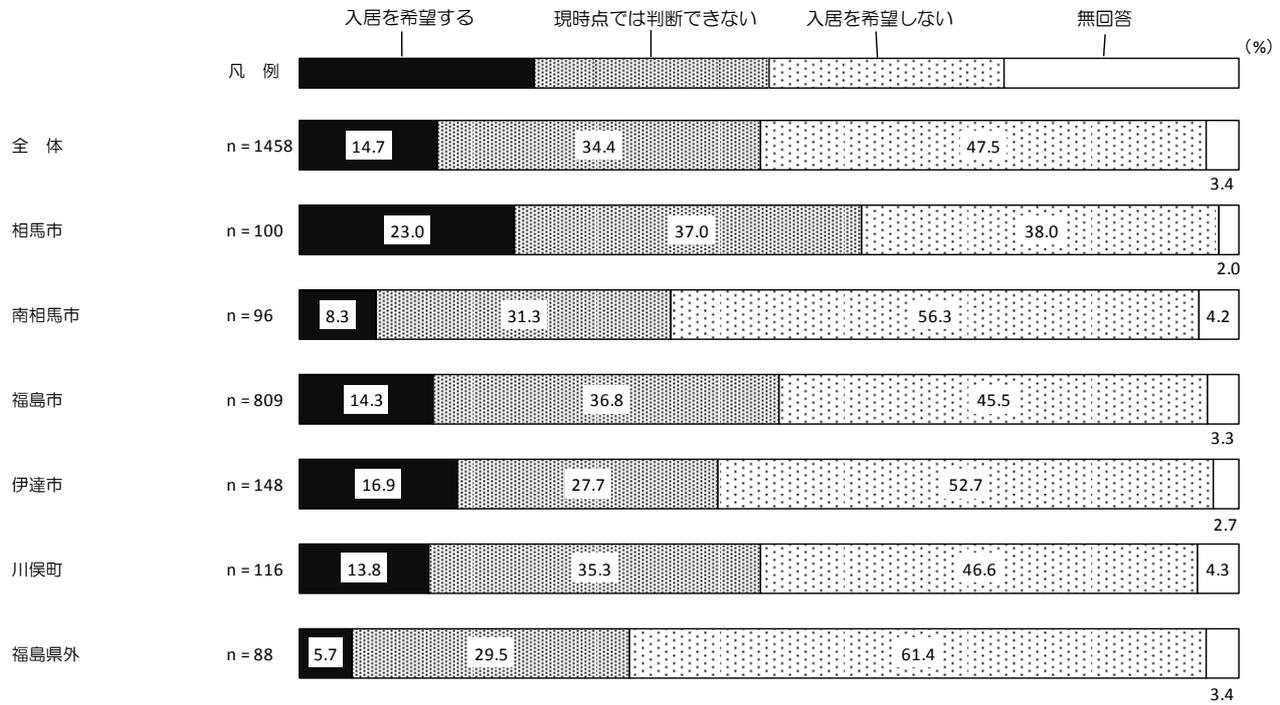
現在の職業別にみると、「入居を希望する」は、無職（職を探している）（20.9%）、無職（職を探していない）（17.9%）で2割程度となり、他の職業と比べてやや高くなっている。

<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居希望（現在の職業別）>



主な避難先自治体別にみると、「入居を希望する」は、相馬市（23.0%）で2割を超え他の自治体に比べて高くなっている。

<図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居希望（主な避難先自治体別）>

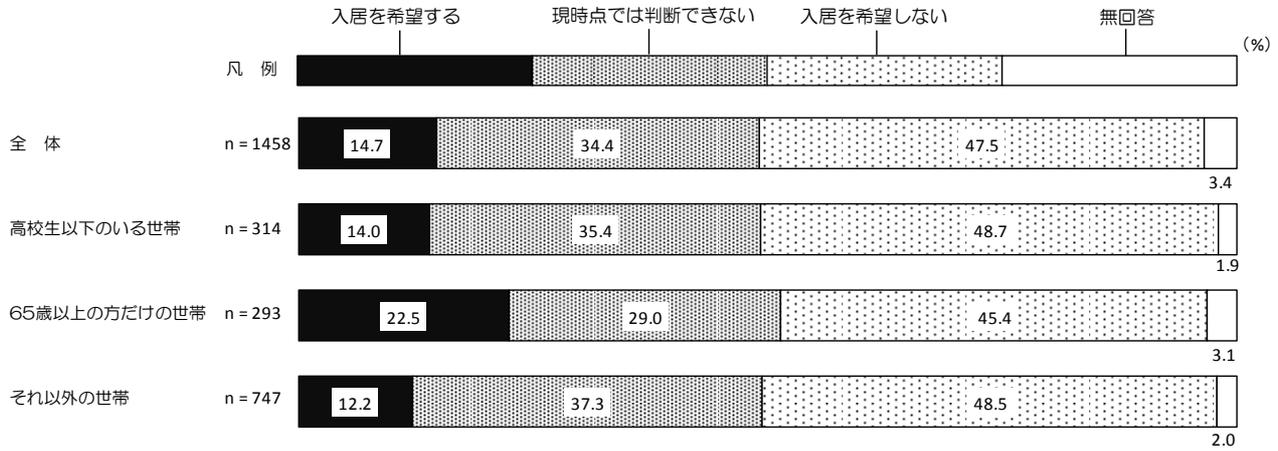


### Ⅲ 調査結果

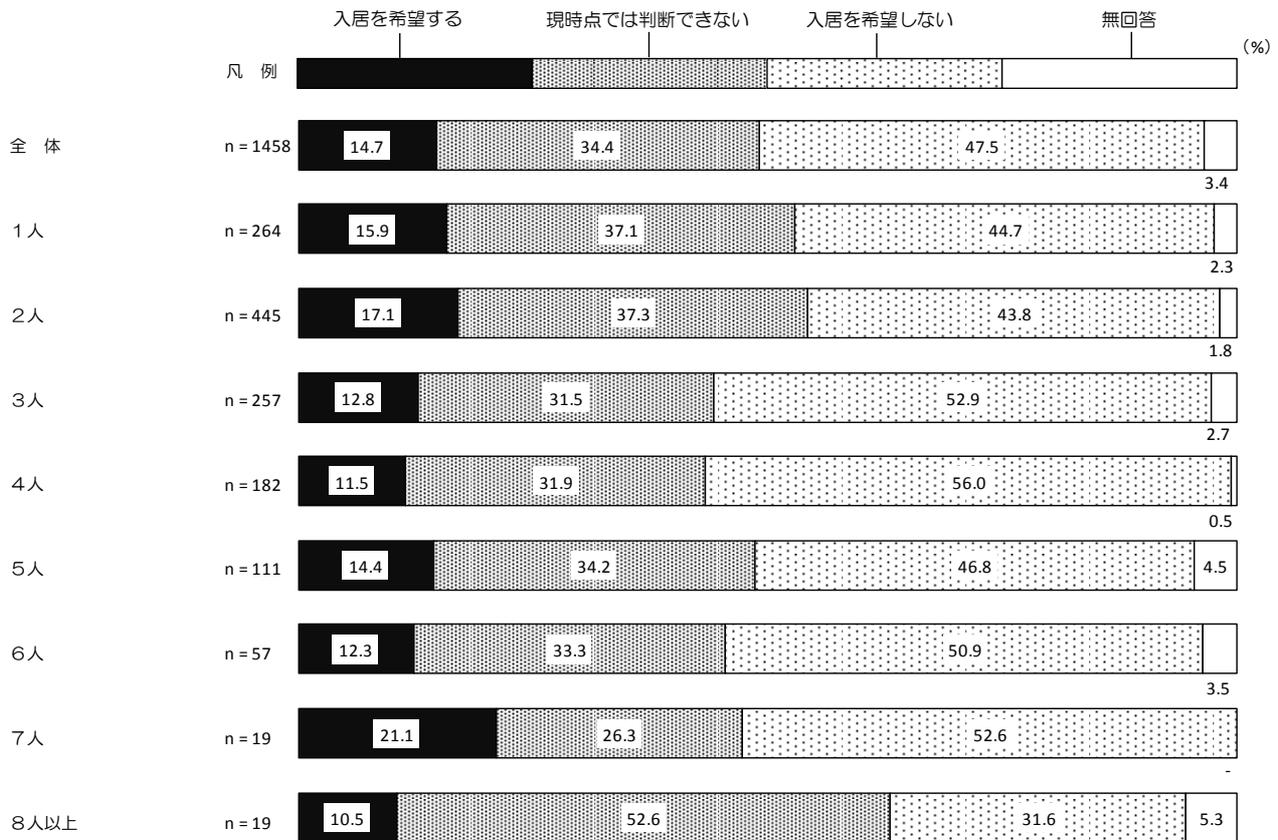
現在の世帯構成別にみると、65歳以上の方だけの世帯では「入居を希望する」が22.5%で、他の世帯構成に比べて高くなっている。

現在の世帯人数別にみると、「入居を希望しない」は3人（52.9%）、4人（56.0%）などで5割を超えている。

＜図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居希望（現在の世帯構成別）＞

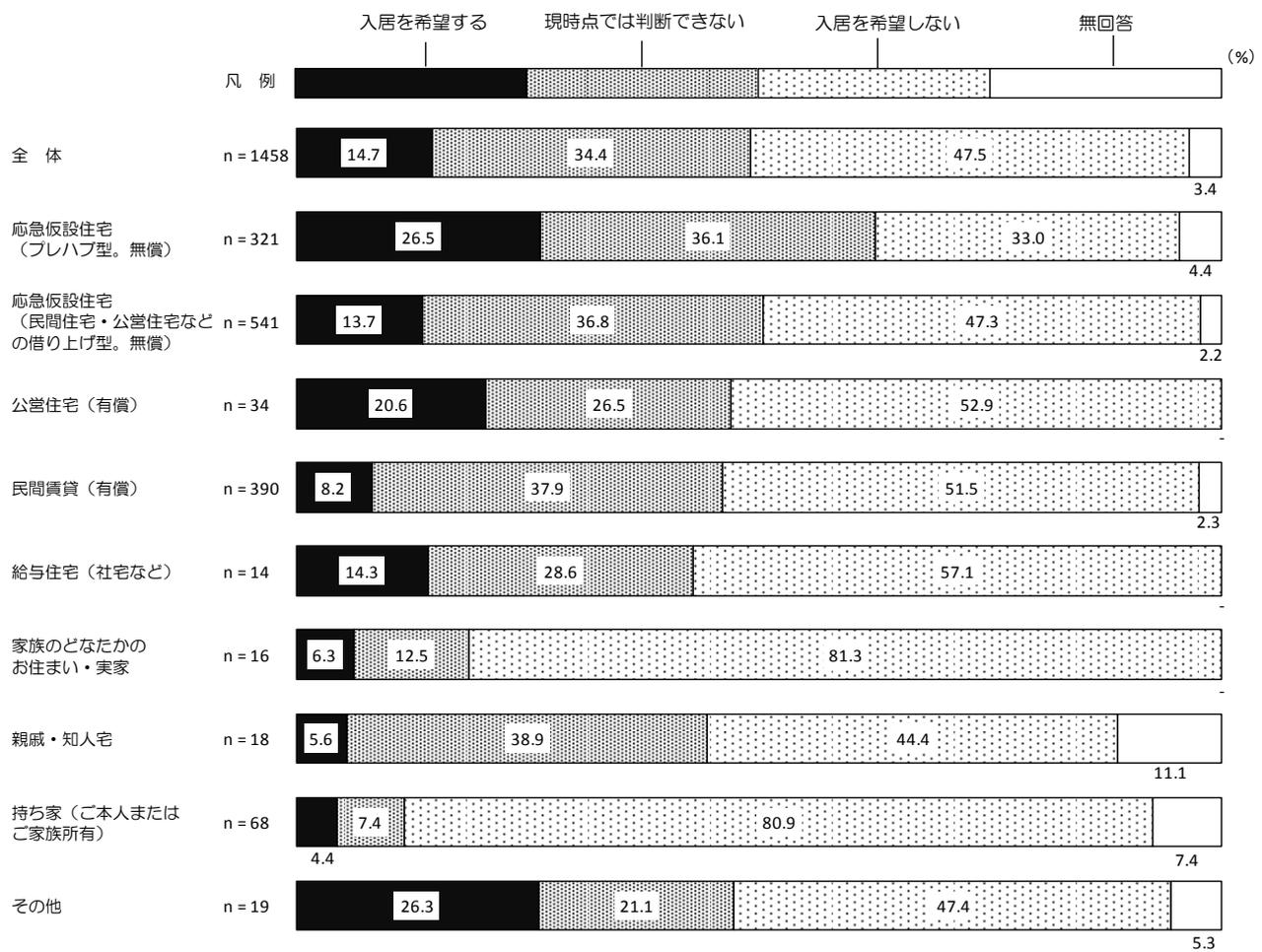


＜図表3-2-1-6 復興公営住宅への入居希望（現在の世帯人数別）＞



現在の住居形態別にみると、「入居を希望する」は応急仮設住宅（プレハブ型。無償）（26.5%）で、他の住居形態に比べて高くなっている。

<図表3-2-1-7 復興公営住宅への入居希望（現在の住居形態別）>



### 3-2-2 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由

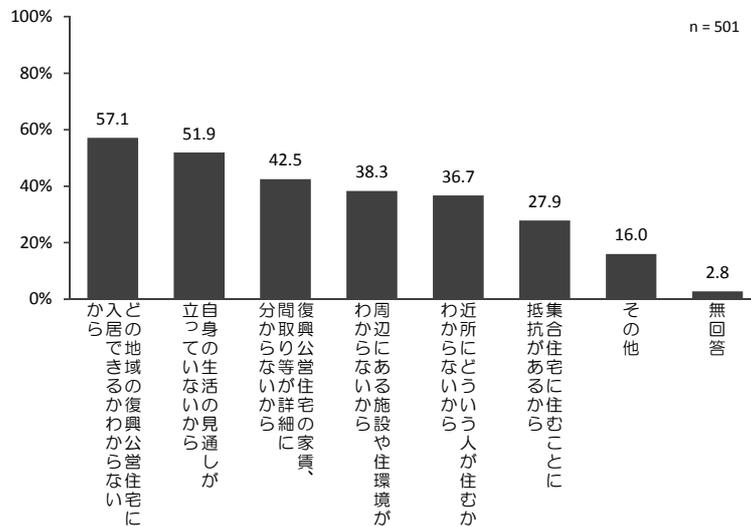
【問 12 で「2.現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

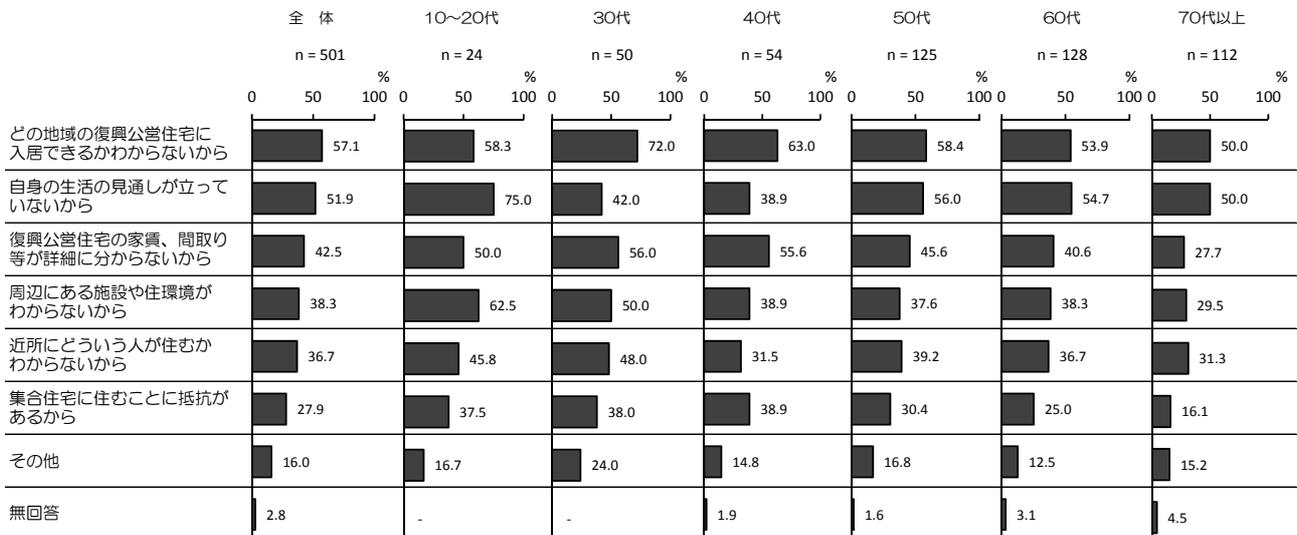
復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由については、「どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから」が 57.1%と最も高く、次いで「自身の生活の見通しが立っていないから」が 51.9%、「復興公営住宅の家賃、間取り等が詳細に分からないから」が 42.5%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、「どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから」は、30代では 72.0%、40代では 63.0%、「自身の生活の見通しが立っていないから」は、50代では 56.0%、60代では 54.7%、「復興公営住宅の家賃、間取り等が詳細に分からないから」は、30代では 56.0%、40代では 55.6%となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表 3-2-2-1 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由>



<図表 3-2-2-2 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由（世帯主の年齢別）>



### 3-2-3 入居を希望する地域と家族構成

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問12-2 復興公営住宅に入居するに当たって、希望する地域と家族構成をお聞かせください。

<1世帯目>

(1) 最も希望する自治体を教えてください。(〇は1つ)

(2) 家族構成をご記入ください。(人数で回答) ※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

<2世帯目>

分散して入居を希望しない場合は、(3)で「23」を選び、問12-4へ進んでください。

仕事の都合、家族の人数の都合等により分散して入居を希望する場合は、(3)「1」から「22」の中から、最も希望する自治体を選び、(4)にもご回答ください。

(3) 最も希望する自治体を教えてください。(〇は1つ)

(4) 家族構成をご記入ください。(人数で回答) ※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

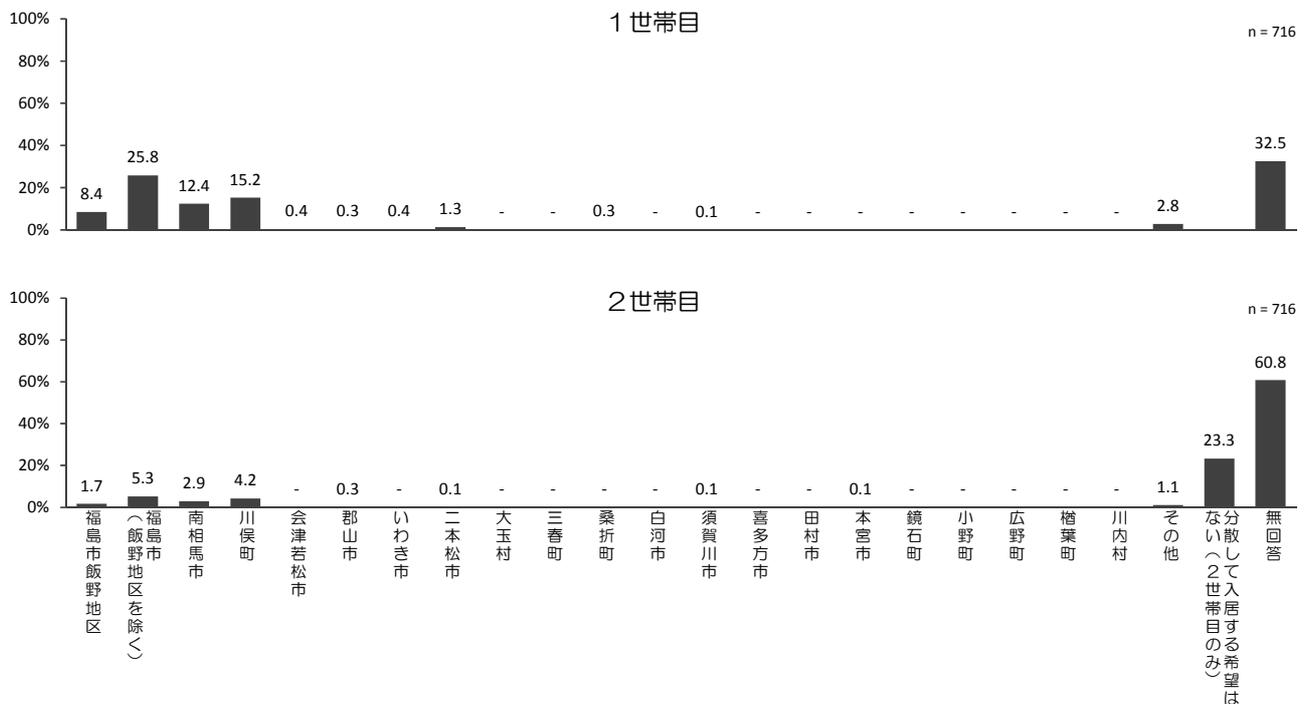
入居を希望する地域<1世帯目>については、「福島市（飯野地区を除く）」が25.8%と最も高く、次いで「川俣町」が15.2%、「南相馬市」が12.4%などとなっている。

<1世帯目>の世帯構成は、高校生以下（「未就学児」、「小学生」、「中学生」、「高校生」）が同居する世帯は1割未満となっている一方、「65歳以上のいる世帯」では40.5%となっている。世帯人数は、「2人」が23.7%と最も高く、次いで「1人」が12.8%、「3人」が11.6%となっている。

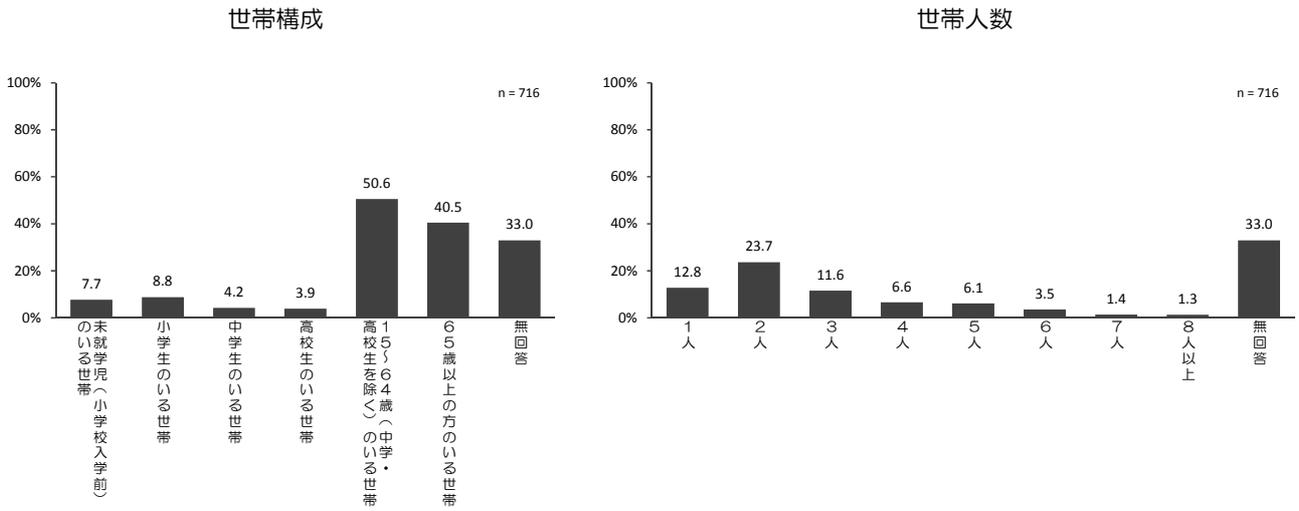
<2世帯目>の入居を希望する地域については、「福島市（飯野地区を除く）」が5.3%と最も高く、次いで「川俣町」が4.2%などとなっており、「分散して入居する希望はない」は23.3%と2割を超えている。

<2世帯目>の世帯構成・人数は、<1世帯目>と同様の傾向にあるが、「15~64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」が56.1%、「65歳以上の方のいる世帯」は44.7%と、1世帯目よりも高くなっている。

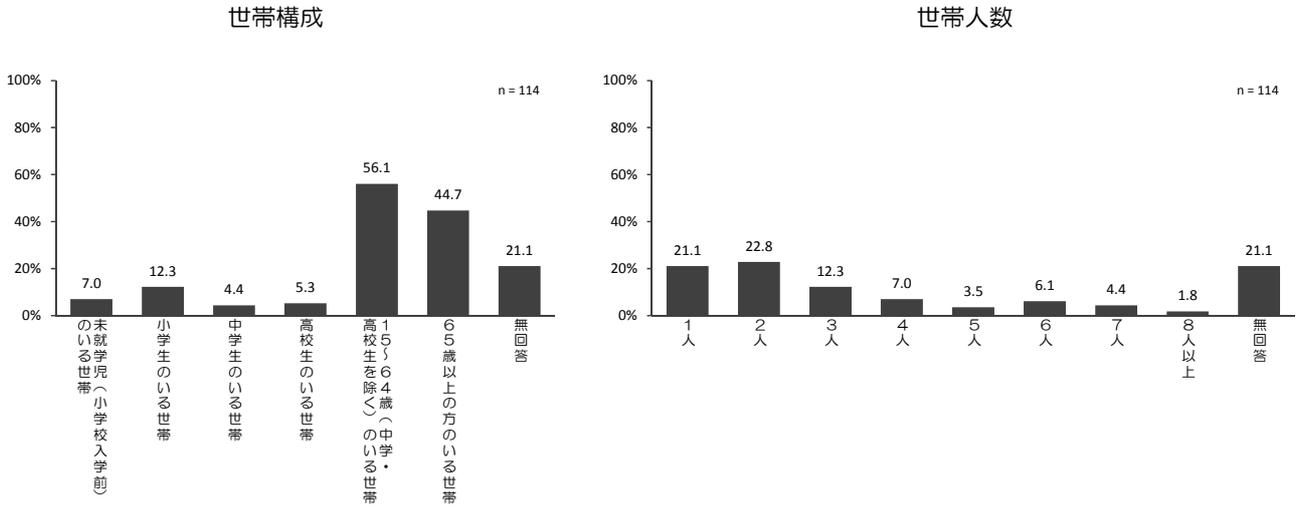
<図表3-2-3-1 入居を希望する地域>



<図表3-2-3-2 入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）>

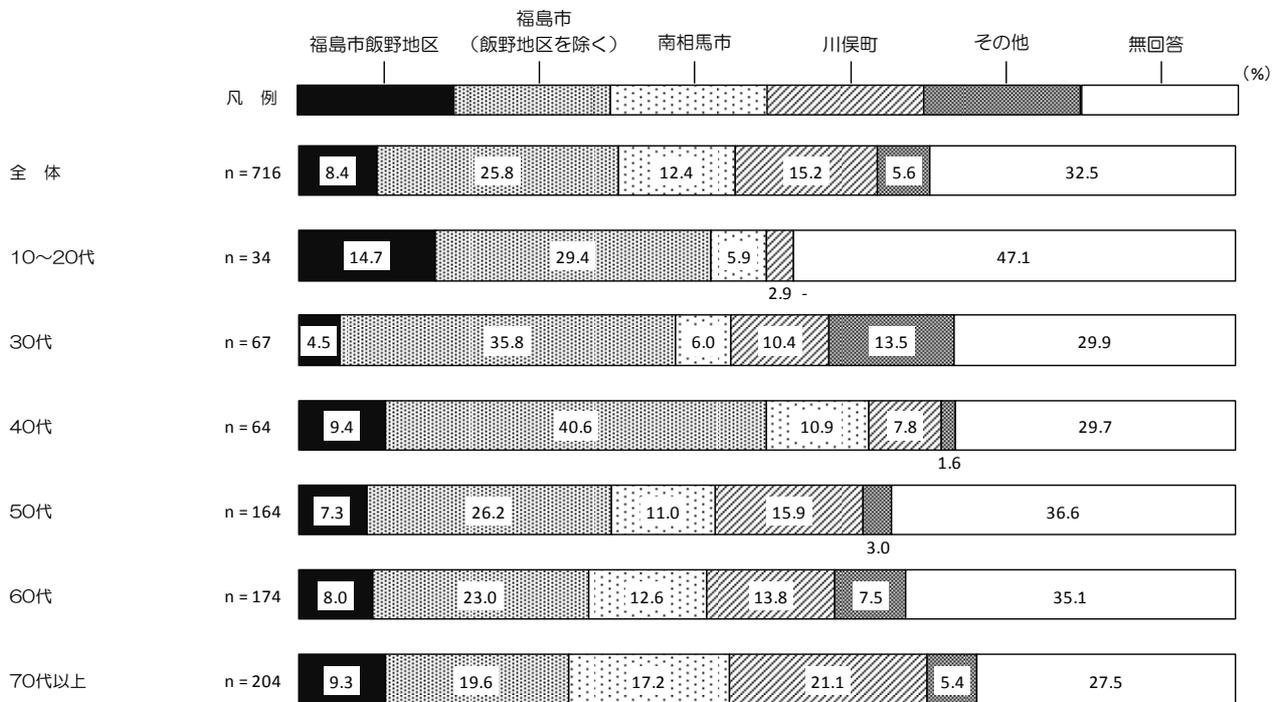


<図表3-2-3-3 入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）>



1世帯目の入居を希望する主な地域について、世帯主の年齢別にみると、「福島市（飯野地区を除く）」は、70代以上を除く年齢層で最も高くなっているが、10～20代では「福島市飯野地区」が14.7%と、他の年齢層に比べて高くなっている。

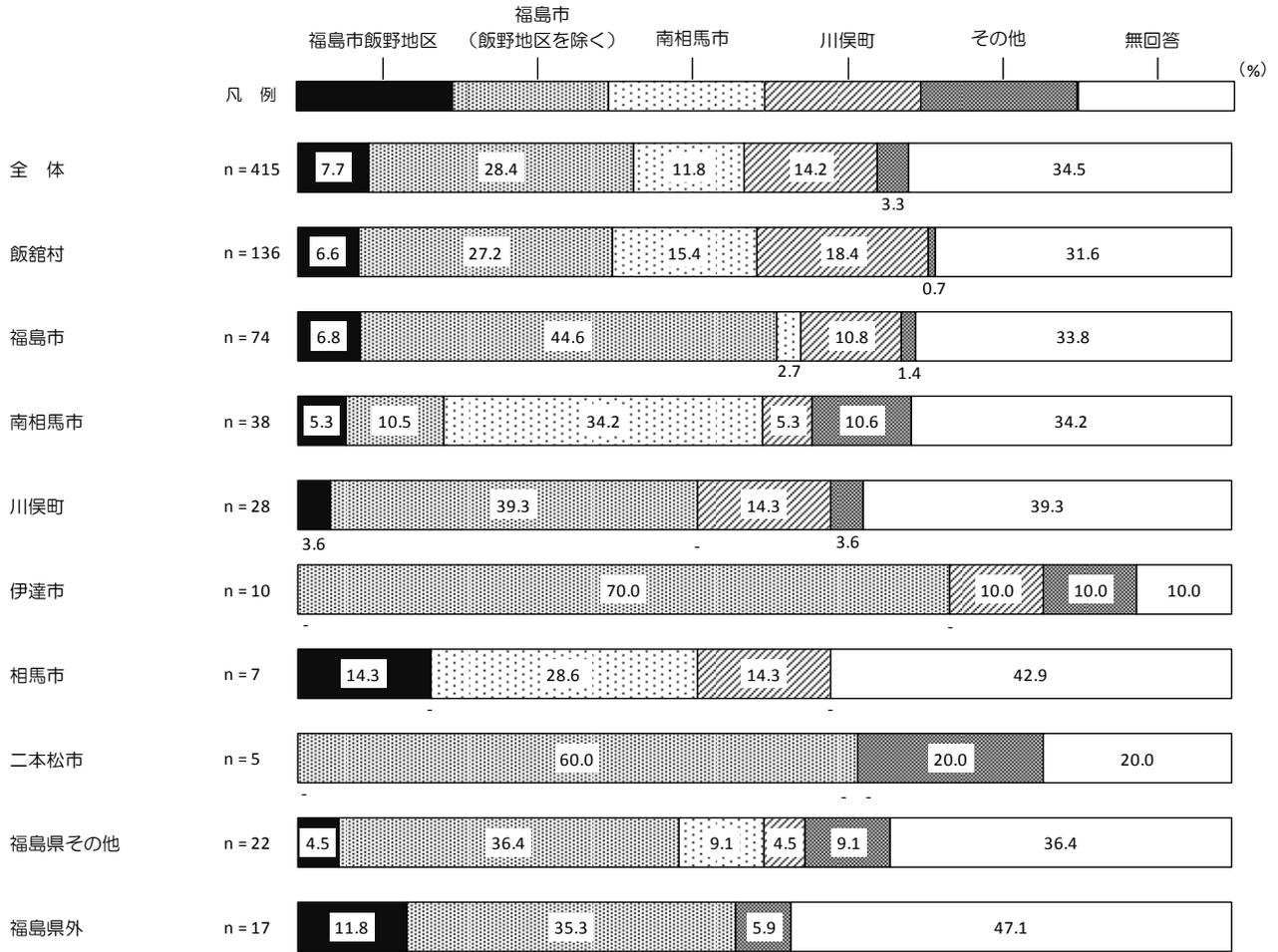
<図表3-2-3-4 入居を希望する主な地域（1世帯目）（世帯主の年齢別）>



### Ⅲ 調査結果

1世帯目の入居を希望する主な地域について、現在の就業先別にみると、「福島市（飯野地区を除く）」は福島市（44.6%）で4割を超え、他の自治体に比べて高くなっている。

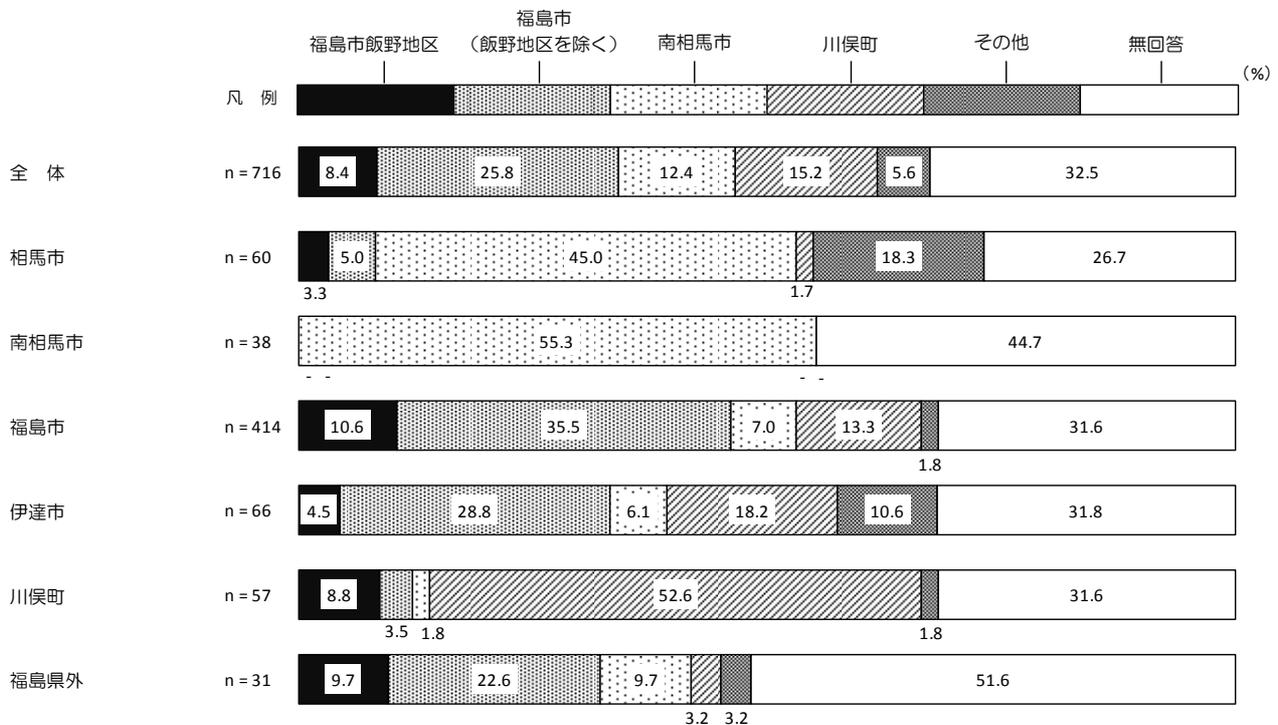
<図表3-2-3-5 入居を希望する主な地域（1世帯目）（現在の就業先別）>



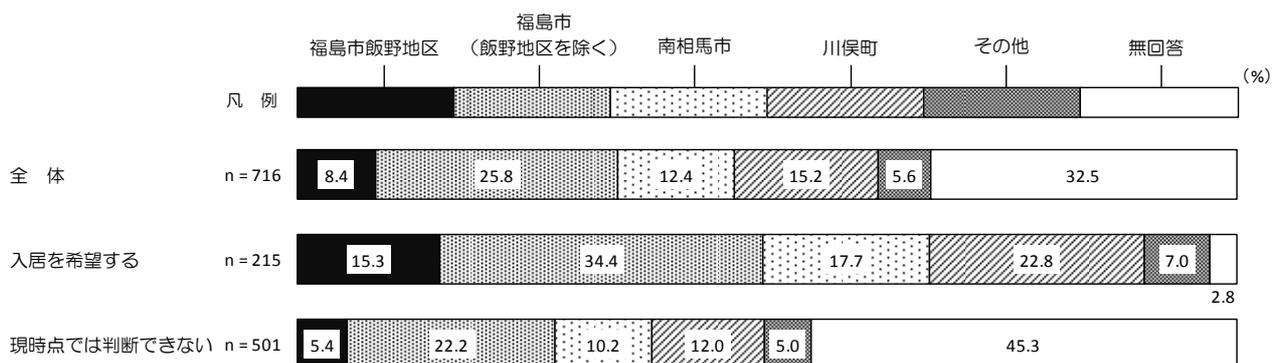
1世帯目の入居を希望する主な地域について、主な避難先自治体別にみると、一般的に避難先の自治体と同じ自治体を希望する割合が高くなっているが、相馬市では「南相馬市」が45.0%となっている。

また、復興公営住宅への入居希望別にみると、入居を希望する世帯では「福島市（飯野地区を除く）」が34.4%、次いで「川俣町」が22.8%となっている。

<図表3-2-3-6 入居を希望する主な地域（1世帯目）（主な避難先自治体別）>



<図表3-2-3-7 入居を希望する地域（1世帯目）（入居希望別）>



### 3-2-4 分散して入居する場合の住居形態

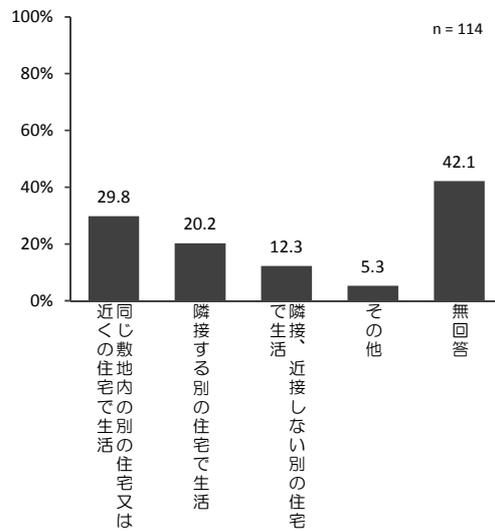
【分散して復興公営住宅へ入居を希望する方（問 12-2（3）で「1」から「22」に回答した方）にうかがいます。】

問 12-3 復興公営住宅へ2戸以上に分かれて入居する場合、現在ご一緒にお住まいの家族との生活について、どのような形を希望しますか。（〇はいくつでも）

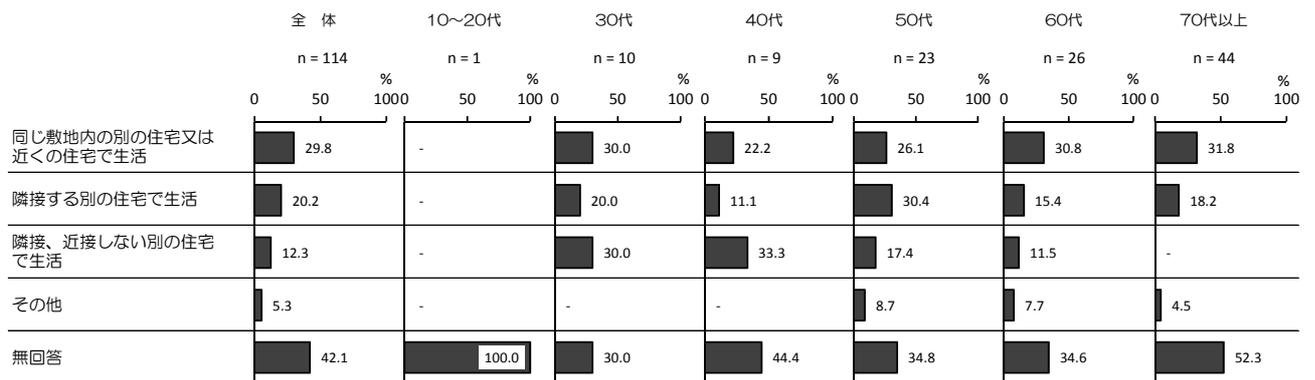
分散して入居する場合の住居形態については、「同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活」が29.8%と最も高く、次いで「隣接する別の住宅で生活」が20.2%、「隣接、近接しない別の住宅で生活」が12.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「隣接、近接しない別の住宅で生活」は、30代で3割と高くなっている。

＜図表3-2-4-1 分散して入居する場合の住居形態＞



＜図表3-2-4-2 分散して入居する場合の住居形態（世帯主の年齢別）＞



### 3-2-5 分散して避難している家族との同居意向

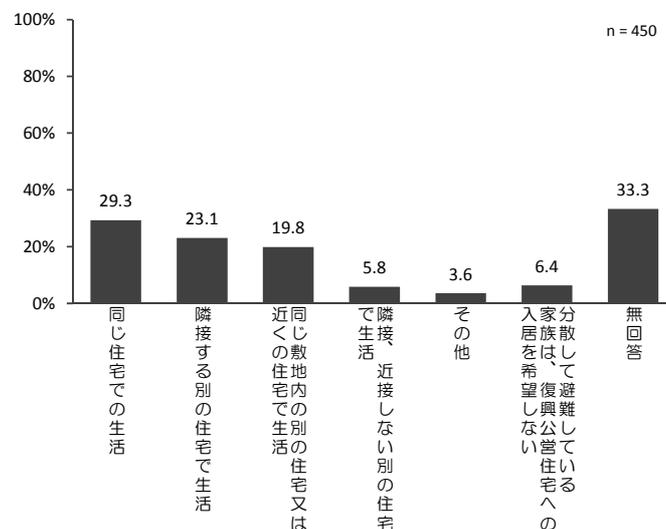
【現在分散して避難されている方（問8（3）で「2」から「4」と回答した方）にうかがいます。】

問 12-4 復興公営住宅に入居する場合、分散して避難している家族との同居について、どのような形を希望しますか。（〇はいくつでも）

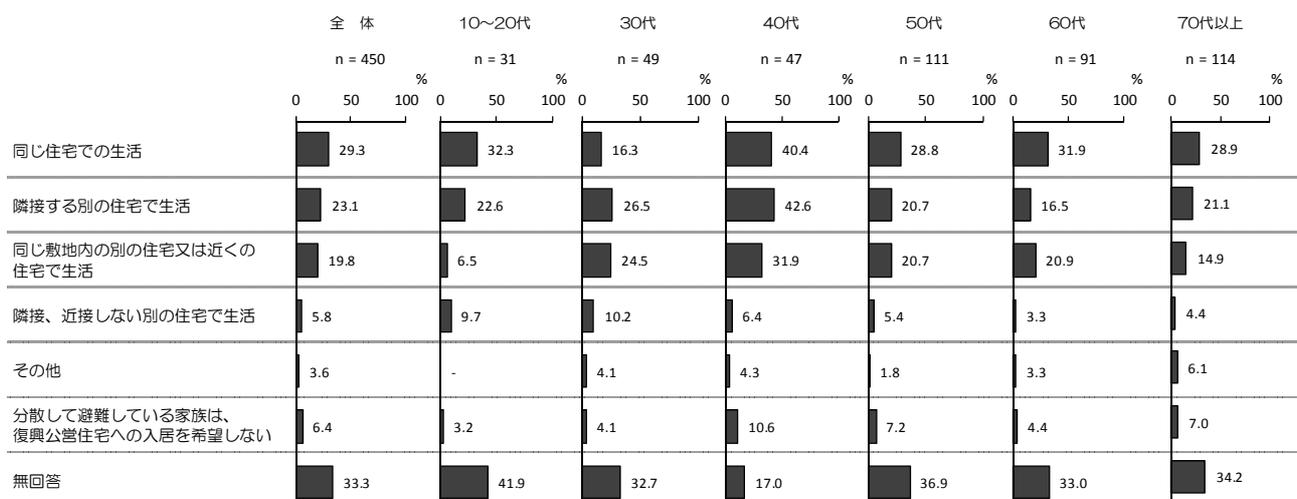
分散して避難している家族との同居意向については、「同じ住宅での生活」が29.3%と最も高く、次いで「隣接する別の住宅で生活」が23.1%、「同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活」が19.8%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、40代では「同じ住宅での生活」(40.4%)、「隣接する別の住宅で生活」(42.6%)が4割を超え、他の年齢層に比べて高くなっている。

＜図表3-2-5-1 分散して避難している家族との同居意向＞



＜図表3-2-5-2 分散して避難している家族との同居意向（世帯主の年齢別）＞



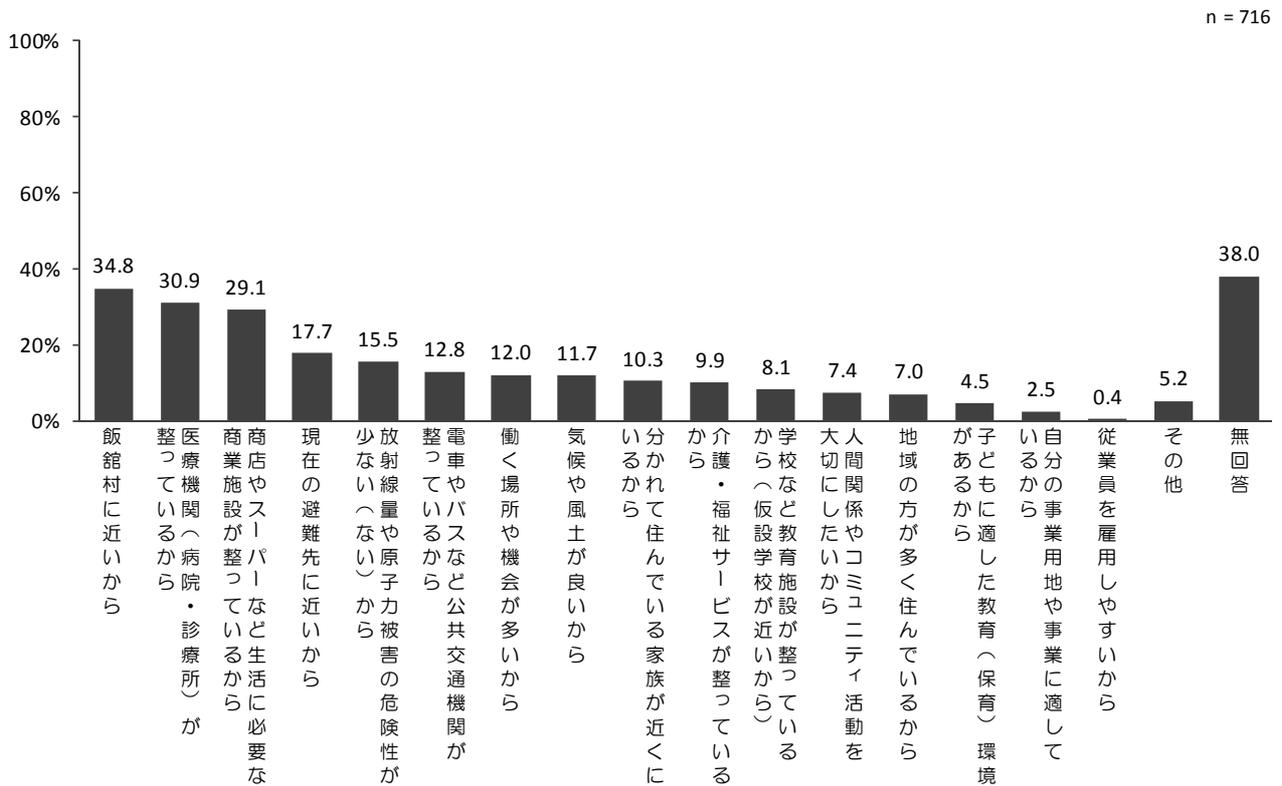
### 3-2-6 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問12-5 あなたが希望する自治体としてご回答になられた理由はどのような理由ですか。

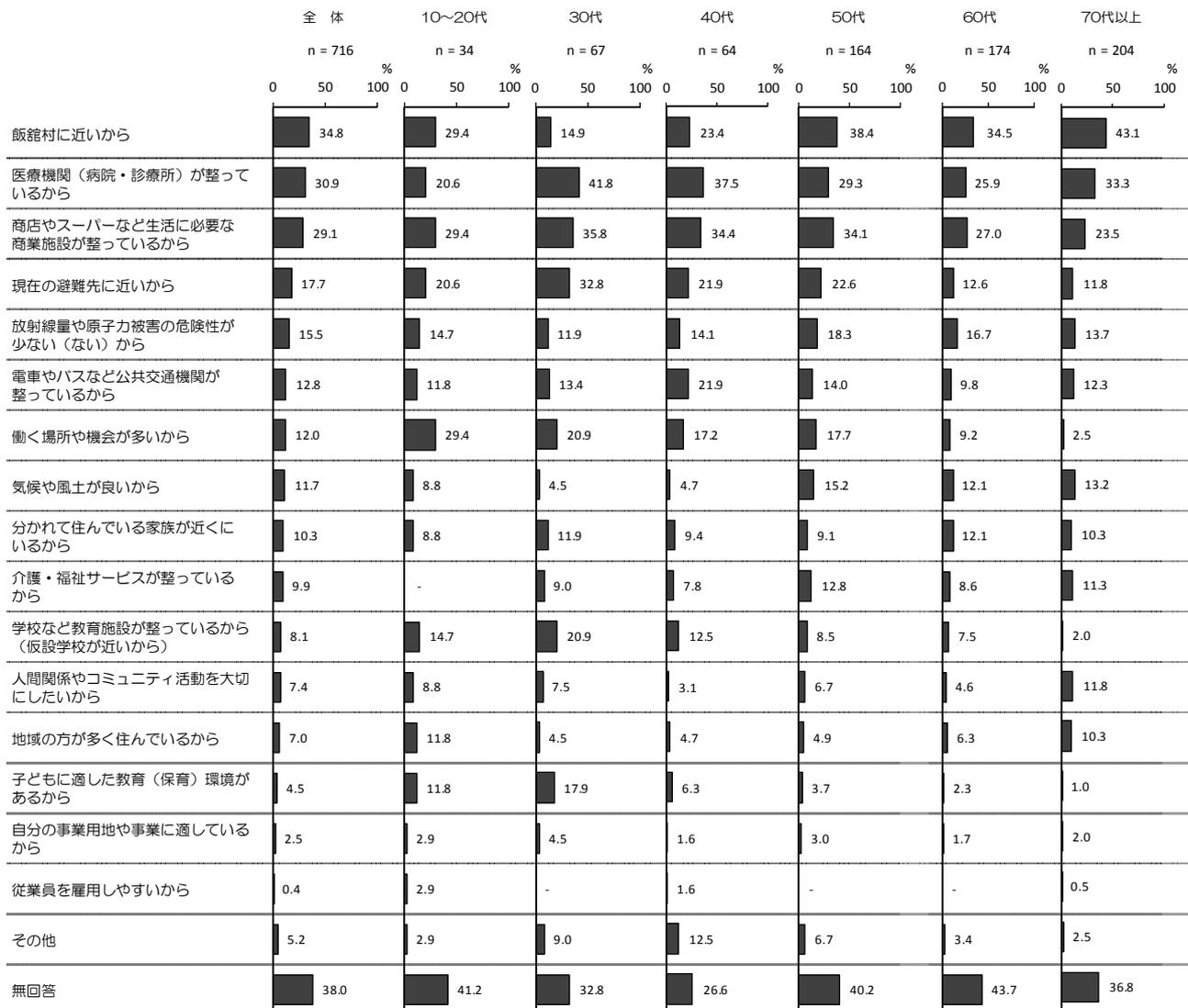
復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由については、「飯舘村に近いから」が34.8%と最も高く、次いで「医療機関（病院・診療所）が整っているから」が30.9%、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」が29.1%などとなっている。

＜図表3-2-6-1 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由＞



世帯主の年齢別にみると、「飯舘村に近いから」は50代以上の年齢層で高くなっている。40代以下の年齢層では、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」、「現在の避難先に近いから」、「働く場所や機会多いから」などが高くなっている。

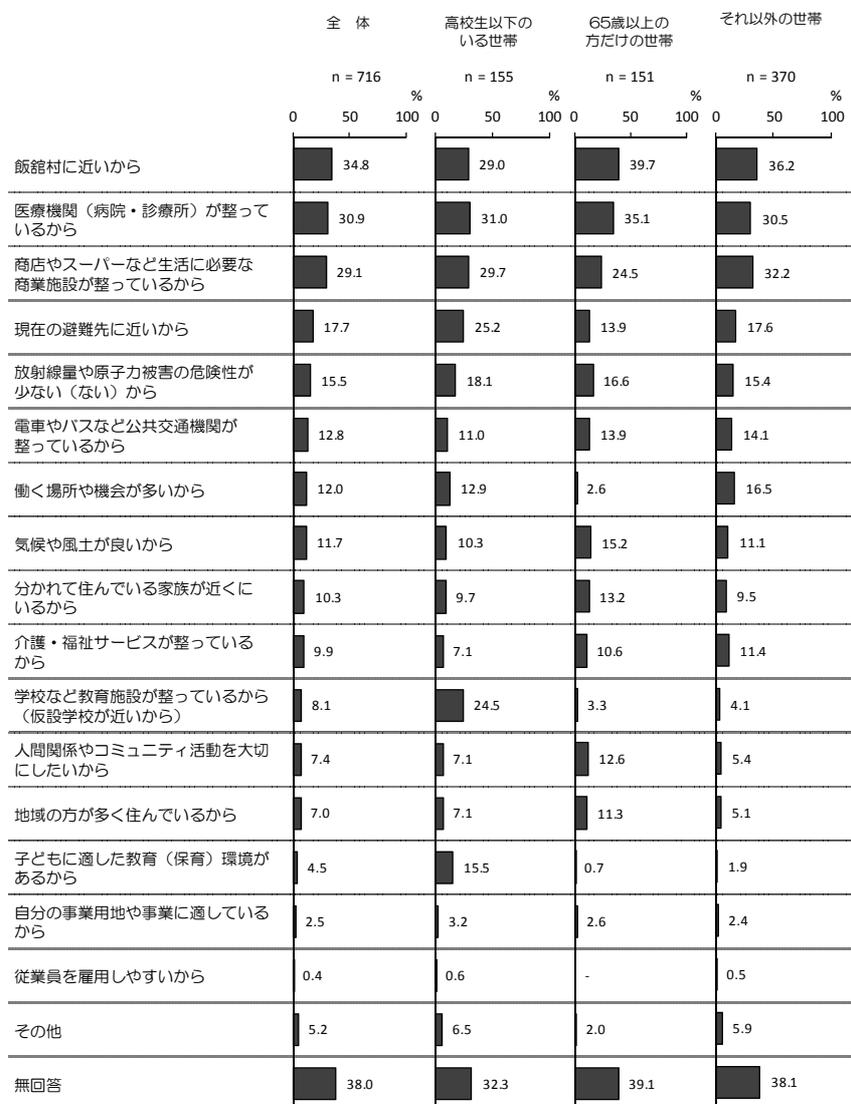
＜図表3-2-6-2 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由（世帯主の年齢別）＞



### III 調査結果

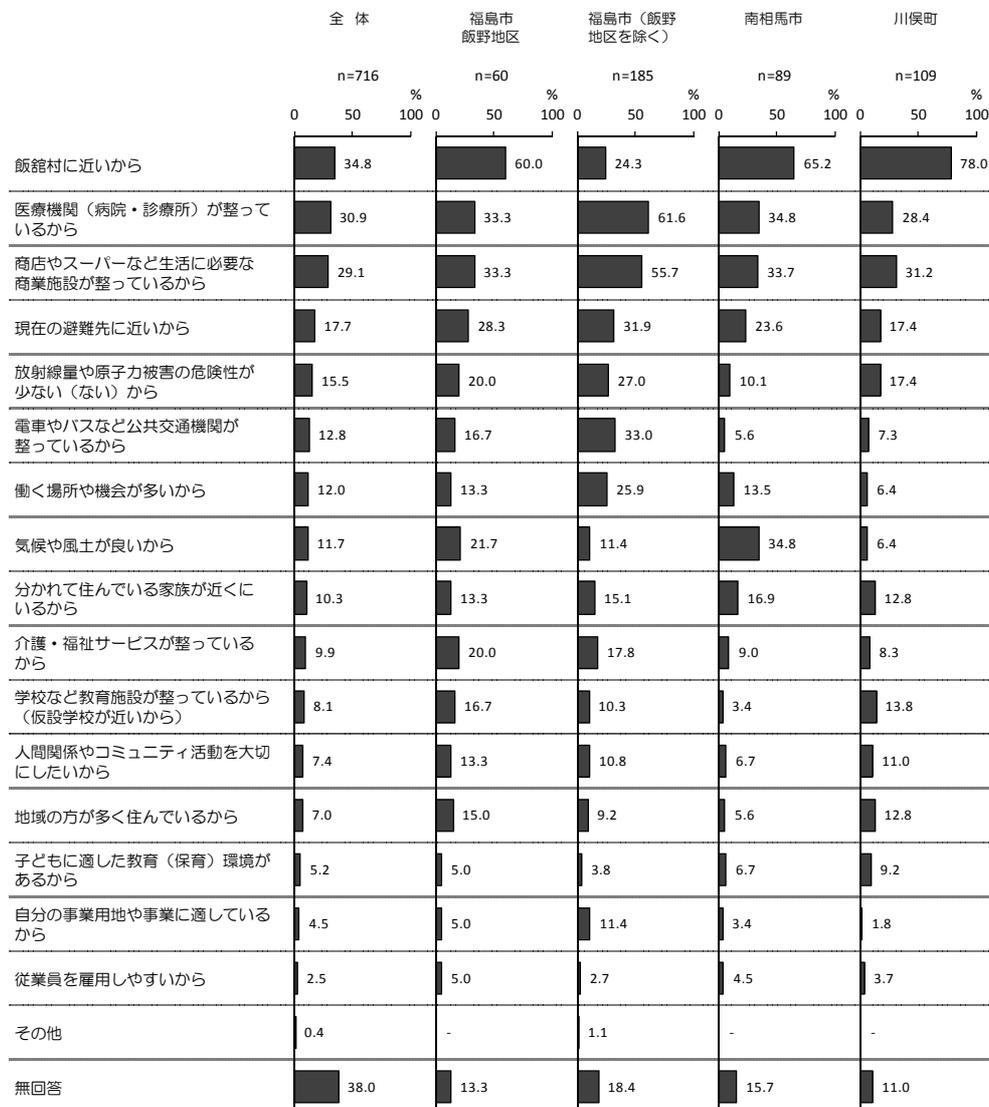
現在の世帯構成別にみると、「飯舘村に近いから」は高校生以下のいる世帯以外では最も高くなっているが、高校生以下のいる世帯では「医療機関（病院・診療所）が整っているから」「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」の方が高くなっている。また、「学校など教育施設が整っているから」(24.5%)も2割を超え、他の世帯構成に比べて高くなっている。

＜図表3-2-6-3 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由（現在の世帯構成別）＞



入居を希望する主な地域（1世帯目）別にみると、「飯舘村に近いから」は、福島市（飯野地区を除く）以外で最も高くなっており、6割を超えている。一方で、福島市（飯野地区を除く）では「医療機関（病院・診療所）が整っているから」（61.6%）、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」（55.7%）などが、他の自治体に比べて高くなっている。

<図表3-2-6-4 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由（入居を希望する主な地域別）>



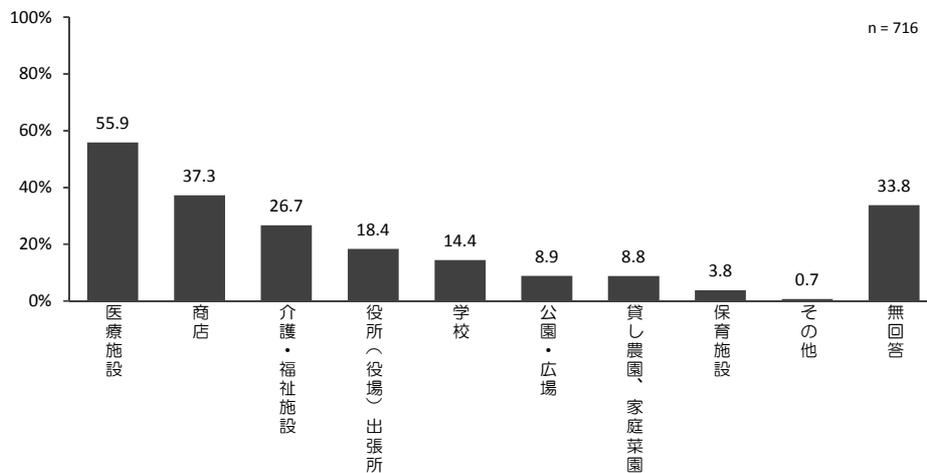
### 3-2-7 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

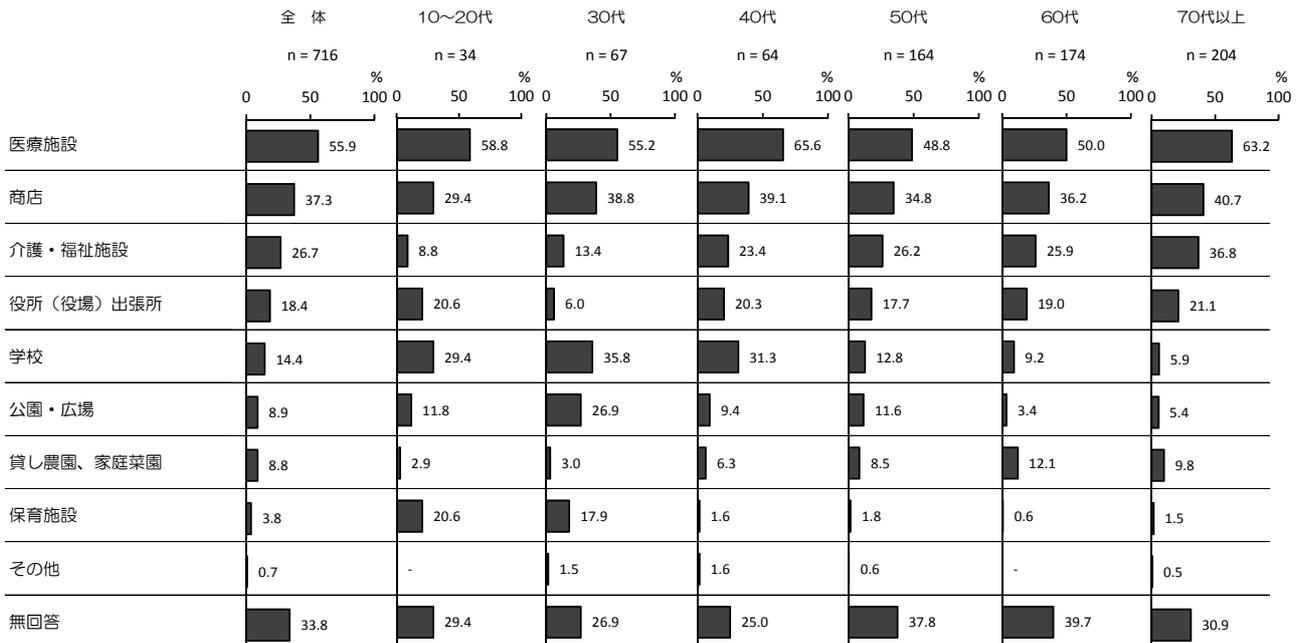
問12-6 復興公営住宅に入居する場合に、その住宅に近接する施設、機能として必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能については、「医療施設」が55.9%で最も高く、次いで「商店」が37.3%、「介護・福祉施設」が26.7%、「役所（役場）出張所」が18.4%などとなっている。  
世帯主の年齢別にみると、「医療施設」はいずれの年齢層でも最も高くなっている。「学校」は10～20代（29.4%）、30代（35.8%）、40代（31.3%）で3割程度となり、他の年齢層と比べて高くなっている。

<図表3-2-7-1 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能>



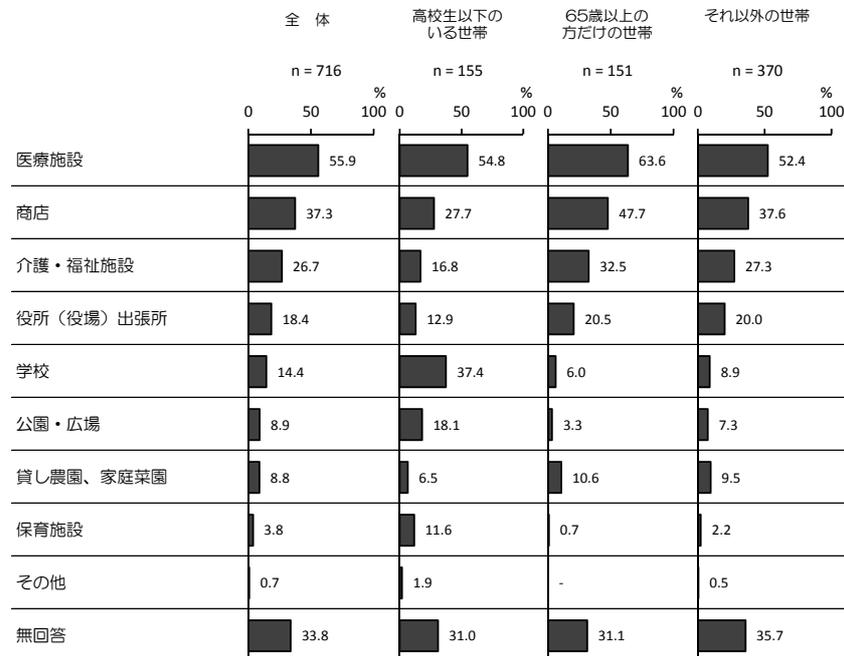
<図表3-2-7-2 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（世帯主の年齢別）>



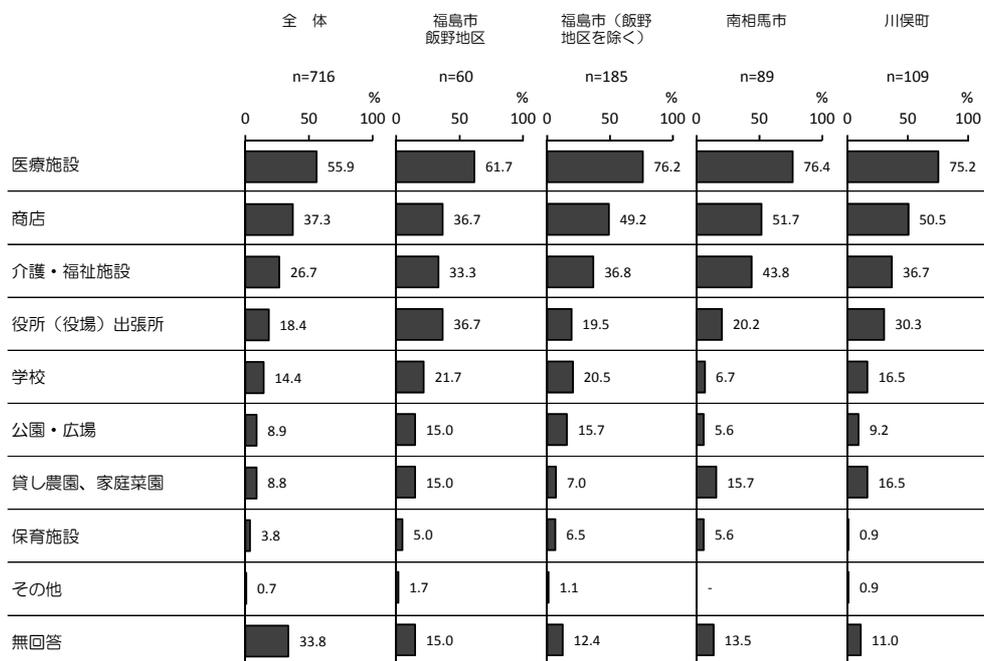
現在の世帯構成別にみると、「医療施設」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。「学校」は高校生以下のいる世帯（37.4%）で4割弱と、他の世帯構成に比べて高くなっている。

入居を希望する主な地域（1世帯目）別にみると、「医療施設」がいずれの地域でも最も高くなっている。

＜図表3-2-7-3 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（現在の世帯構成別）＞



＜図表3-2-7-4 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（入居を希望する主な地域別）＞



### 3-2-8 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス

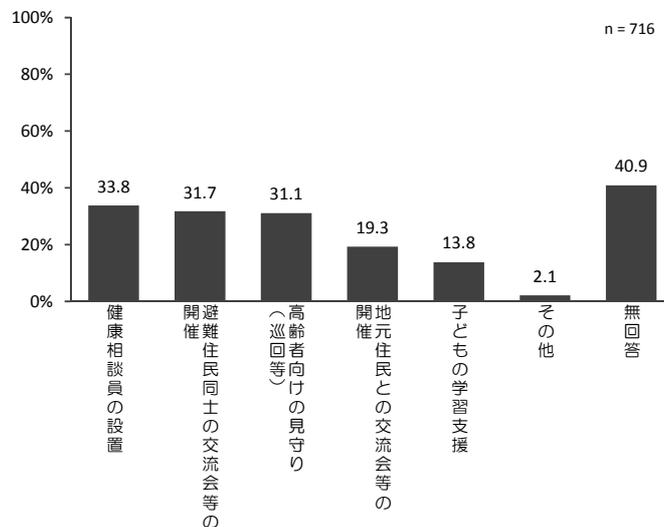
【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問12-7 復興公営住宅に入居する場合、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

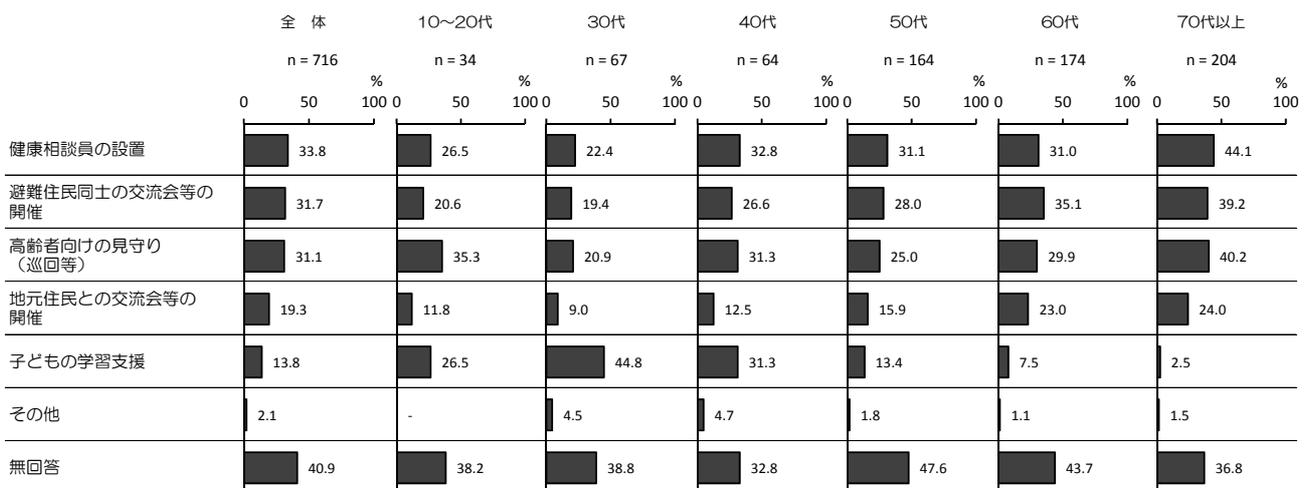
復興公営住宅に入居する場合に必要なサービスについては、「健康相談員の設置」が33.8%と最も高く、次いで「避難住民同士の交流会等の開催」が31.7%、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が31.1%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、「健康相談員の設置」、「避難住民同士の交流会等の開催」は、概ね年齢が高くなるに従い高くなっている。また、「子どもの学習支援」は10～20代（26.5%）、30代（44.8%）、40代（31.3%）で他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-2-8-1 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス>



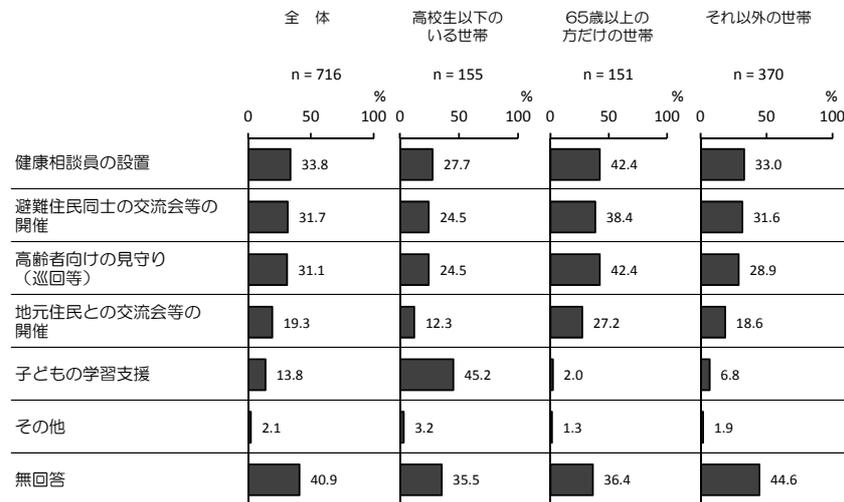
<図表3-2-8-2 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス（世帯主の年齢別）>



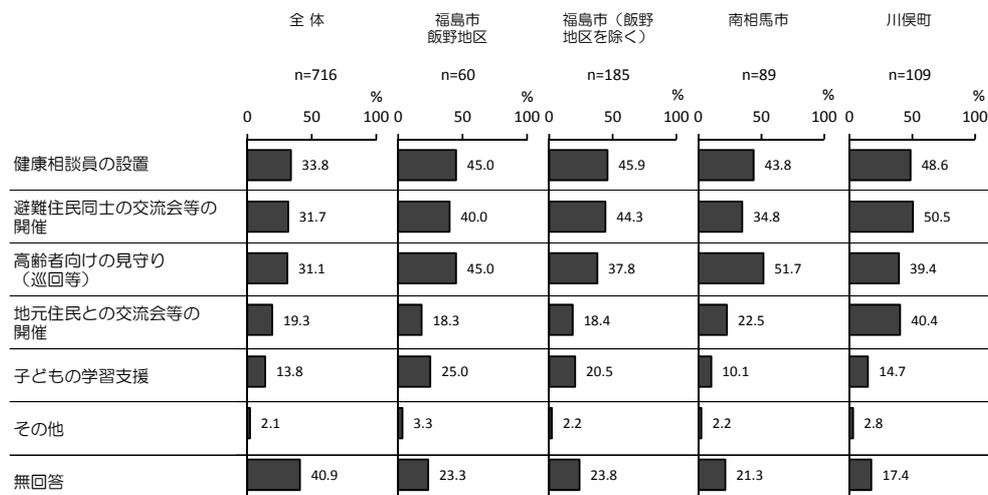
現在の世帯構成別にみると、「健康相談員の設置」、「避難住民同士の交流会等の開催」、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は、65歳以上の方だけの世帯で4割前後と高くなっている。一方で、高校生以下のいる世帯では「子どもの学習支援」（45.2%）が最も高くなっている。

入居を希望する主な地域（1世帯目）別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は南相馬市（51.7%）、「避難住民同士の交流会等の開催」は川俣町（50.5%）で5割を超えている。

<図表3-2-8-3 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス（現在の世帯構成別）>



<図表3-2-8-4 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス（入居を希望する主な地域別）>



### 3-2-9 復興公営住宅以外の避難期間中の住居

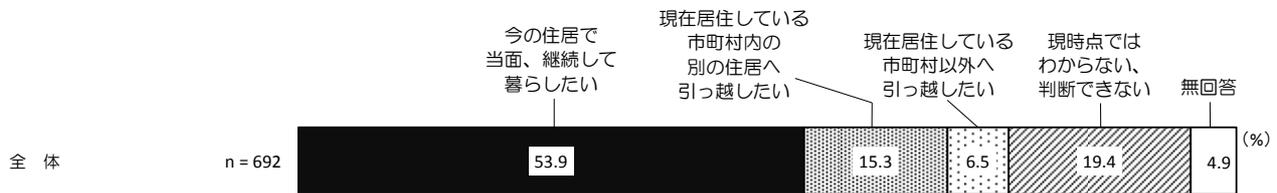
【問 12 で「3.入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-8 あなたは今後の避難期間中の住居をどのようにお考えですか。(〇は1つ)

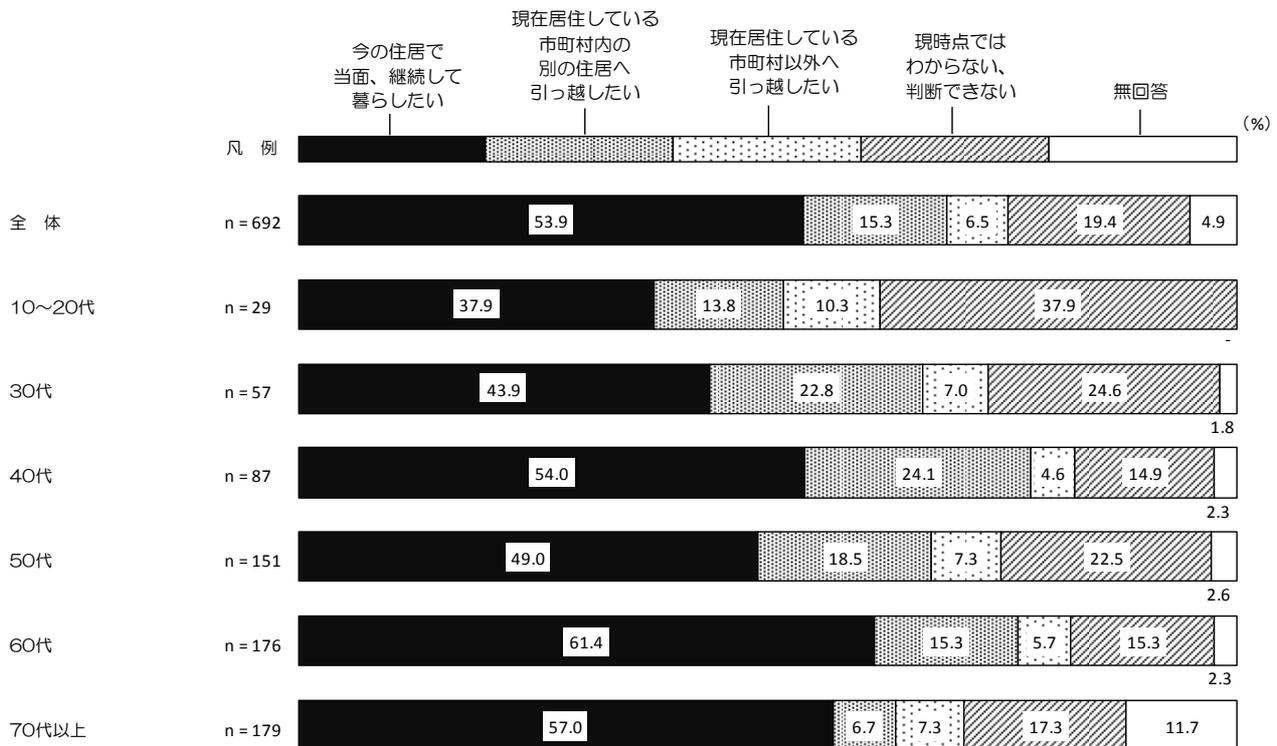
復興公営住宅以外の避難期間中の住居については、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」が 53.9%と最も高く、次いで「現時点ではわからない、判断できない」が 19.4%、「現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」が 15.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、いずれの年齢層でも最も高くなっているが、10~20代では「現時点ではわからない、判断できない」(37.9%)が他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-2-9-1 復興公営住宅以外の避難期間中の住居>

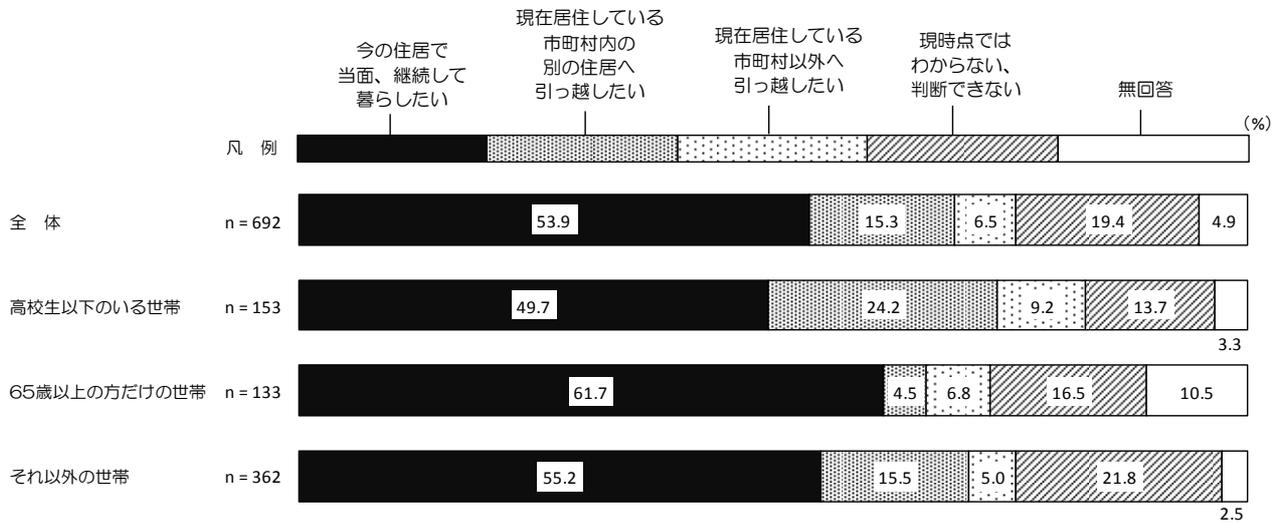


<図表3-2-9-2 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（世帯主の年齢別）>



現在の世帯構成別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」が、いずれの世帯構成でも最も高くなっており、65歳以上の方だけの世帯（61.7%）では6割を超えている。

<図表3-2-9-3 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（現在の世帯構成別）>



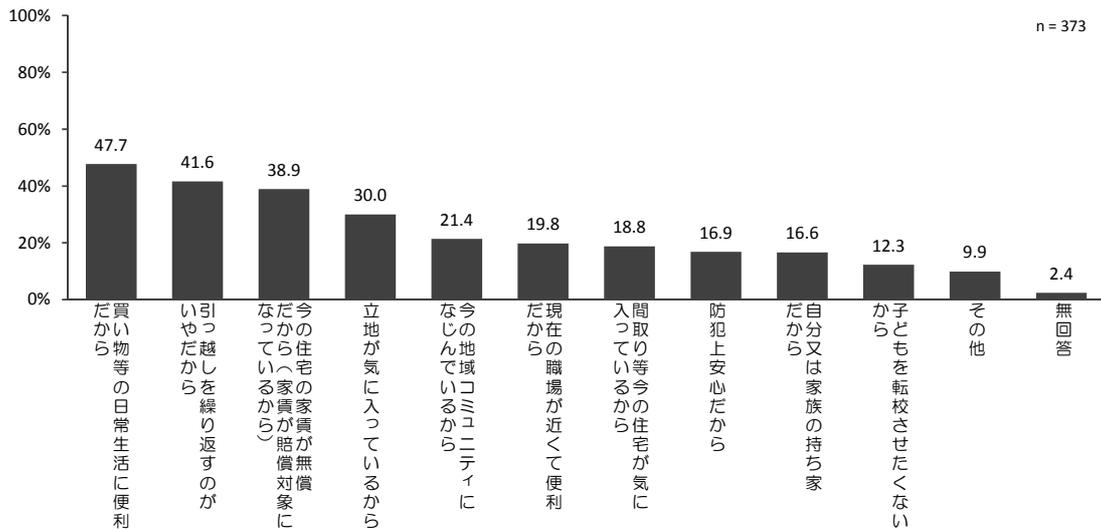
### 3-2-10 現在の住居で継続して暮らしたい理由

【問 12-8 で「1.今の住居で当面、継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-9 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

現在の住居で継続して暮らしたい理由については、「買い物等の日常生活に便利だから」が 47.7%と最も高く、次いで「引っ越しを繰り返すのがいやだから」が 41.6%、「今の住宅の家賃が無償だから（家賃が賠償対象になっているから）」が 38.9%、「立地が気に入っているから」が 30.0%などとなっている。

<図表3-2-10-1 現在の住居で継続して暮らしたい理由>



世帯主の年齢別にみると、「買い物等の日常生活に便利だから」は、40代以上の年齢層で最も高くなっている。40代では「子どもを転校させたくないから」(40.4%)が4割と他の年齢層に比べて高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、「買い物等の日常生活に便利だから」は、川俣町(63.3%)、伊達市(54.1%)、福島市(51.5%)は5割以上と高くなっている。

＜図表3-2-10-2 現在の住居で継続して暮らしたい理由（世帯主の年齢別）＞

	全体 n = 373		10~20代 n = 11		30代 n = 25		40代 n = 47		50代 n = 74		60代 n = 108		70代以上 n = 102	
	0	%	0	%	0	%	0	%	0	%	0	%	0	%
買い物等の日常生活に便利だから	47.7	27.3	48.0	55.3	56.8	50.0	39.2							
引っ越しを繰り返すのがいやだから	41.6	45.5	56.0	53.2	47.3	41.7	28.4							
今の住宅の家賃が無償だから（家賃が賠償対象になっているから）	38.9	27.3	32.0	44.7	44.6	41.7	32.4							
立地が気に入っているから	30.0	18.2	12.0	42.6	37.8	29.6	24.5							
今の地域コミュニティになじんでいるから	21.4	9.1	12.0	14.9	21.6	21.3	28.4							
現在の職場が近くて便利だから	19.8	54.5	32.0	23.4	28.4	22.2	3.9							
間取り等今の住宅が気に入っているから	18.8	-	12.0	14.9	24.3	19.4	19.6							
防犯上安心だから	16.9	18.2	12.0	10.6	18.9	17.6	19.6							
自分又は家族の持ち家だから	16.6	9.1	24.0	19.1	9.5	18.5	16.7							
子どもを転校させたくないから	12.3	-	60.0	40.4	4.1	6.5	2.0							
その他	9.9	18.2	20.0	-	6.8	8.3	14.7							
無回答	2.4	-	-	2.1	-	2.8	4.9							

＜図表3-2-10-3 現在の住居で継続して暮らしたい理由（主な避難先自治体別）＞

	n	理由											無回答
		買い物等の日常生活に便利だから	引っ越しを繰り返すのがいやだから	今の住宅の家賃が無償だから（家賃が賠償対象になっているから）	立地が気に入っているから	今の地域コミュニティになじんでいるから	現在の職場が近くて便利だから	間取り等今の住宅が気に入っているから	防犯上安心だから	自分又は家族の持ち家だから	子どもを転校させたくないから	その他	
全体	373	47.7	41.6	38.9	30.0	21.4	19.8	18.8	16.9	16.6	12.3	9.9	2.4
相馬市	18	33.3	50.0	33.3	16.7	33.3	22.2	-	22.2	11.1	5.6	16.7	-
南相馬市	25	36.0	36.0	36.0	32.0	16.0	44.0	16.0	12.0	12.0	4.0	12.0	-
福島市	202	51.5	45.5	45.5	34.2	20.8	13.9	23.8	19.3	15.8	12.4	4.5	4.0
伊達市	37	54.1	35.1	37.8	29.7	27.0	24.3	10.8	18.9	10.8	13.5	8.1	2.7
川俣町	30	63.3	46.7	33.3	33.3	26.7	30.0	23.3	16.7	16.7	3.3	16.7	-
福島県外	38	28.9	23.7	23.7	18.4	21.1	18.4	7.9	13.2	26.3	21.1	28.9	-

### Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「買い物等の日常生活に便利だから」は、いずれの世帯構成でも最も高くなっているが、「子どもを転校させたくないから」は高校生以下のいる世帯（55.3%）で5割超え、他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-2-10-4 現在の住居で継続して暮らしたい理由（現在の世帯構成別）>

	n	買い物等の日常生活に便利だから	引っ越しを繰り返すのがいやだから	今の住宅の家賃が賠償対象になつているから	立地が気に入っているから	今の地域コミュニティになじんでいるから	現在の職場が近くて便利だから	間取り等今の住宅が気に入っているから	防犯上安心だから	自分又は家族の持ち家だから	子どもを転校させたくないから	その他	無回答
全 体	373	47.7	41.6	38.9	30.0	21.4	19.8	18.8	16.9	16.6	12.3	9.9	2.4
高校生以下のいる世帯	76	52.6	48.7	30.3	28.9	15.8	18.4	15.8	13.2	27.6	55.3	5.3	1.3
65歳以上の方だけの世帯	82	42.7	35.4	36.6	25.6	28.0	2.4	18.3	20.7	12.2	1.2	18.3	4.9
それ以外の世帯	200	49.5	43.5	44.5	32.5	20.0	29.0	20.0	17.5	13.0	1.0	8.0	2.0

### 3-2-11 避難期間中、転居を希望する自治体

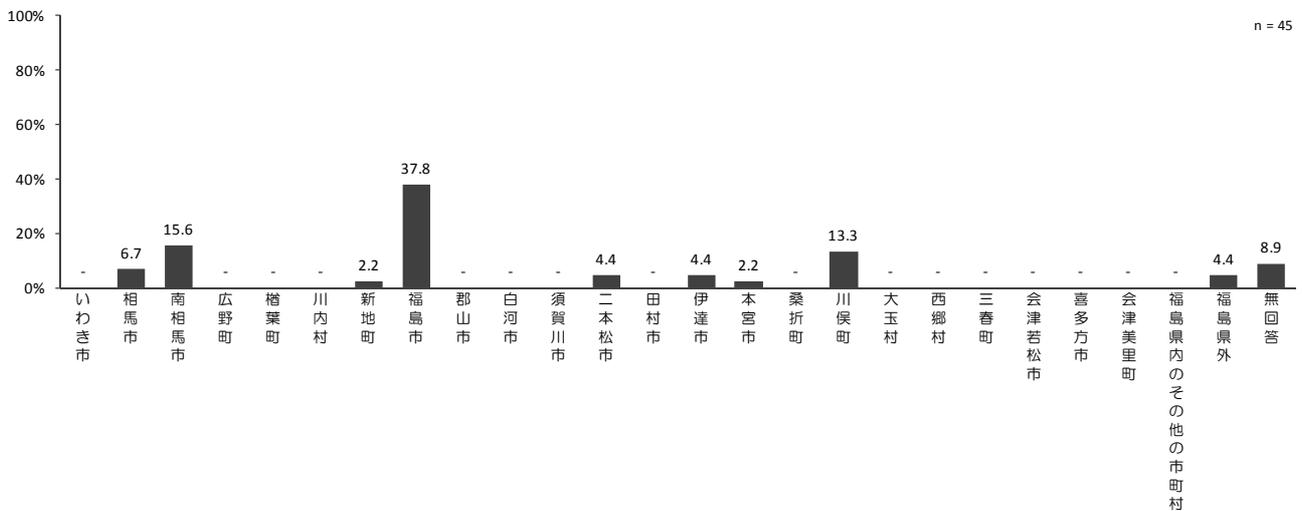
【問 12-8 で「3.現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-10 避難期間中に、転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

避難期間中、転居を希望する自治体については、「福島市」が 37.8%で最も高く、次いで「南相馬市」が 15.6%、「川俣町」が 13.3%などとなっている。

主な避難先自治体別にみると、「福島市」を希望するのは、南相馬市に避難している世帯で 6 割以上、川俣町で 5 割以上となっている。

<図表3-2-11-1 避難期間中、転居を希望する自治体>



<図表3-2-11-2 避難期間中、転居を希望する主な自治体（主な避難先自治体別）>

	n	(%)				
		相馬市	南相馬市	福島市	川俣町	福島県外
全体	45	6.7	15.6	37.8	13.3	4.4
相馬市	3	-	33.3	33.3	-	-
南相馬市	6	16.7	-	66.7	16.7	-
福島市	12	16.7	8.3	-	33.3	8.3
伊達市	5	-	20.0	40.0	-	-
川俣町	7	-	28.6	57.1	-	-
福島県外	5	-	20.0	20.0	20.0	20.0

※本文はn値が少ないため、参考値程度とする。

### III 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「福島市」が高校生以下のいる世帯では5割以上となっており、65歳以上の方だけの世帯では「南相馬市」が5割以上となっている。

＜図表3-2-11-3 避難期間中、転居を希望する主な自治体（現在の世帯構成別）＞

	n	(%)				
		相馬市	南相馬市	福島市	川俣町	福島県外
全体	45	6.7	15.6	37.8	13.3	4.4
高校生以下のいる世帯	14	14.3	7.1	57.1	-	7.1
65歳以上の方だけの世帯	9	-	55.6	22.2	11.1	-
それ以外の世帯	18	5.6	5.6	38.9	22.2	5.6

※本文はn値が少ないため、参考値程度とする。

### 3-2-12 避難期間中、転居する場合の住宅形態

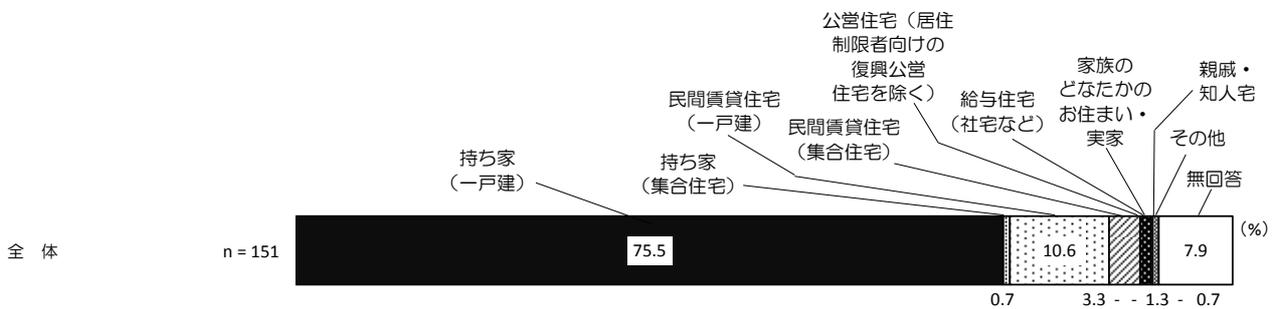
【問 12-8で「2.現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」「3.現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-11 避難期間中の現在の居住地から他への避難先への移動を希望する場合、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

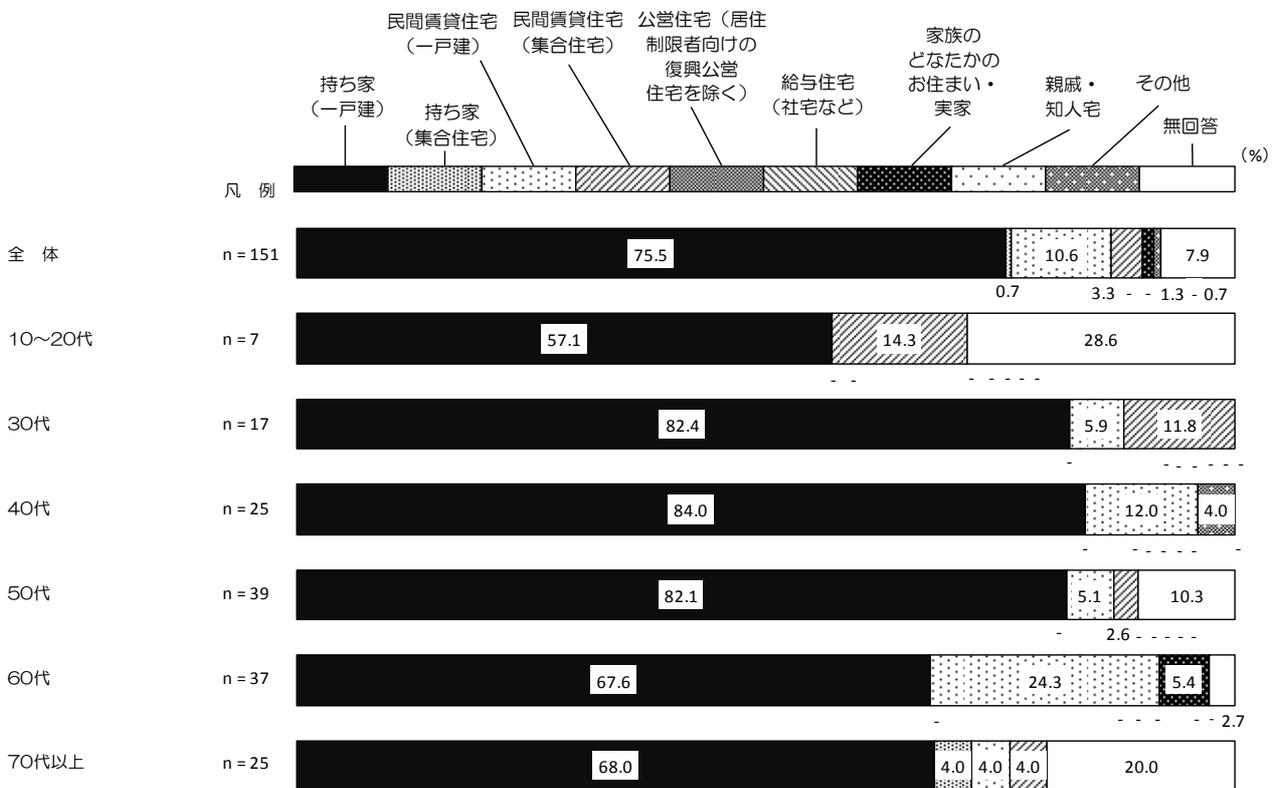
避難期間中、転居する場合の住宅形態については、「持ち家（一戸建）」が75.5%と最も高くなっており、次いで「民間賃貸住宅（一戸建て）」が10.6%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」が、いずれの年齢層でも最も高くなっており、特に30代（82.4%）、40代（84.0%）、50代（82.1%）で8割を超えている。

<図表3-2-12-1 避難期間中、転居する場合の住宅形態>



<図表3-2-12-2 避難期間中、転居する場合の住宅形態（世帯主の年齢別）>



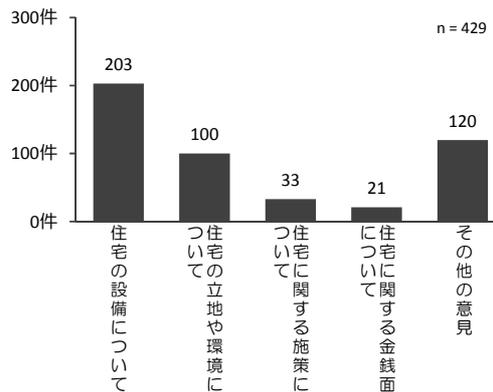
### 3-2-13 避難期間中の住宅や居住環境についての意見

問 12-12 避難期間中の住宅や居住環境についてご意見があればお書きください。

避難期間中の住居や居住環境についての具体的な意見は、429 件の回答があった。

意見を内容により分類したところ、部屋の狭さなどの「住宅の設備面について」が 203 件と最も多く、次いで医療施設や店舗など居住環境などの「住宅の立地や環境について」が 100 件、復興公営住宅や借上期間などの「住宅に関する施策について」が 33 件などとなっている。

＜図表3-2-13-1 避難期間中の住宅や居住環境についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

#### 【住宅の設備について】

- 障害（寝たきり）の高齢者がいるため、アパートでは不便なことが多いです。部屋に十分な広さ（スペース）がない為、車いすを動かす際に苦勞することもある。また車の駐車場所もなく、部屋からは離れた場所に置くため、夜間の帰宅のときは、夜道が怖いなど、家（飯館）にいたときと違い、不便なことが多くなっている。（30代）
- 自宅の敷地と比べるとは良くないが、やっぱり狭い。車・バイクも置けないのは不便。アパートで、家庭菜園もできない。長期避難（帰れなくなるも含む）を考えれば、一戸建て（できれば庭つき）に住みたい（復興住宅・個人購入にこだわらない）。（40代）
- 仮設住宅とは、とりあえず仮の住宅として施工しているものということは知っているが、1枚の板で隣りとの境があって、水の流す音、話し声等々、あまりにもプライバシーとは無縁の建物でした。これからの災害のことも想定して、少しは改善した住宅にしたいと思っています。（60代）

#### 【住宅の立地や環境について】

- 伊達市に避難しているが、線量が高い場所もあり、健康への影響が心配。特に子ども（0歳）がいるので、小さい子ほど蓄積しやすいので心配している。また、通勤（伊達⇄相馬）にとっても時間がかかるので、とても苦勞している。（10～20代）
- 周りがうるさい。交通量が多く、子どもだけで遊ばせられない。決まりが多い。雪が多く大変。（30代）
- 村民との交流の場が取れない。会社に勤めているので中々、村民の人に会えない（50代）

#### 【住宅に関する施策について】

- 家族が増えたことでもう少し広い所へ引っ越したいが、一度引っ越しをしているのでできないと言われた。もう少し柔軟に対応してほしい。（10～20代）
- 狭い仮設住宅での生活は限界に近く、復興公営住宅を整備するのであれば早期に入居できるようにしてもらいたい。そして、その見通しについても早急に示すべきである。（50代）
- リフォームの助成をわかりやすく提示すべき、早く。（60代）

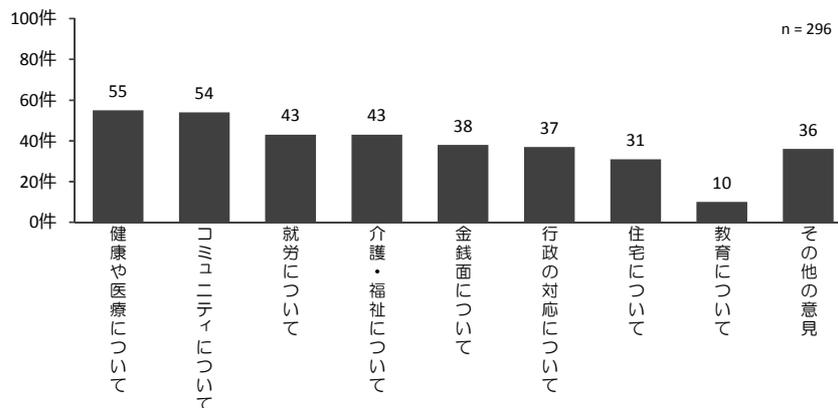
### 3-2-14 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること

問 12-13 避難期間中の生活において困っていること、改善を求めることがあればお書きください。(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)

避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めることについて、296 件の回答があった。

意見を内容により分類したところ、家族の健康不安や通院の困難さなどの「健康や医療について」が 55 件と最も多く、借上住宅の現状やコミュニケーションの困難さなどの「コミュニティについて」が 54 件、「就労について」と「介護・福祉について」が 43 件などとなっている。

<図表3-2-14-1 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

#### 【健康や医療について】

- 現在住んでいる集合住宅には、子供がのびのび遊べる広場がありません。飯舘村の時は、家の前でサッカーなどをして遊んでいた息子も、今では中で遊ぶ機会が多くなったような気がします。運動不足にならないうようにするためにも、もう少し子供達がのびのびと体を動かせる場所があればいいと思います。(30代)
- 母と別々に避難しており、定期的に通院(狭心症、高血圧)しているので、送迎や健康面での確認の往復等、大変である。(50代)
- 医療機関が充実していない(医師、看護婦さんが不足していると言って待ち時間が長く、1日中かかってしまう)。(70代以上)

#### 【コミュニティについて】

- 避難後、地域コミュニティ及び地元の友人との交流がほとんどなくなった。避難前から別居していた両親とは、避難先が遠く、時間及び交通費がかかるので、負担になっている。(30代)
- 福島市で子供を幼稚園に通園させており、子供が中途半端な状態になっている。福島市の子でもないし、飯舘村のお友達もいない。福島市で就園(就学)させている飯舘の子達の(ママ)集まりもあれば良い。(30代)
- 伊達市に避難しているが正式な住宅でない(住民票を移動していない)ことにより、地域のコミュニティ活動や行政行事への参加等について、積極的な参加は遠慮がちになる。特に「多数の場合抽選」等の場合。社会参加が出来ない。(60代)

### Ⅲ 調査結果

#### [就労について]

- 居住地域により村営の保育所に通えない場合、保育料の補助があれば助かります。子供を預けることが出来ないと、働くことができません。(10~20代)
- 職場と自宅との通勤距離が長くなり、心身共に疲れた。今後これからのことを考えると離職も考えなければならぬ状況にある。(30代)
- 就労について、私は東電事故により仕事を辞めざるを得なく、現在無職です。48才の年齢ではなかなか良い仕事はみつからず、就労不能賠償金(東電)で生活しています。でも現在の賠償は平成26年3月までとなっており、今後仕事が見つからないと生活ができないと不安です。東電の事故により仕事を無くしたので、出来れば1年延長して(賠償)いただきたいです(延長期間に就職先を探したいと思います)。(40代)

#### [介護・福祉について]

- 介護面で不便が多くあり、老人ホームがいっぱい利用できないことは不満となっている。気持ちが暗くなってしまったため、もっとそれぞれの世帯の現状を理解し、コミュニティや介護、福祉について相談にのってもらえるような場所、人がほしい。(30代)
- ...母の体力が弱くなり介護が必要となりましたが、預けるホームもなく遠い姉に見てもらっていますが、姉にも限界があり大変困っています。父も病気で施設に入っており、私達二人で働かない訳にはいきません。母を1人家に置いて働くしかないのでしょうか。(50代)
- ...避難した次の年から、父と妻の母が入退院を繰り返し、現在は、父は入院中、妻の母は自分の事も出来なくなり、介護を受けないと生活が出来なくなりました。今は南相馬市に世話になり生活(ヘルパーさん)をしています。飯舘村で医療、介護が出来なければ、帰りたくても帰れないと言うのが本音です。(60代)

### 3-3 将来の意向

#### 3-3-1 今後の職業についての意向

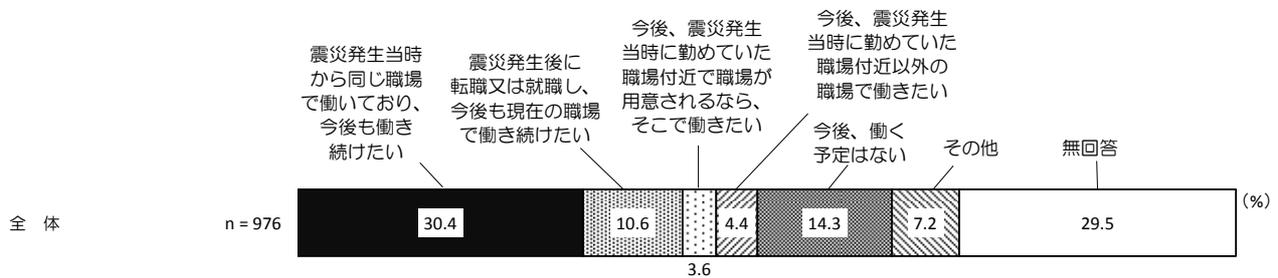
問 13 今後の職業についてどのように考えていますか。(〇は1つ)

##### (1) 震災時の職業が自営業・会社経営者以外

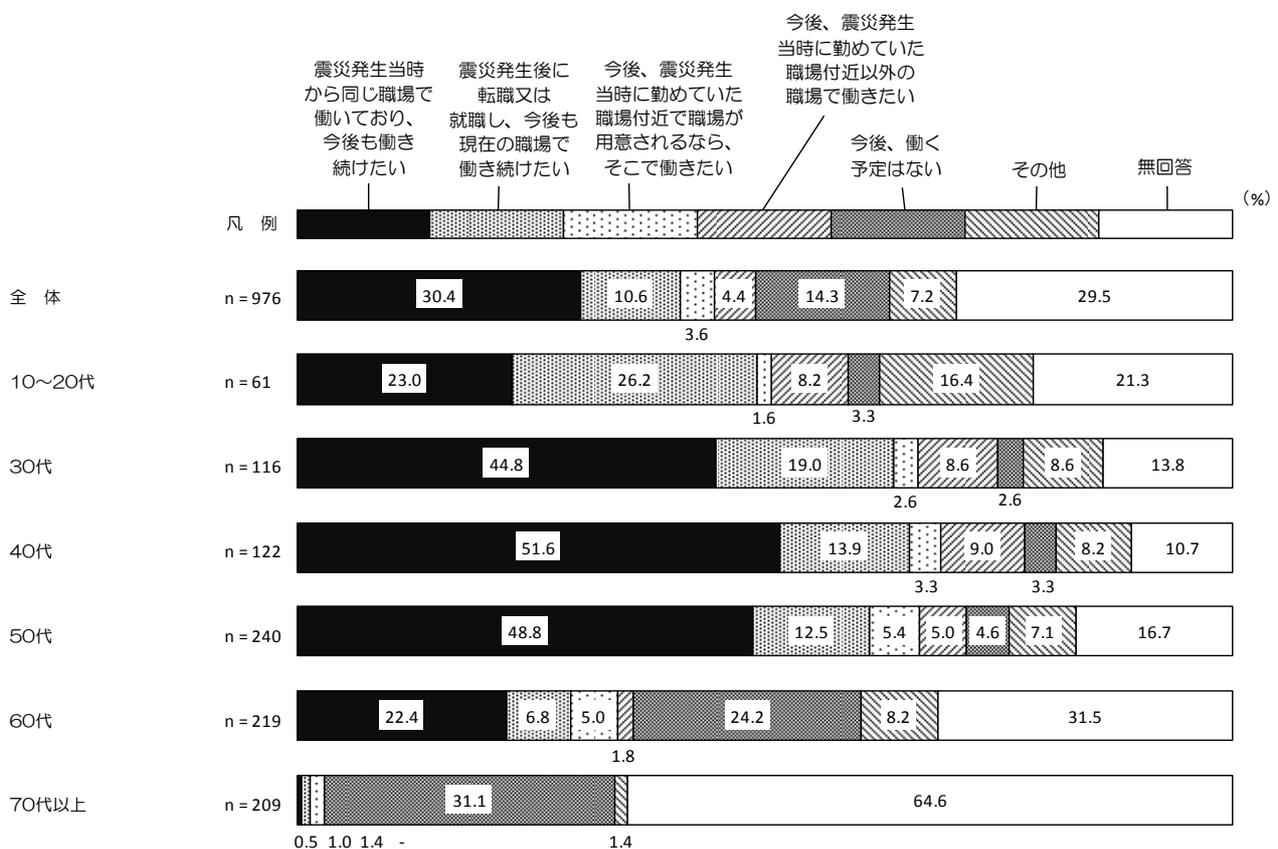
今後の職業の意向については、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が30.4%と最も高く、次いで「今後、働く予定はない」が14.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は、30～50代の年齢層で高くなっており、40代(51.6%)、50代(48.8%)で5割前後となっている。一方、10～20代では「震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働き続けたい」が26.2%と最も多くなっている。

<図表3-3-1-1 今後の職業の意向(自営業・会社経営者以外)>



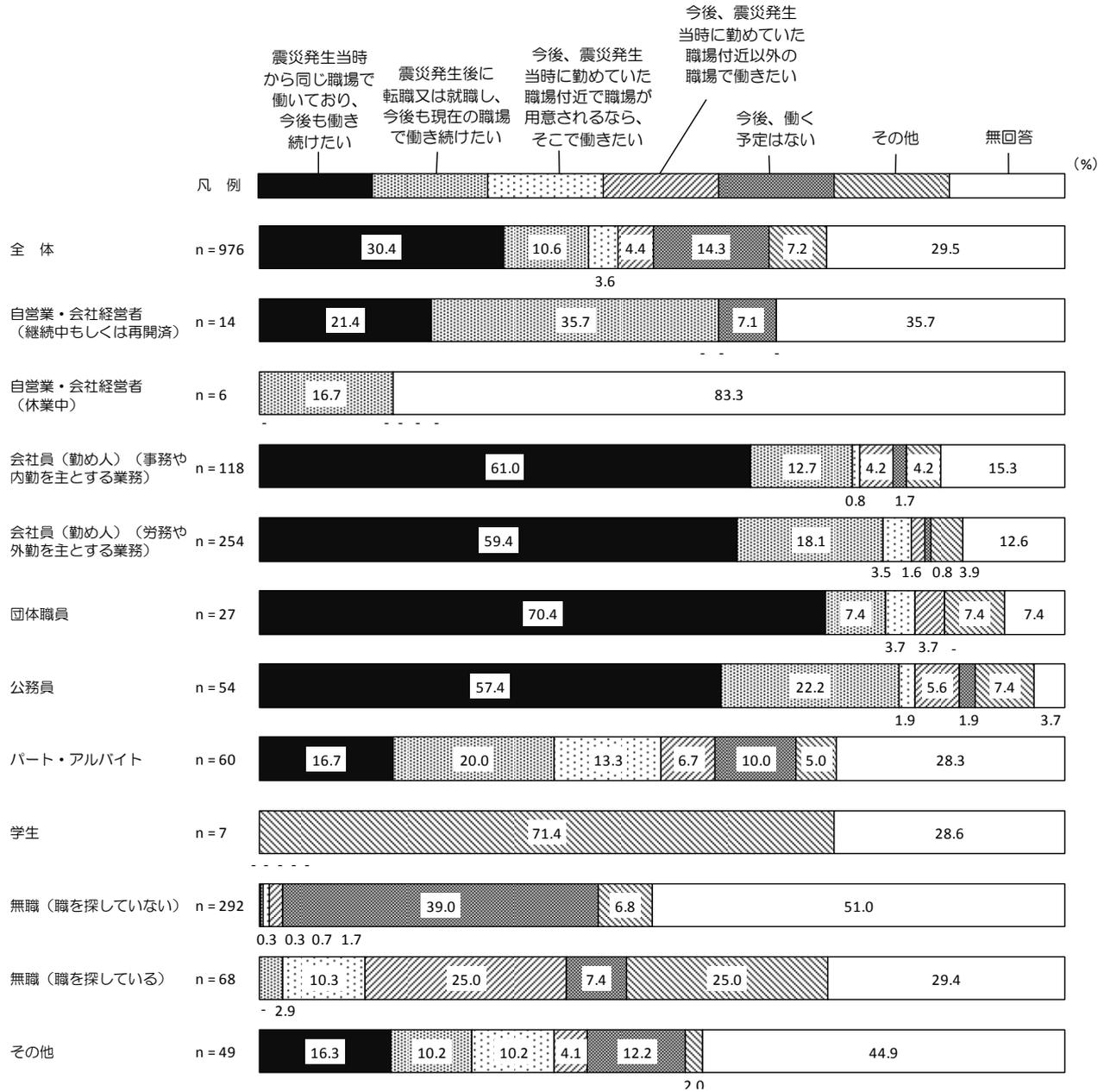
<図表3-3-1-2 今後の職業の意向(自営業・会社経営者以外)(世帯主の年齢別)>



### III 調査結果

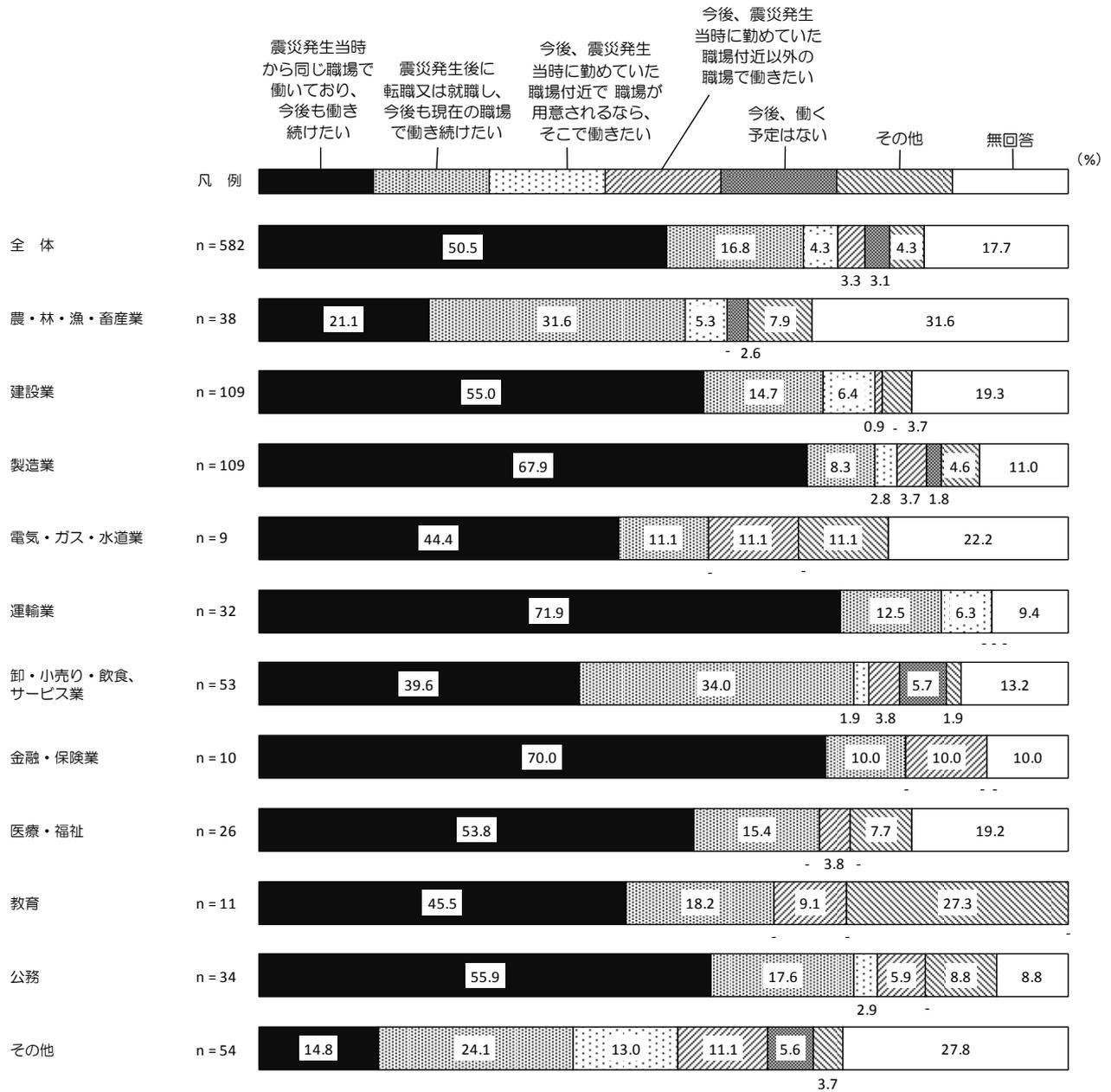
現在の職業別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（61.0%）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（59.4%）、公務員（57.4%）で6割前後となっている。

<図表3-3-1-3 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（現在の職業別）>



現在の職業の業種別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は、農・林・漁・畜産業以外の業種で最も高くなっており、運輸業（71.9%）、製造業（67.9%）では7割前後を占めている。

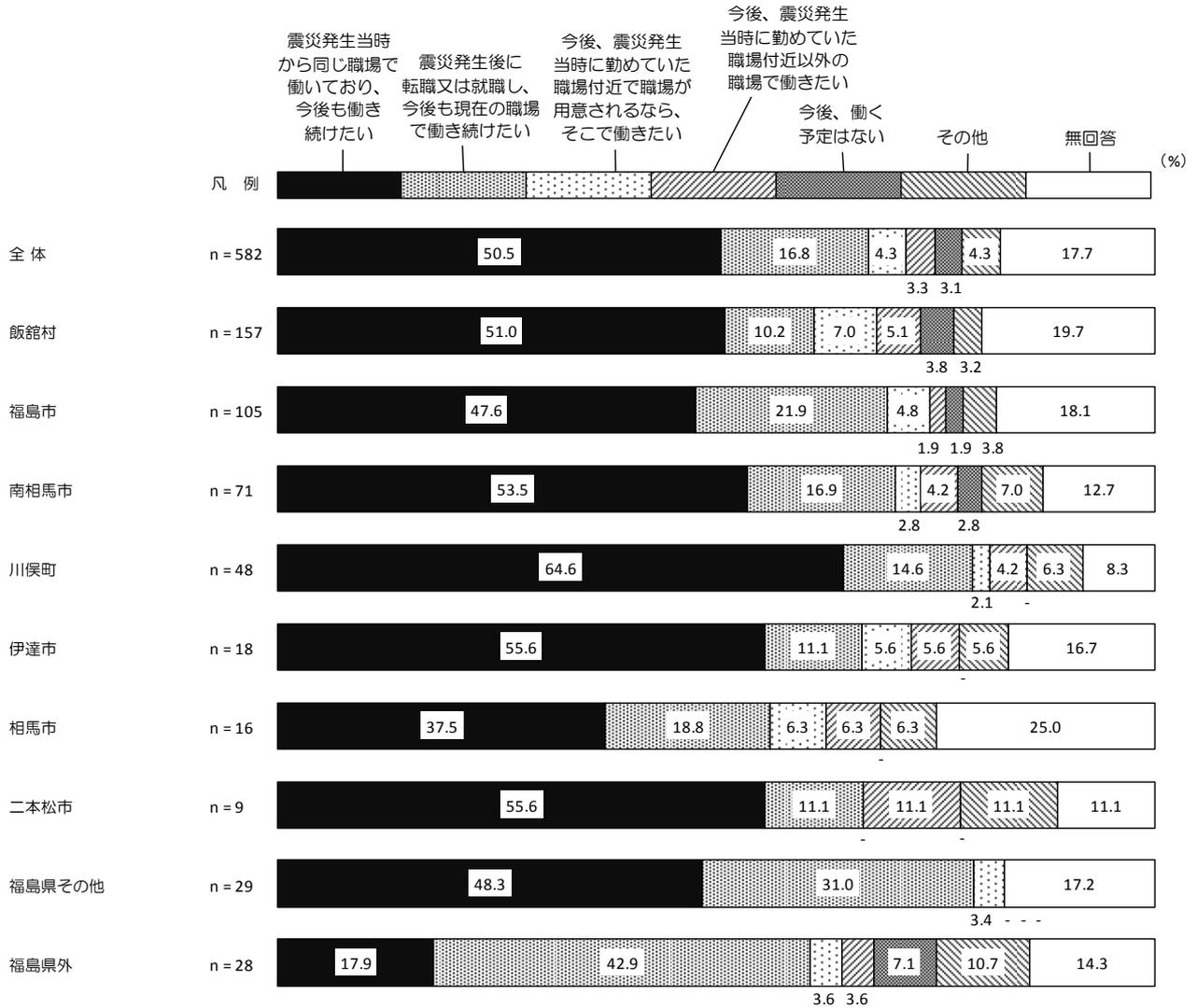
<図表3-3-1-4 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（現在の業種別）>



### III 調査結果

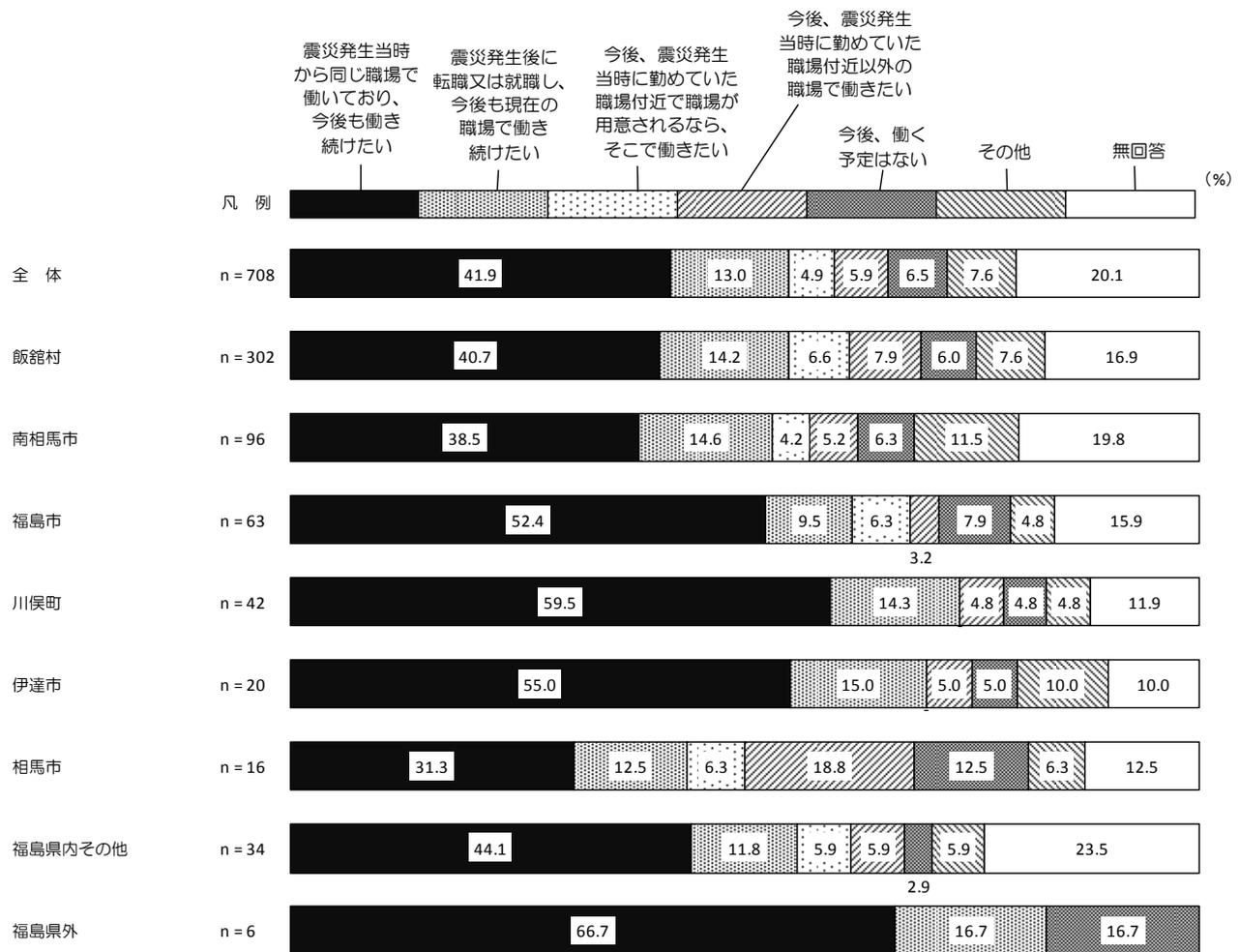
現在の就業先の所在自治体別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は、福島県外を除くいずれの就業先でも最も高くなっており、川俣町（64.6%）では6割を超えている。

<図表3-3-1-5 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（現在の就業先別）>



震災発生当時の就業先の所在自治体別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は、いずれの就業先でも最も高くなっており、川俣町（59.5%）、福島市（52.4%）で5割を超えている。

<図表3-3-1-6 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（震災発生当時の就業先別）>

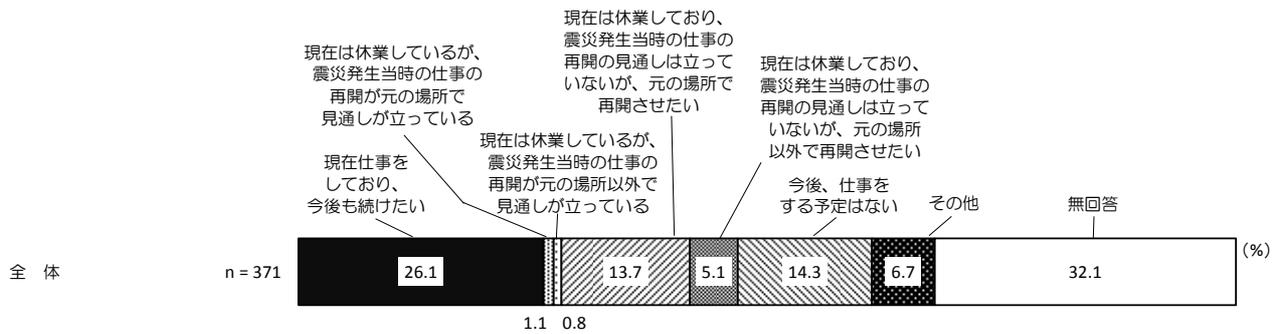


(2) 震災時の職業が自営業・会社経営者

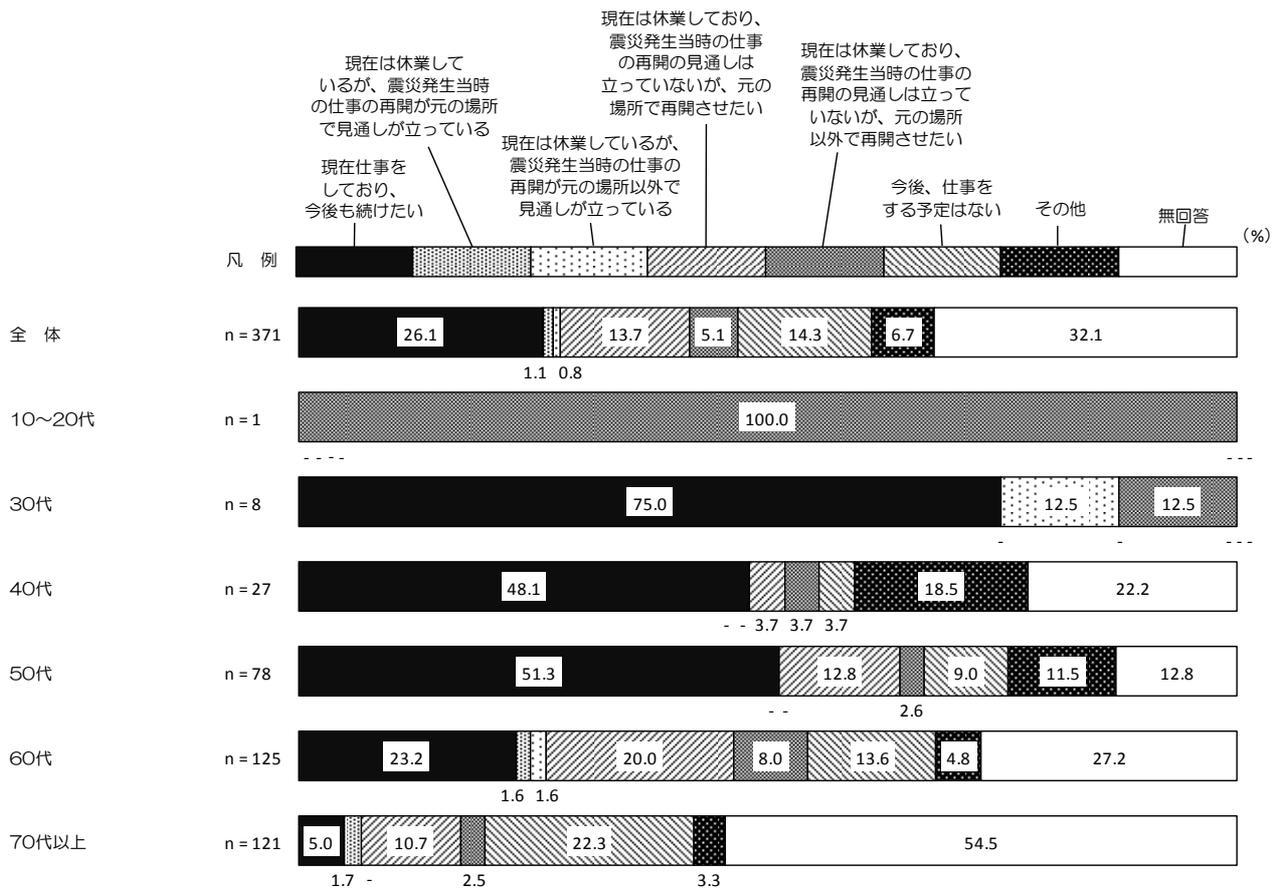
震災時に自営業・会社経営者だった人の、今後の職業の意向については、「現在仕事をしており、今後も続けたい」が26.1%と最も高く、次いで「今後、仕事をする予定はない」が14.3%、「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」が13.7%となっている。

世帯主の年齢別にみると、50代では「現在仕事をしており、今後も続けたい」(51.3%)が5割以上と、他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-3-1-7 今後の職業の意向(自営業・会社経営者)>

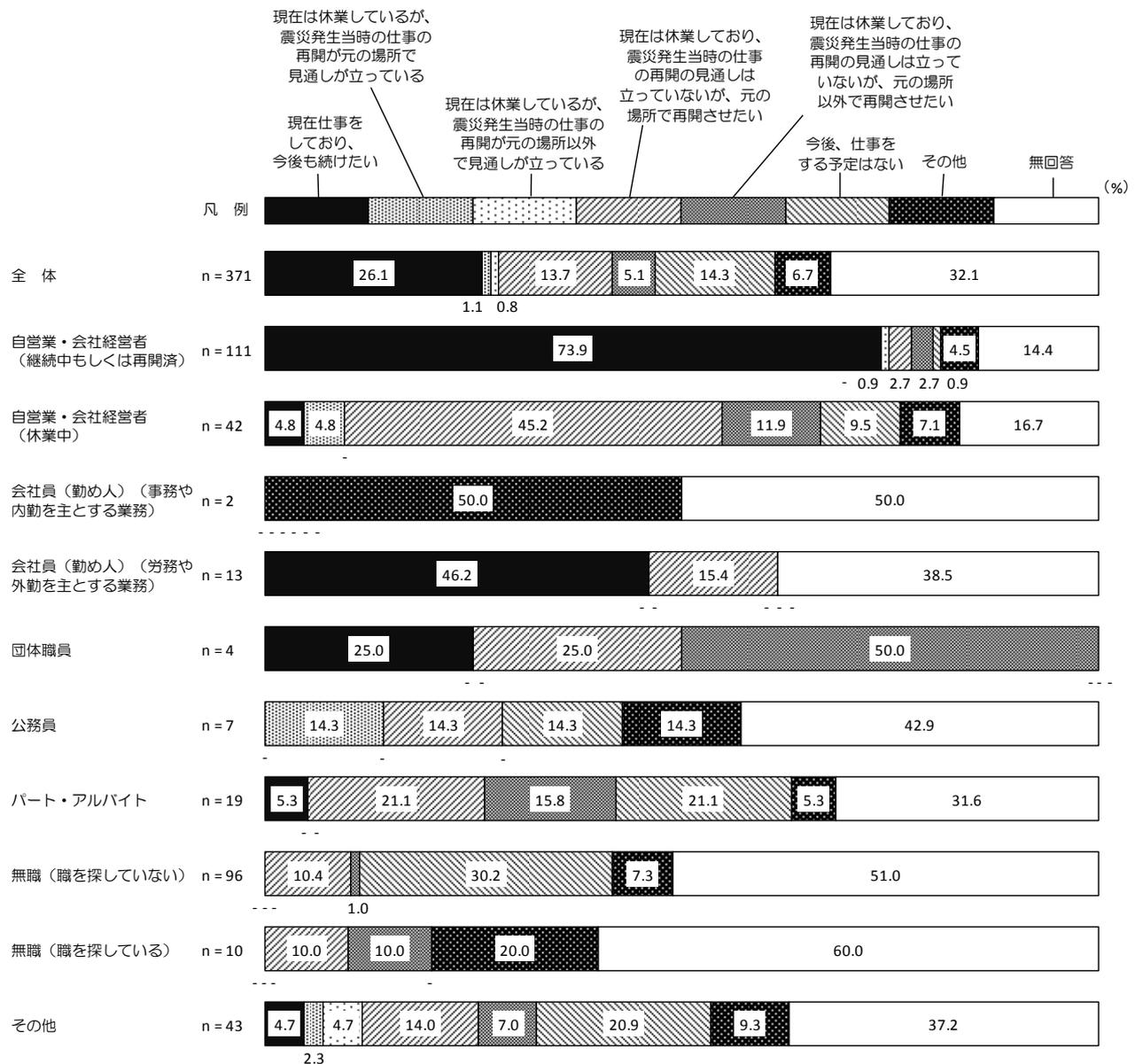


<図表3-3-1-8 今後の職業の意向(自営業・会社経営者)(世帯主の年齢別)>



現在の職業別にみると、「現在仕事をしており、今後も続けたい」は自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）が73.9%と、他の職業に比べて割合が高くなっている。また、自営業・会社経営者（休業中）では、「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」が45.2%と高くなっている。

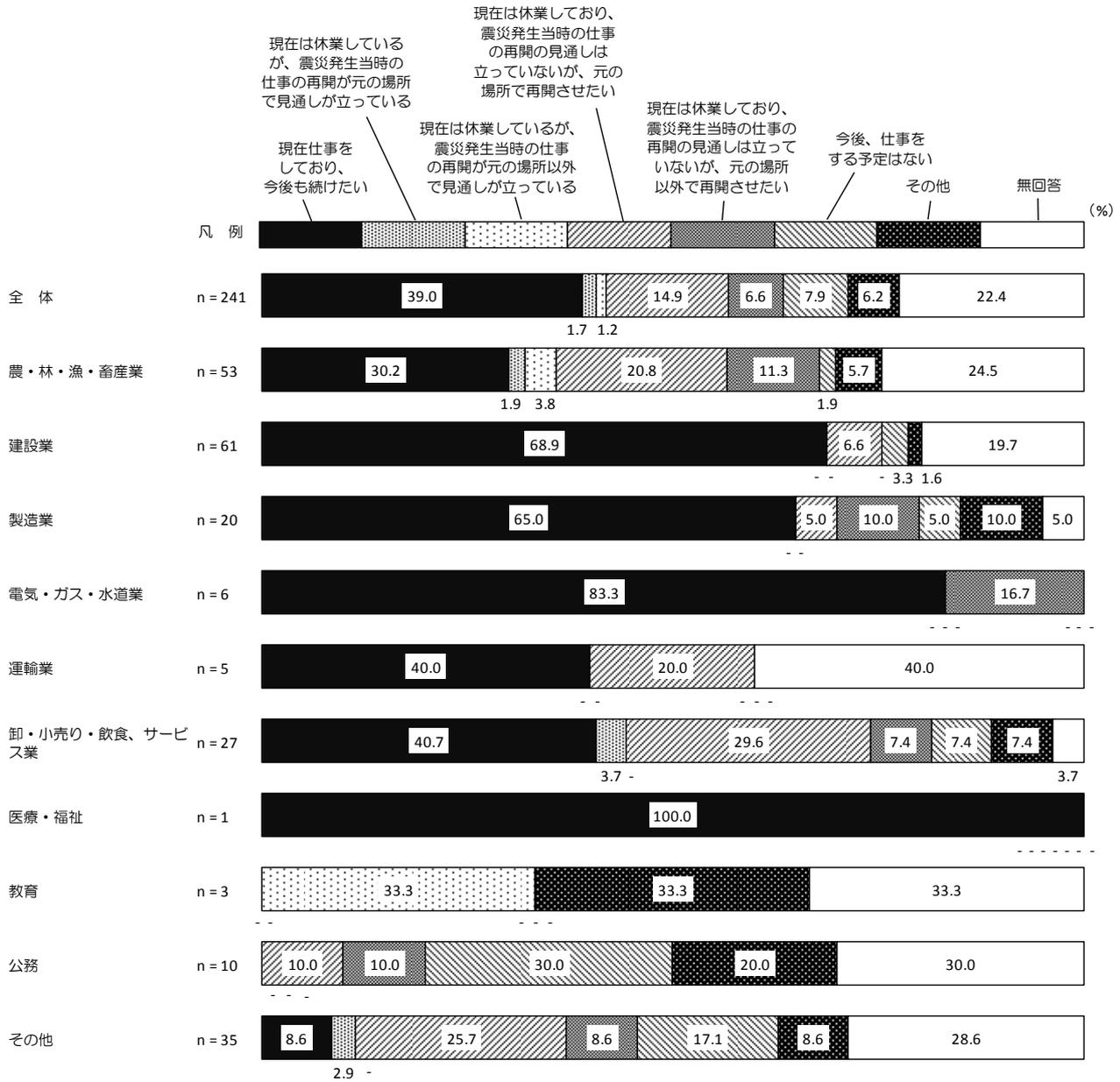
＜図表3-3-1-9 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（現在の職業別）＞



### III 調査結果

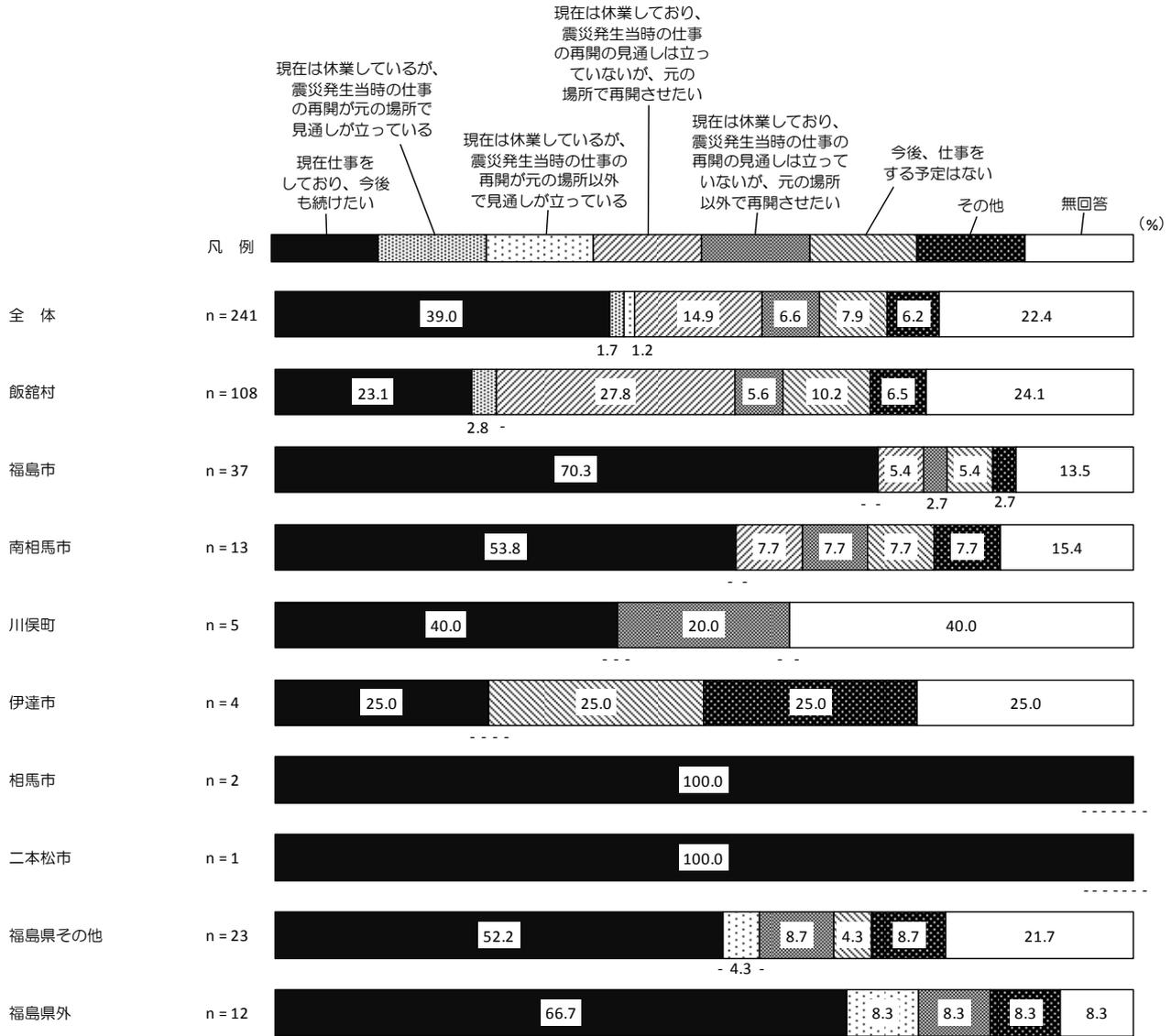
現在の職業の業種別にみると、「現在仕事をしており、今後も続けたい」は建設業（68.9%）で7割弱となっており、他の業種に比べて高くなっている。

<図表3-3-1-10 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（現在の業種別）>



現在の就業先の所在自治体別にみると、「現在仕事をしており、今後も続けたい」は福島市（70.3%）で7割となっており、他の就業先に比べて高くなっている。

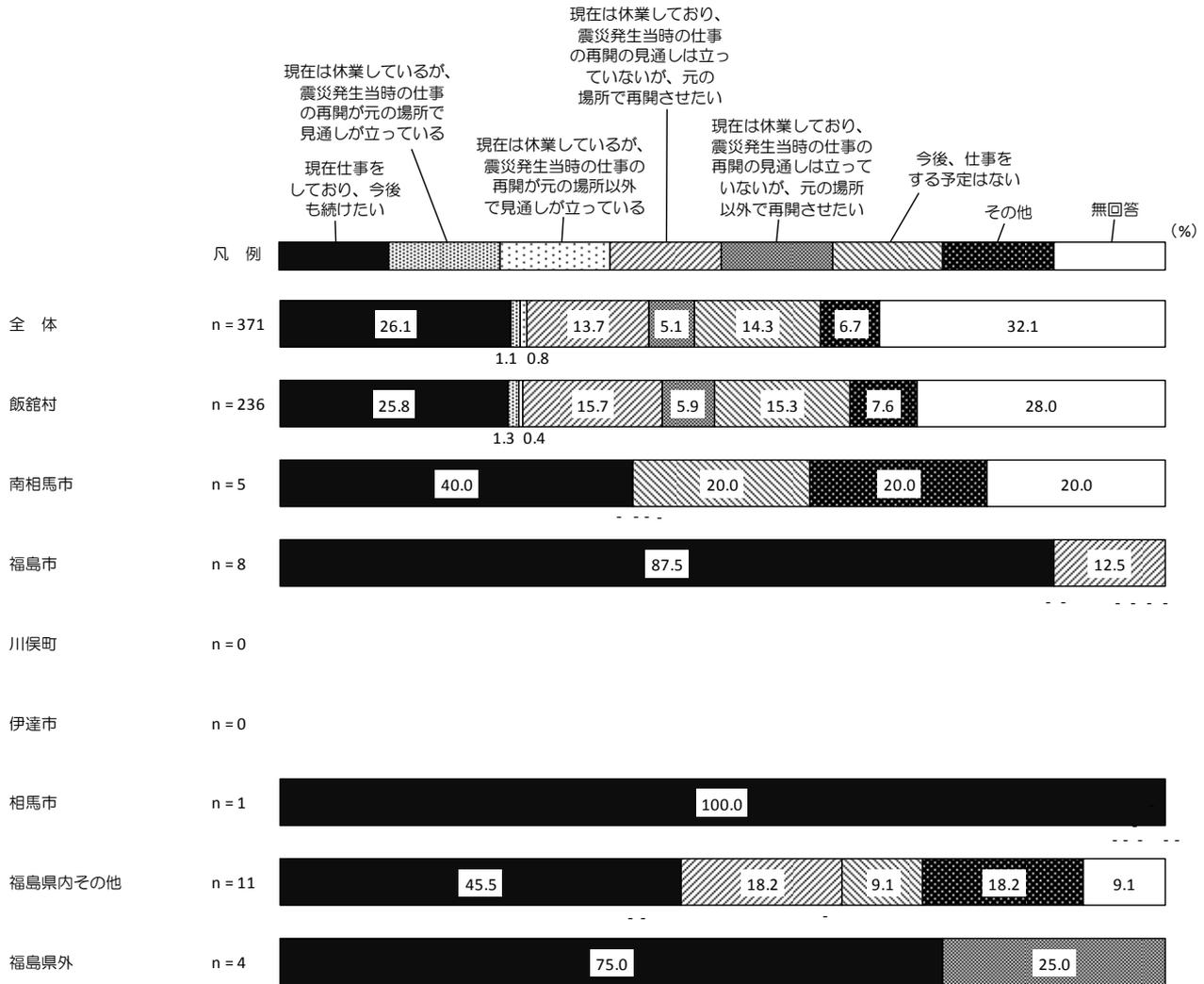
<図表3-3-1-11 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（現在の就業先別）>



### Ⅲ 調査結果

震災発生当時の就業先の所在自治体別にみると、飯舘村では「現在仕事をしており、今後も続けたい」が25.8%と最も高く、次いで「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」が15.7%、「今後、仕事をする予定はない」が15.3%となっている。

〈図表3-3-1-12 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（震災発生当時の就業先別）〉



### 3-3-2 職場を選ぶ際に重要視すること

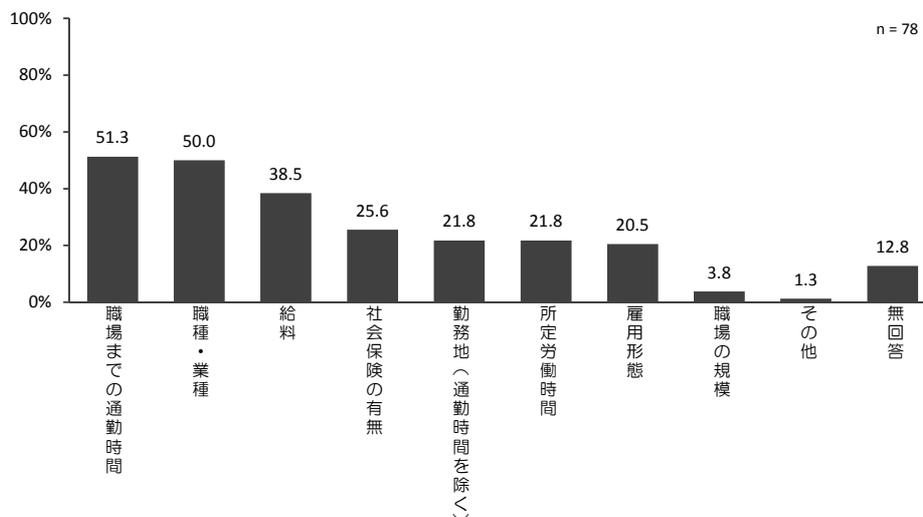
【問 13 で「3.今後、震災発生時に勤めていた職場付近で職場が用意されるなら、そこで働きたい」「4.今後、震災発生時に勤めていた職場付近以外の職場で働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1 職場を選ぶ際に、重要視することは何ですか。(〇は3つまで)

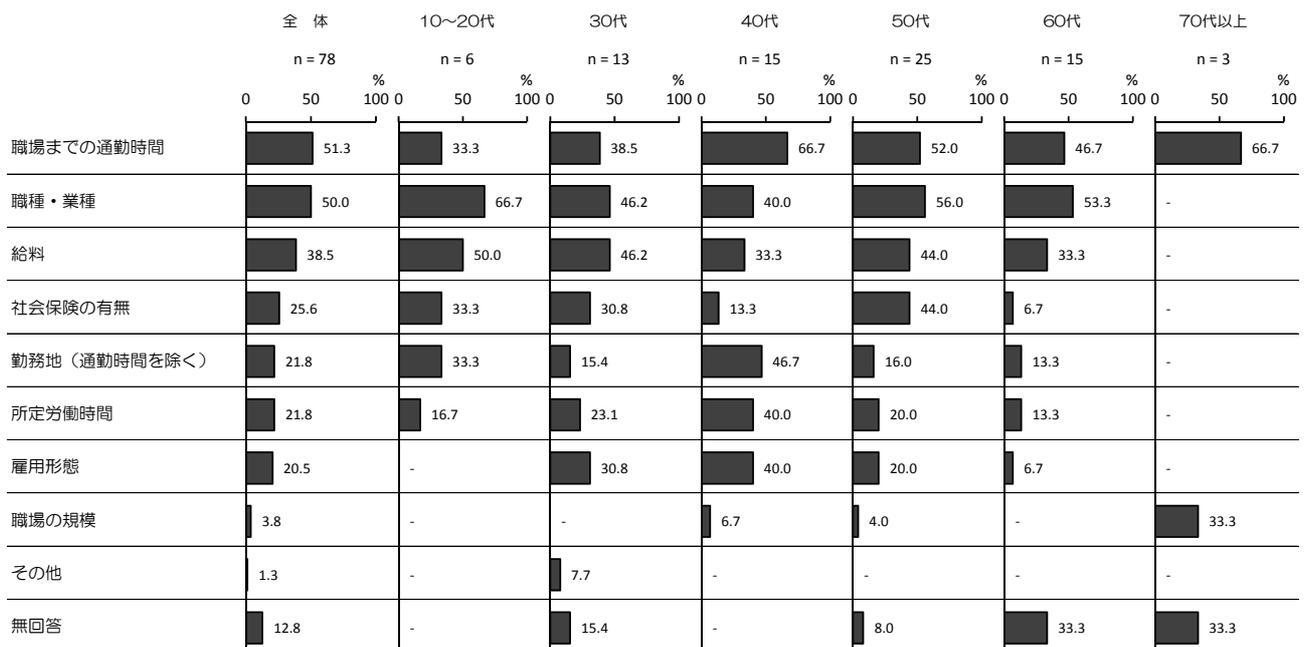
職場を選ぶ際に重要視することについては、「職場までの通勤時間」が51.3%と最も高く、次いで「職種・業種」が50.0%、「給料」が38.5%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、「職場までの通勤時間」は40代以上で5割以上と高くなっている。

<図表3-3-2-1 職場を選ぶ際に重要視すること>



<図表3-3-2-2 職場を選ぶ際に重要視すること(世帯主の年齢別)>



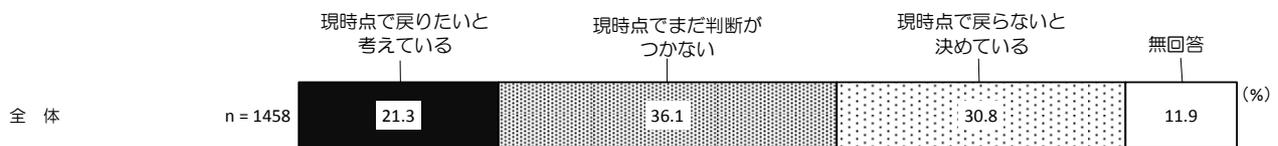
### 3-3-3 飯舘村への帰還意向

問 14 将来、飯舘村の避難指示が解除された後の飯舘村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。  
 (現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください) (〇は1つ)

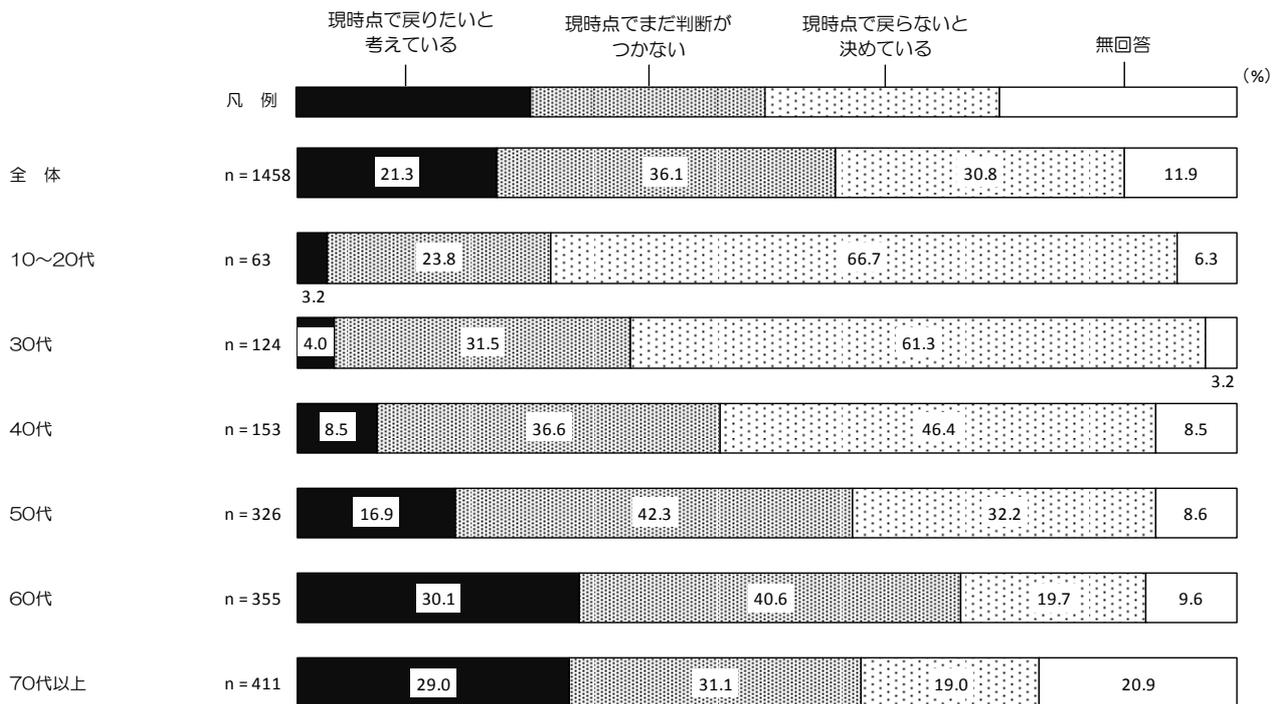
飯舘村への帰還意向については、「現時点で戻りたいと考えている」が21.3%と2割となっている。「現時点でまだ判断がつかない」は36.1%と最も高く、「現時点で戻らないと決めている」は30.8%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は概ね年齢が高くなるに従い高くなっており、60代(30.1%)、70代以上(29.0%)で3割前後となっている。一方、「現時点で戻らないと決めている」は10~20代(66.7%)、30代(61.3%)で6割を超えている。

<図表3-3-3-1 飯舘村への帰還意向>

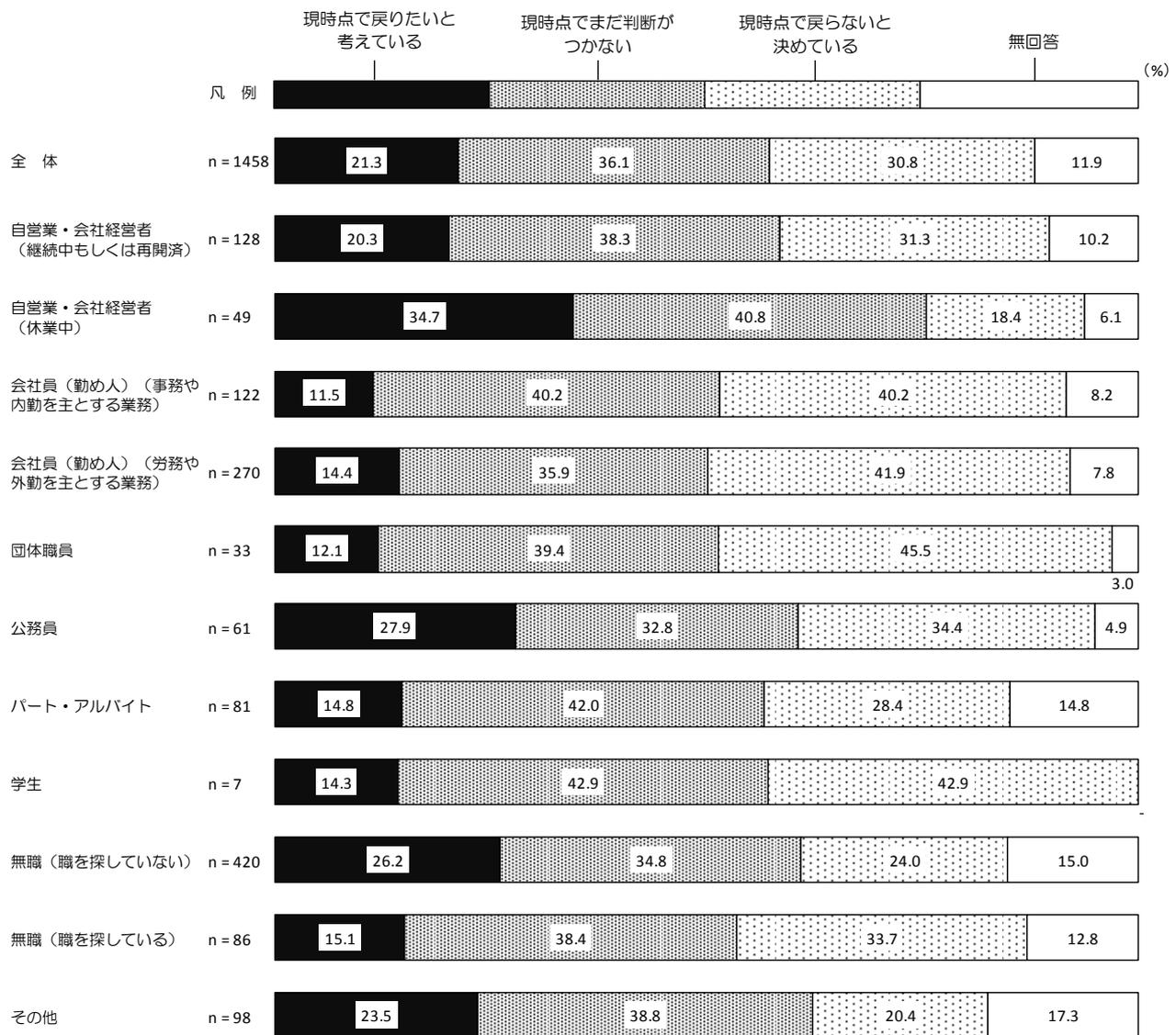


<図表3-3-3-2 飯舘村への帰還意向(世帯主の年齢別)>



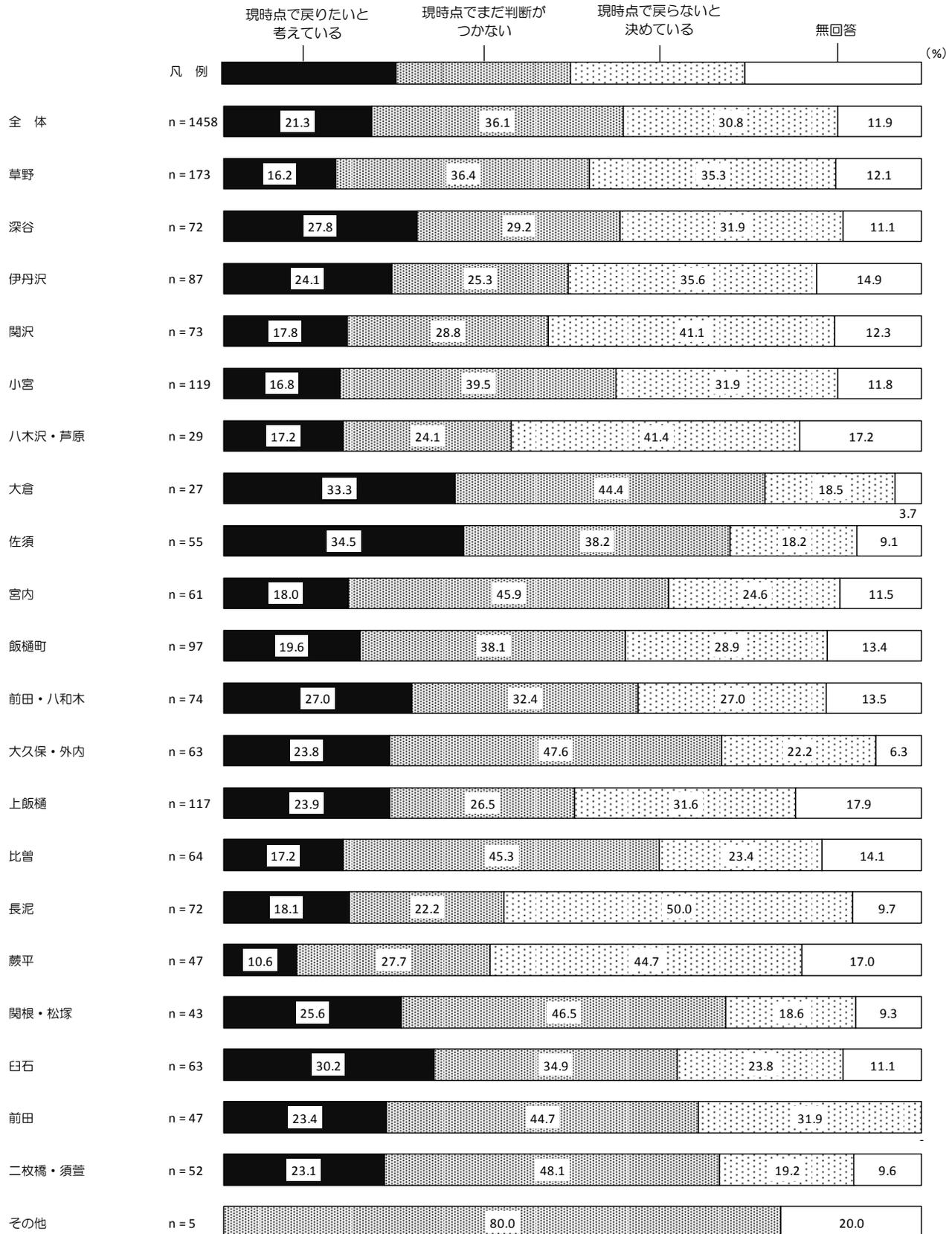
現在の職業別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、自営業・会社経営者（休業中）で34.7%と3割以上で、他の職業に比べて高くなっている。

<図表3-3-3-3 飯舘村への帰還意向（現在の職業別）>



震災発生時の居住行政区別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、佐須(34.5%)、臼石(30.2%)は3割以上と高く、深谷(27.8%)、前田・八和木(27.0%)などでも高くなっている。

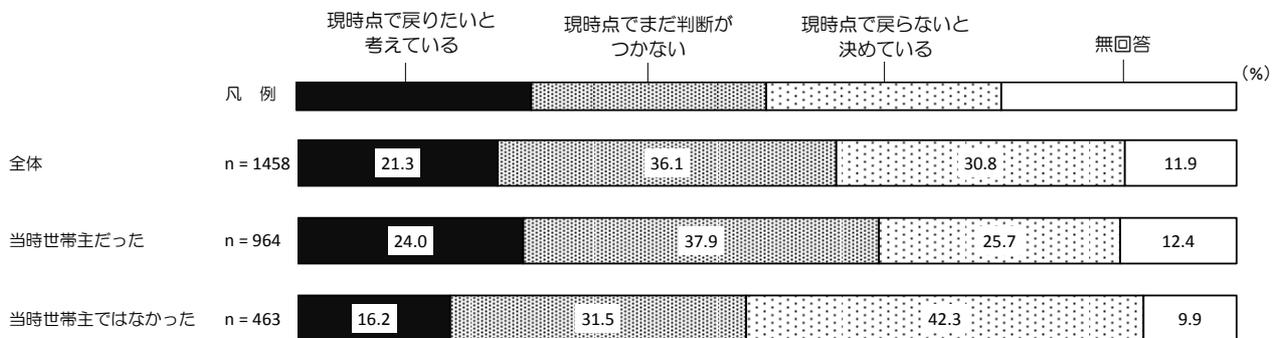
<図表3-3-3-4 飯館村への帰還意向(居住行政区別)>



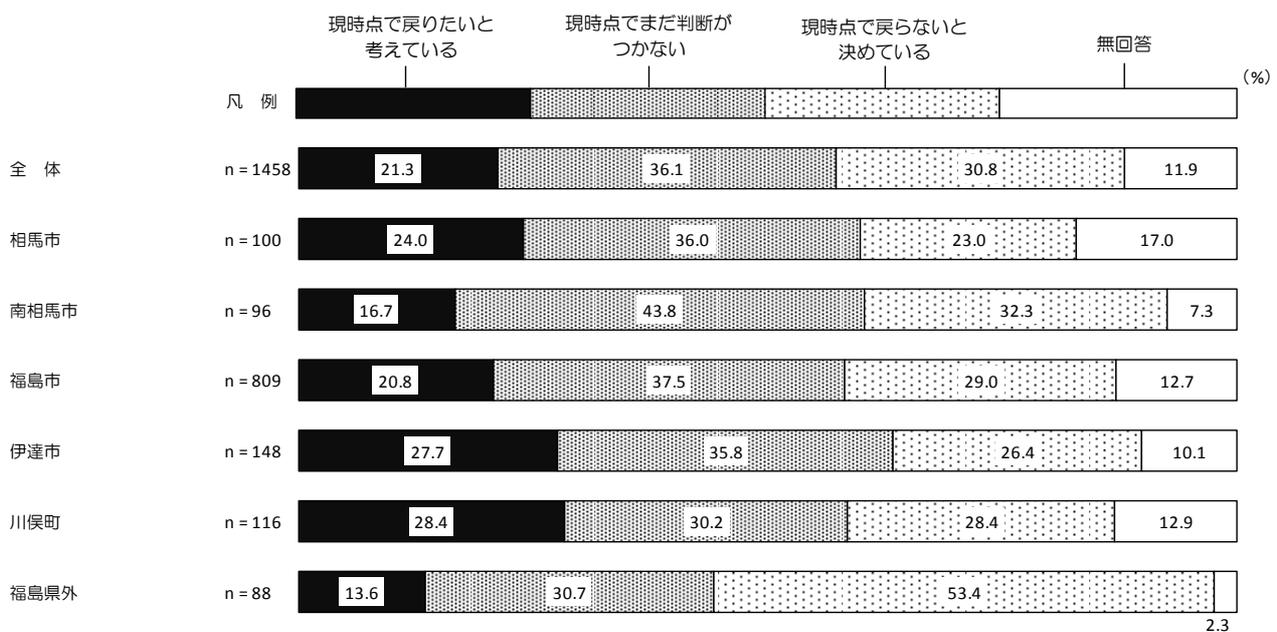
震災発生当時の世帯での立場別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、当時世帯主だったという世帯（24.0%）で2割を超える一方、当時世帯主ではなかったという世帯でやや低くなっている。

主な避難先自治体別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、川俣町（28.4%）、伊達市（27.7%）が3割弱で、他の避難先自治体に比べて高くなっている。

<図表3-3-3-5 飯舘村への帰還意向（当時の世帯での立場別）>



<図表3-3-3-6 飯舘村への帰還意向（主な避難先自治体別）>

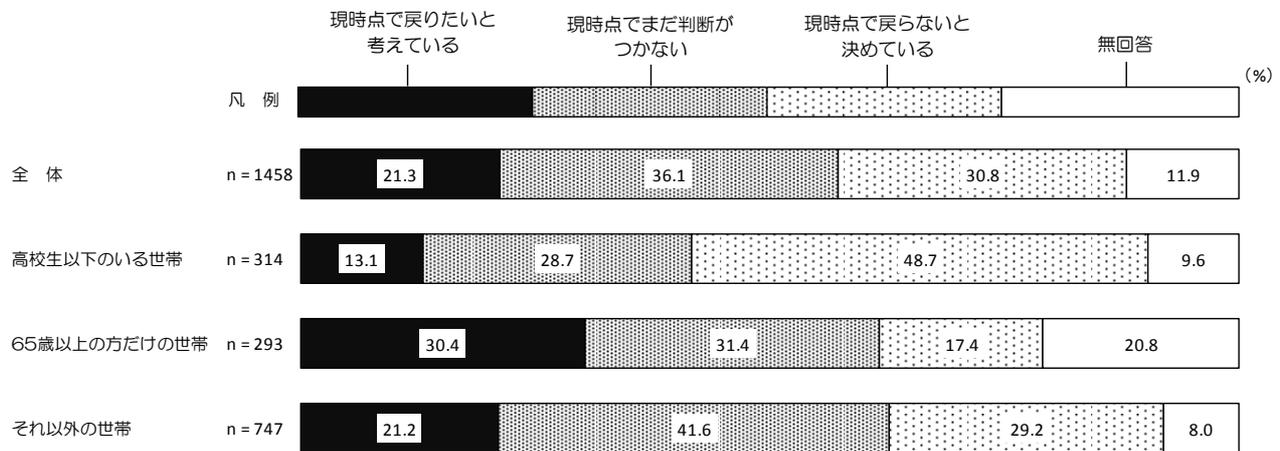


### Ⅲ 調査結果

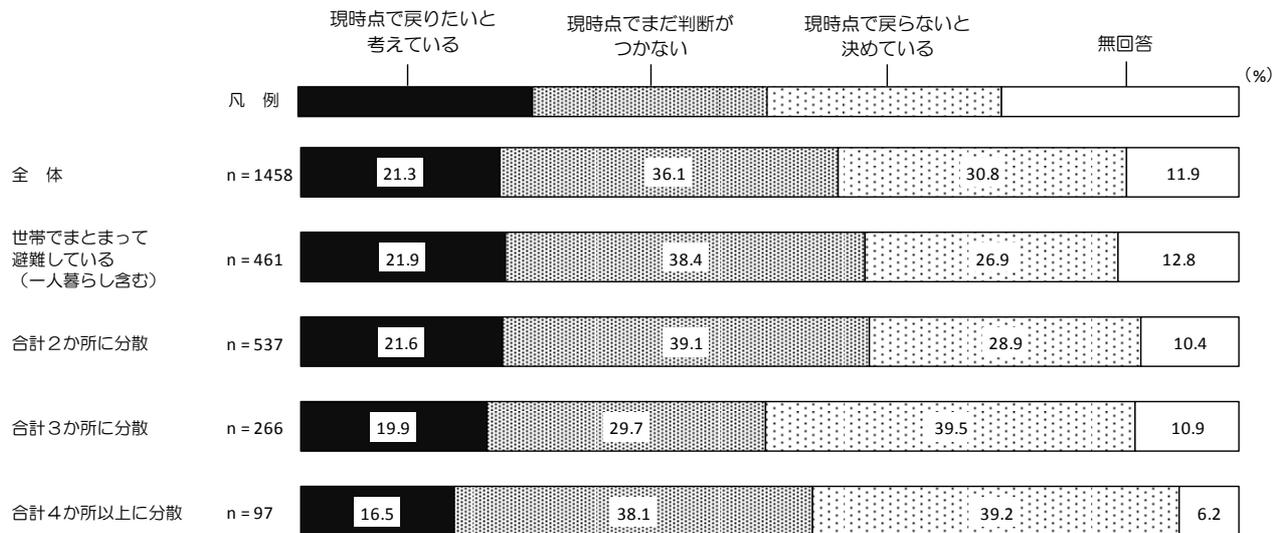
現在の世帯構成別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、65歳以上の方だけの世帯（30.4%）が3割で、他の世帯構成に比べて高くなっている。

世帯の分散状況別については、概ね全体と同様の傾向となっているが、「現時点で戻りたいと考えている」は、分散か所数が多くなるに従い割合が低くなっている。

<図表3-3-3-7 飯舘村への帰還意向（現在の世帯構成別）>



<図表3-3-3-8 飯舘村への帰還意向（世帯の分散状況別）>



### 3-3-4 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報

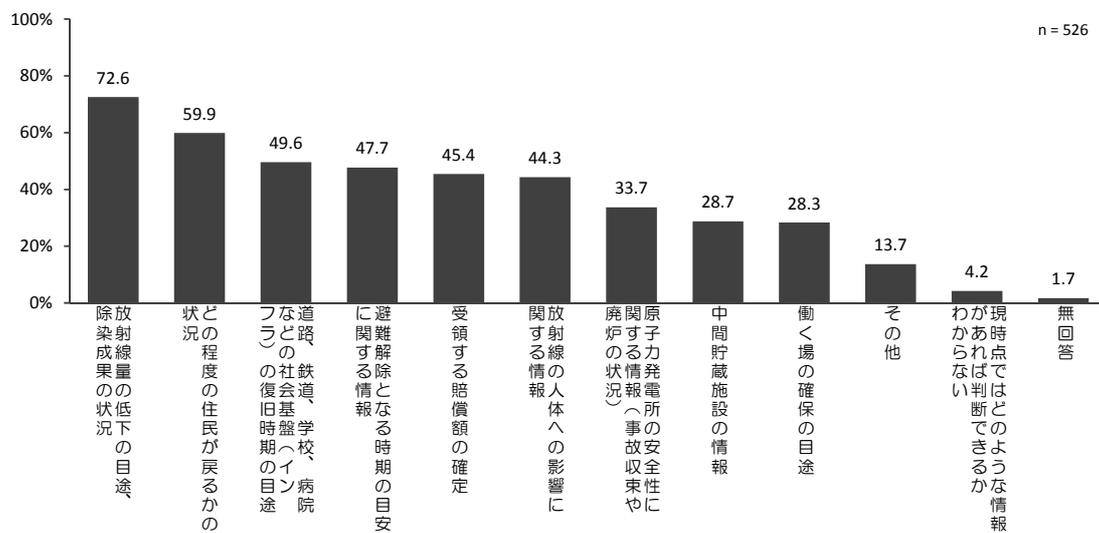
#### (1) 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問 14 で「2.現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 14-1 飯舘村へ戻ることが判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。  
(〇はいくつでも)

飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が72.6%と最も高く、次いで「どの程度の住民が戻るかの状況」が59.9%、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が49.6%などとなっている。

＜図表 3-3-4-1 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報＞

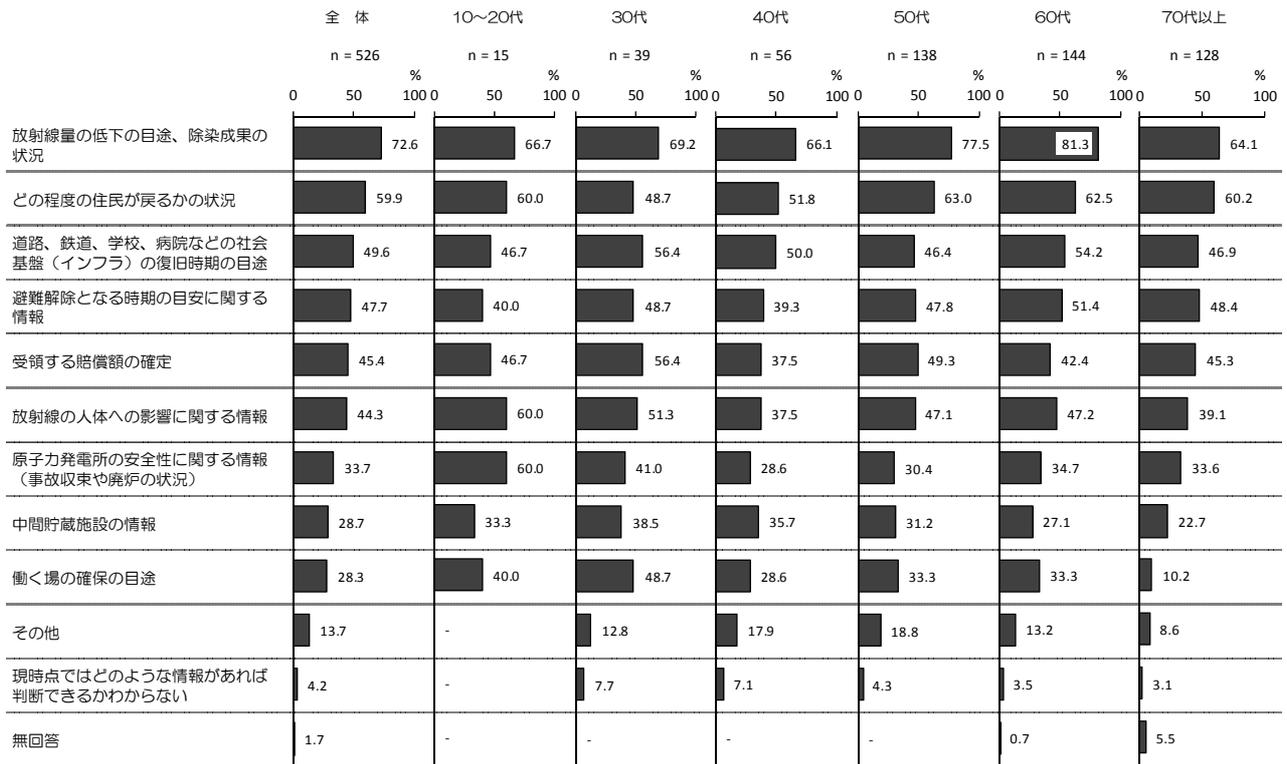


世帯主の年齢別にみると、概ね「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が最も高くなっており、次いで「どの程度の住民が戻るかの状況」となっている。

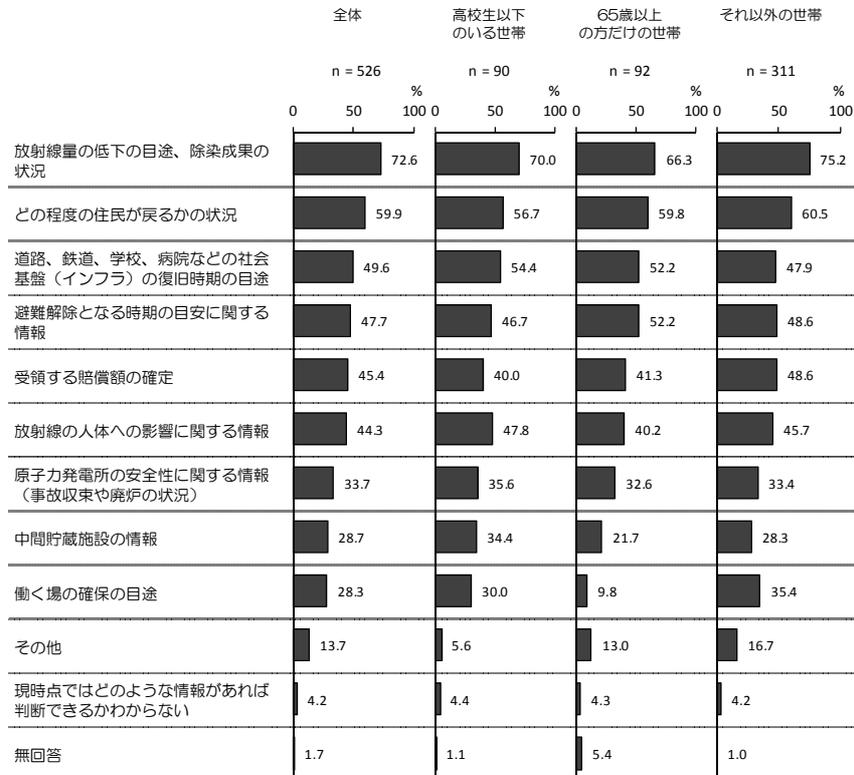
現在の世帯構成別にみても、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」、次いで「どの程度の住民が戻るかの状況」がいずれの世帯構成でも高くなっており、全体の傾向と同様となっている。

### III 調査結果

＜図表3-3-4-2 飯館村への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯主の年齢別）＞



＜図表3-3-4-3 飯館村への帰還を判断する上で必要と思う情報（現在の世帯構成別）＞



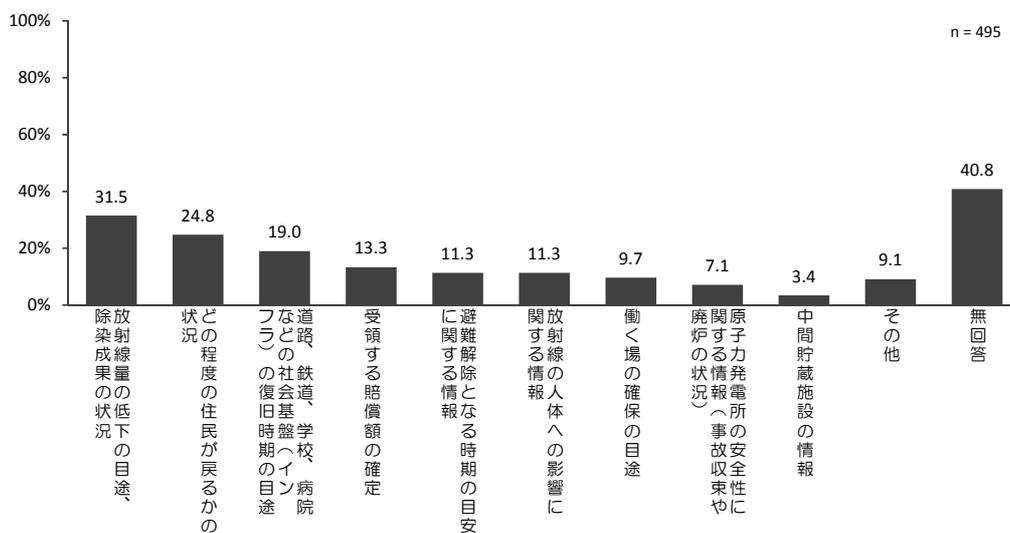
(2) 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【問 14-1 で「1」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 14-2 上記(問 14-1)で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。具体的な条件の内容をお書きください。

飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報(問 14-1)のうち重視したいものについては、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が31.5%と最も高く、次いで「どの程度の住民が戻るか」の状況」が24.8%、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」が19.0%などとなっている。

〈図表3-3-4-4 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの(3つまで)〉



上位項目の主な意見は以下のとおり。

[放射線量の低下の目途、除染成果の状況]

- 現在の利権だらけの除染ではなく、住民目線の除線が行政で責任をもって行うようになり、住民に分かりやすい情報の提供ができるようになれば。(10~20代)
- 子供に放射線の影響が無いと判断できるようになったら。(30代)
- 元の放射線量に戻して頂ければ…。(40代)
- 宅地ばかりではなく森林での放射線が低下すれば。(40代)
- 畑で野菜をつくれる。(50代)
- 孫が遊びに来られるような環境(放射線量)であれば。(50代)
- 放射線量が、住宅地、道路、農地での安全な線量になれば。(60代)
- 年間1 msv 以下になる目途があれば。(70代以上)

### Ⅲ 調査結果

#### [どの程度の住民が戻るかの状況]

- 若い人が戻る、周りに子供がいるなら戻っても良い。(30代)
- 半分以上の若い人達に戻るのであれば。(40代)
- とおり近所が戻らなくては、自分達だけではどうにもならない。(50代)
- 近所の人や若い世代が半分ぐらい戻るのであれば。(50代)
- 元の人口の半分でも戻ってくるのであれば。(60代)
- 元の行政区の半数以上が戻ってくれば。(60代)
- 元のコミュニティ形成が可能(6割強)であれば。(60代)
- 村民の7割くらい戻るのであれば。(70代以上)
- 老人だけが戻るのか、戻る人の年代が知りたい。(70代以上)

#### [道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途]

- 最低限生活できる環境が整えば。(10~20代)
- 主要道路及び宅地周囲のインフラが震災前と同等になれば。(30代)
- 学校・店が普通にはじめられるようであれば。(30代)
- 病院(震災前以上に必要となるはず→健康診断を、継続的にできるよう)、店(農業で自給できなくなった)。(40代)
- 障害のある子供が通学できる学校があれば。(40代)
- 病院も村に戻って開業すれば(50代)
- 学校へのスクールバス運行や病院へのバス運行。(50代)
- 役場、学校等公的機関の帰村。(60代)
- 道路、学校、病院などの社会基盤。(70代以上)

### 3-3-5 帰還する場合の住居形態

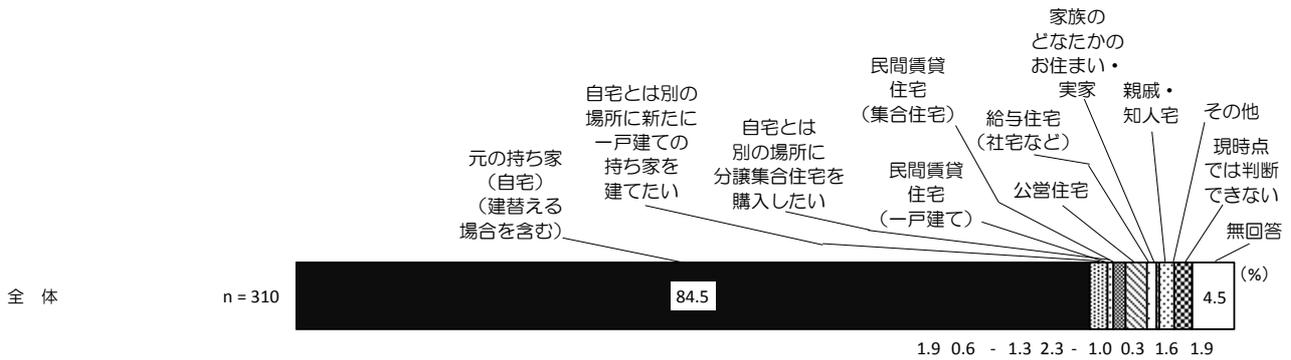
【問 14 で「1.現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

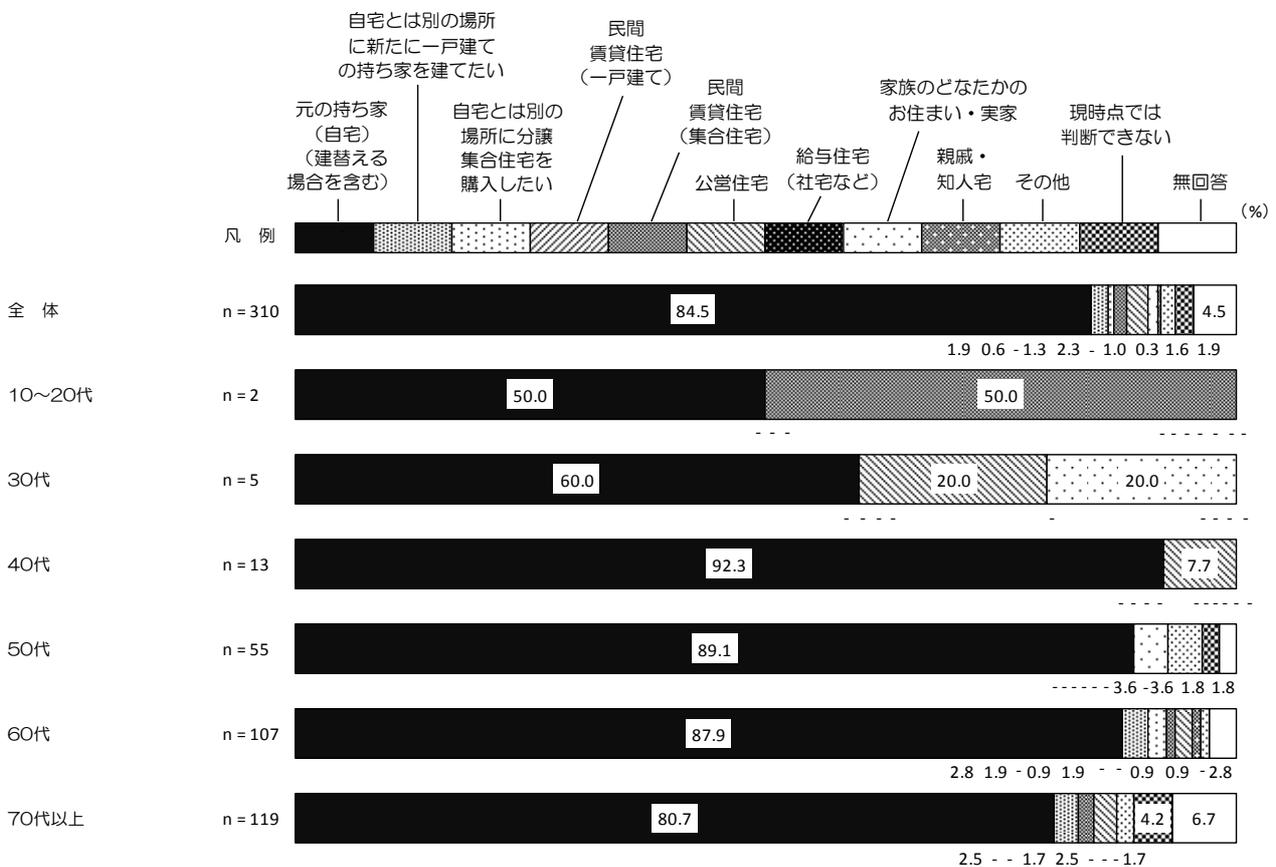
帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」が 84.5%と最も高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」がいずれの年齢層でも最も高くなっている。

<図表3-3-5-1 帰還する場合の住居形態>



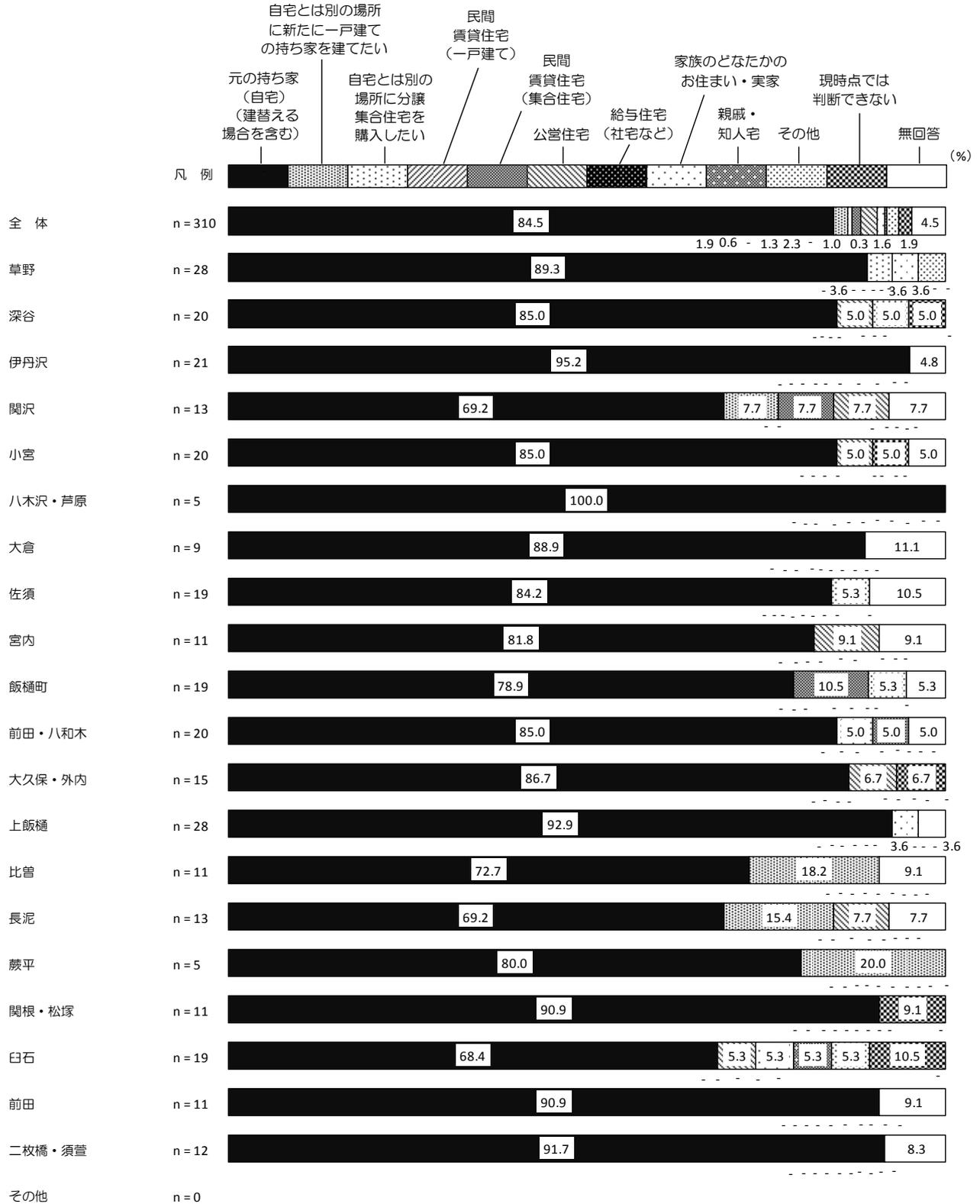
<図表3-3-5-2 帰還する場合の住居形態（世帯主の年齢別）>



### III 調査結果

震災発生時の居住行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」がいずれの行政区でも最も高くなっている。

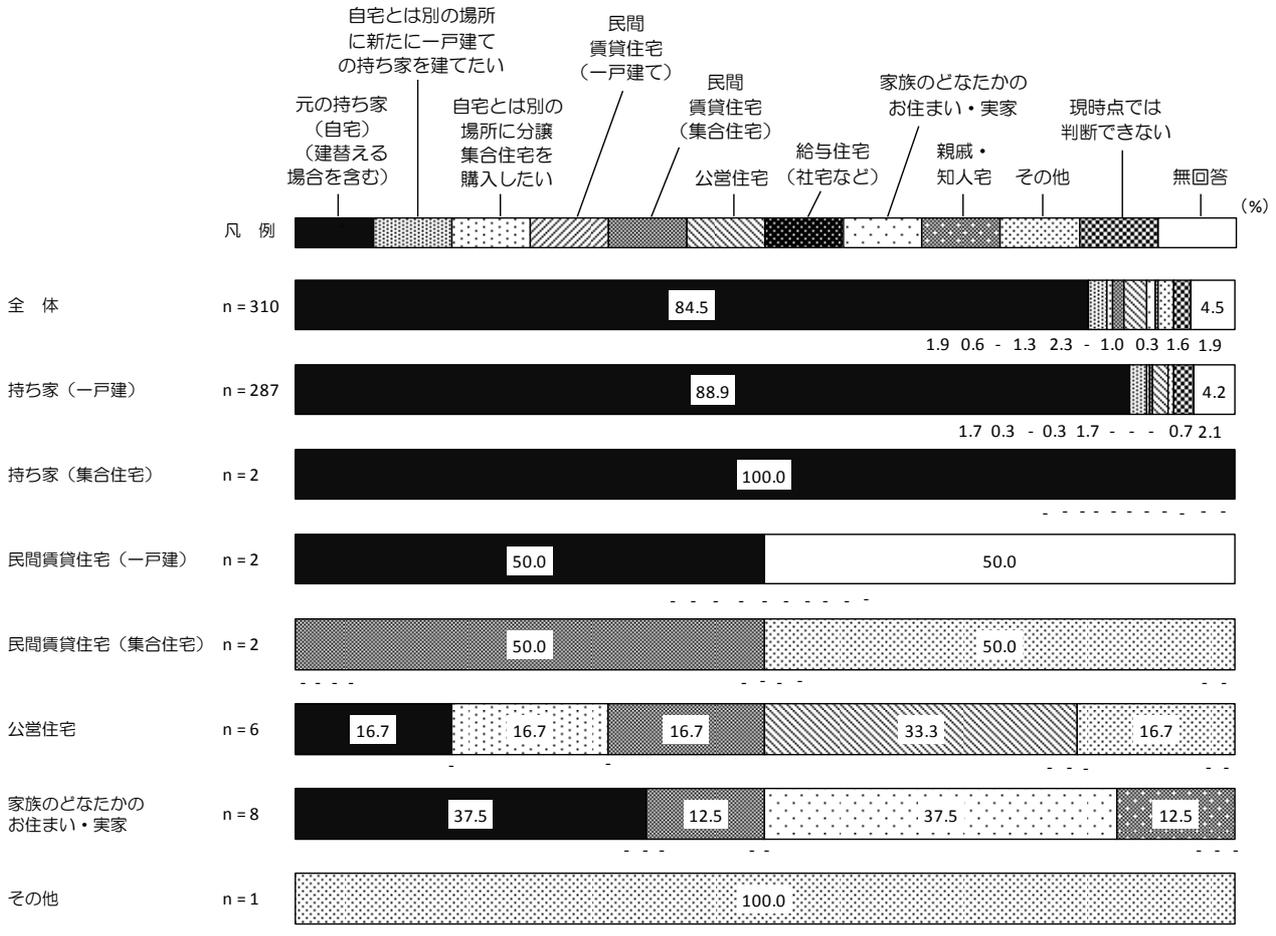
<図表3-3-5-3 帰還する場合の住居形態（居住行政区別）>



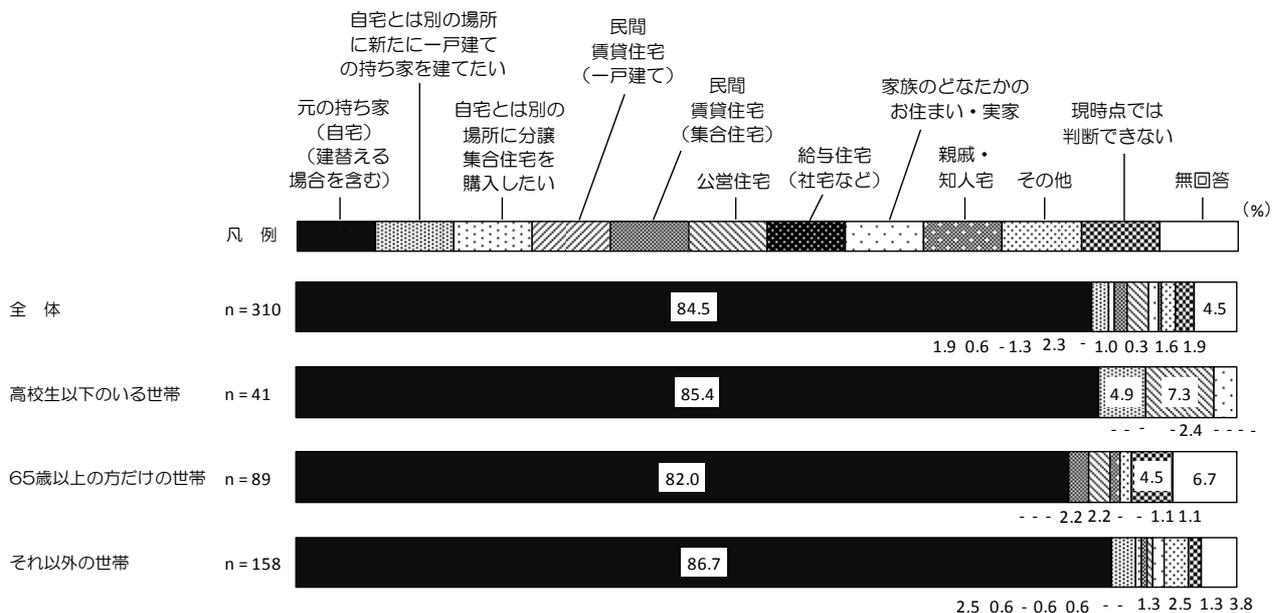
震災発生時の住居形態別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」は、持ち家（一戸建）が88.9%と9割弱と高くなっている。

現在の世帯構成別については、全体の傾向と同様となっている。

<図表3-3-5-4 帰還する場合の住居形態（震災当時の住居形態別）>



<図表3-3-5-5 帰還する場合の住居形態（現在の世帯構成別）>



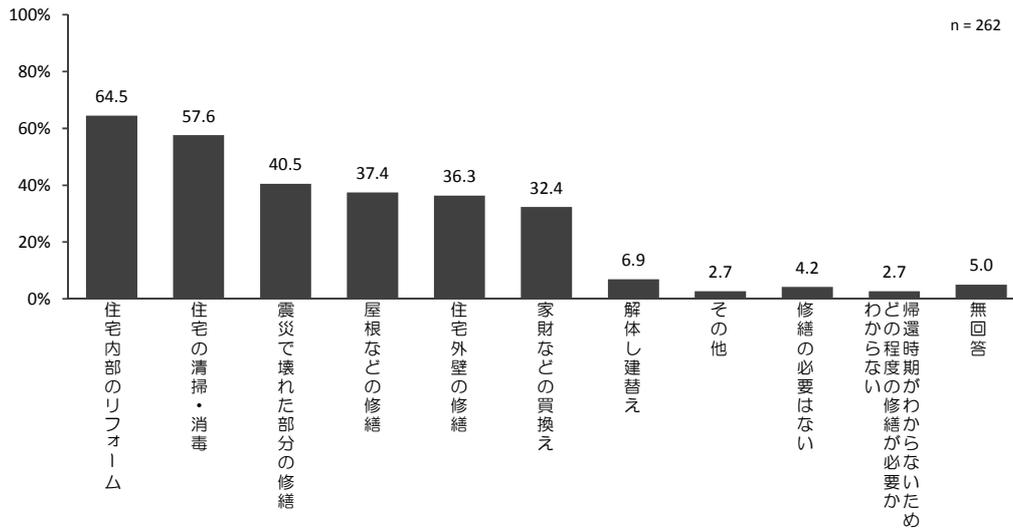
### 3-3-6 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕

【問 14-3 で「1.元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 14-4 元の持ち家に戻る場合、ご自宅に対してどのような修繕などが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

元の持ち家に戻る場合に必要な修繕については、「住宅内部のリフォーム」が 64.5%と最も高く、次いで「住宅の清掃・消毒」が 57.6%、「震災で壊れた部分の修繕」が 40.5%などとなっている。

<図表 3-3-6-1 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕>



震災発生時の居住行政区別にみると、「住宅内部のリフォーム」は、伊丹沢（80.0%）、佐須（75.0%）などで高くなっている。

<図表3-3-6-2 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕（居住行政区別）>

													(%)
	n	住宅内部のリフォーム	住宅の清掃・消毒	震災で壊れた部分の修繕	屋根などの修繕	住宅外壁の修繕	家財などの買換え	解体し建替え	その他	修繕の必要はない	がためど帰還時期がわからないから修繕しない	無回答	
全体	262	64.5	57.6	40.5	37.4	36.3	32.4	6.9	2.7	4.2	2.7	5.0	
草野	25	72.0	72.0	56.0	20.0	40.0	40.0	-	4.0	8.0	-	-	
深谷	17	64.7	41.2	47.1	23.5	35.3	23.5	5.9	5.9	5.9	-	11.8	
伊丹沢	20	80.0	65.0	45.0	50.0	45.0	25.0	5.0	-	-	5.0	5.0	
関沢	9	77.8	66.7	22.2	55.6	22.2	44.4	-	11.1	-	11.1	-	
小宮	17	58.8	52.9	29.4	58.8	41.2	35.3	23.5	-	-	-	-	
八木沢・芦原	5	60.0	60.0	-	40.0	40.0	60.0	-	-	20.0	-	-	
大倉	8	62.5	62.5	50.0	50.0	50.0	25.0	12.5	12.5	-	-	12.5	
佐須	16	75.0	56.3	31.3	50.0	56.3	43.8	12.5	-	6.3	-	6.3	
宮内	9	88.9	88.9	22.2	44.4	33.3	44.4	11.1	-	-	11.1	-	
飯樋町	15	53.3	46.7	46.7	26.7	20.0	40.0	6.7	6.7	6.7	6.7	-	
前田・八和木	17	47.1	58.8	41.2	35.3	29.4	23.5	-	-	11.8	-	11.8	
大久保・外内	13	69.2	46.2	46.2	46.2	46.2	15.4	-	-	-	-	15.4	
上飯樋	26	61.5	57.7	53.8	34.6	38.5	34.6	7.7	-	7.7	7.7	-	
比叡	8	62.5	37.5	50.0	62.5	37.5	25.0	25.0	-	-	-	-	
長泥	9	33.3	66.7	22.2	22.2	-	44.4	22.2	11.1	-	-	-	
藤平	4	25.0	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	25.0	
関根・松塚	10	70.0	70.0	30.0	30.0	30.0	30.0	-	-	-	-	10.0	
臼石	13	61.5	46.2	53.8	38.5	53.8	23.1	-	-	7.7	-	-	
前田	10	60.0	30.0	30.0	30.0	20.0	20.0	10.0	10.0	-	-	20.0	
二枚橋・須萱	11	72.7	63.6	27.3	18.2	27.3	36.4	-	-	-	9.1	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

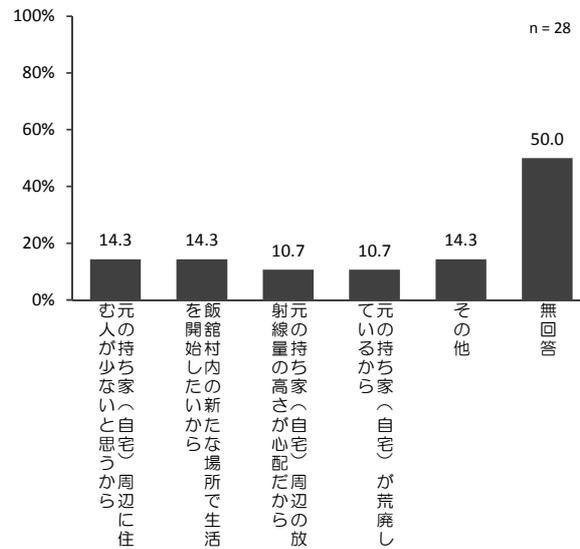
### 3-3-7 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 14-3 で「2」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 14-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから」、「飯館村内の新たな場所で生活を開始したいから」が 14.3%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が 10.7%などとなっている。

<図表 3-3-7-1 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



<図表3-3-7-2 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由（居住行政区別）>

	n	(%)					
		元の持ち家（自宅）が少なく、周辺から	飯舘村の新たな生活を開始したいから	元の持ち家（自宅）の放射線量の高さが心配だから	元の持ち家（自宅）が荒廃しているから	その他	無回答
全 体	28	14.3	14.3	10.7	10.7	14.3	50.0
草 野	3	-	-	-	-	33.3	66.7
深谷	2	-	-	-	-	-	100.0
伊丹沢	-	-	-	-	-	-	-
関沢	3	33.3	-	33.3	66.7	33.3	33.3
小宮	1	-	-	-	100.0	-	-
八木沢・芦原	-	-	-	-	-	-	-
大倉	-	-	-	-	-	-	-
佐須	1	-	-	-	-	-	100.0
宮内	1	100.0	-	-	-	-	-
飯櫃町	3	-	-	-	-	-	100.0
前田・八和木	2	50.0	50.0	50.0	-	-	-
大久保・外内	1	-	-	-	-	-	100.0
上飯櫃	1	-	-	-	-	-	100.0
比曾	2	-	100.0	-	-	-	-
長泥	3	33.3	-	33.3	-	-	33.3
蔵平	1	-	100.0	-	-	-	-
関根・松塚	-	-	-	-	-	-	-
臼石	4	-	-	-	-	50.0	50.0
前田	-	-	-	-	-	-	-
二枚橋・須堂	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-

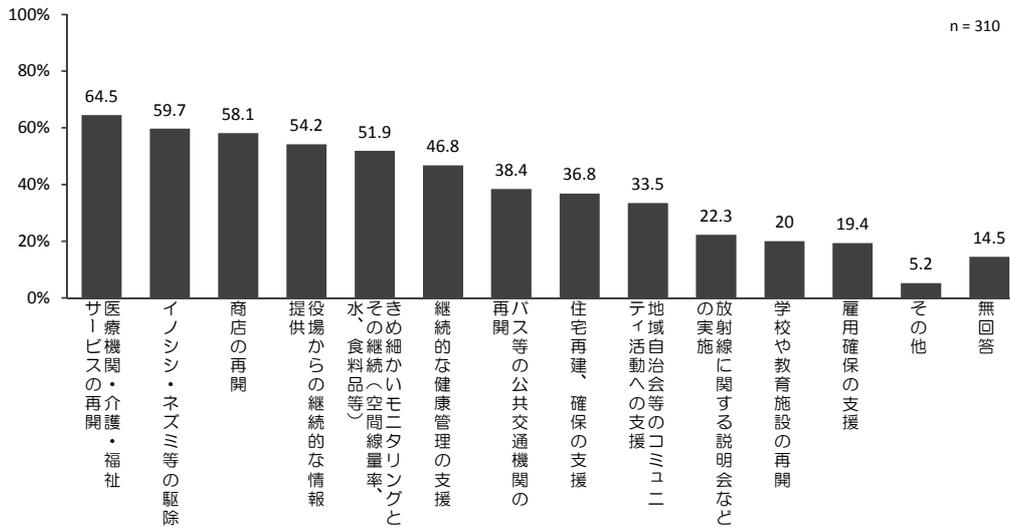
### 3-3-8 帰還する場合に行政に望む支援

【問 14 で「1.現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-6 戻る場合に行政にどのような支援を望みますか。(〇はいくつでも)

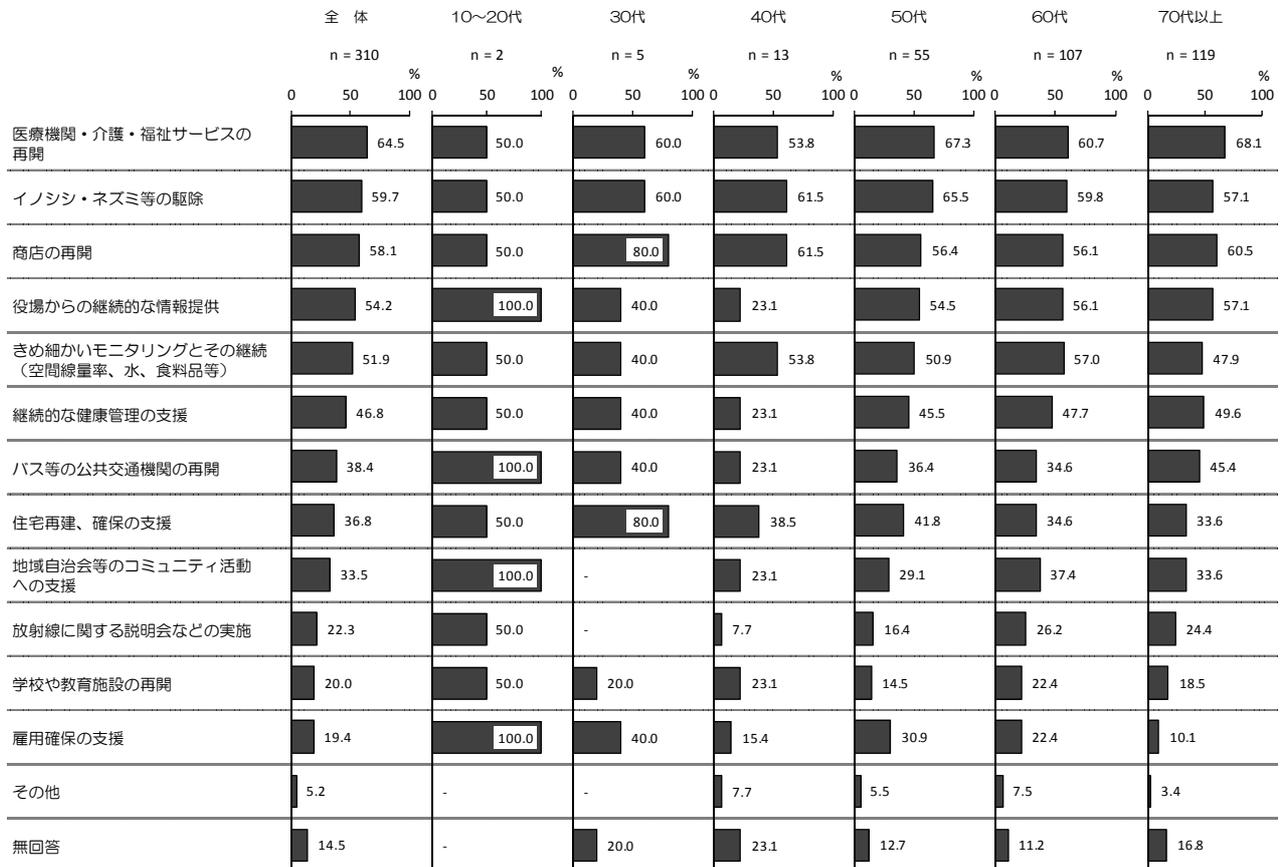
帰還する場合に行政に望む支援については、「医療機関・介護・福祉サービスの再開」が 64.5%と最も高く、次いで「イノシシ・ネズミ等の駆除」が 59.7%、「商店の再開」が 58.1%、「役場からの継続的な情報提供」が 54.2%、「きめ細かいモニタリングとその継続（空間線量率、水、食料品等）」が 51.9%などとなっている。

<図表 3-3-8-1 帰還する場合に行政に望む支援>



世帯主の年齢別にみると、「医療機関・介護・福祉サービスの再開」は70代以上（68.1%）で7割弱と高くなっている。また、「雇用確保の支援」は、50代（30.9%）で3割となり、他の年齢層に比べて高くなっている。

＜図表3-3-8-2 帰還する場合に行政に望む支援（世帯主の年齢別）＞



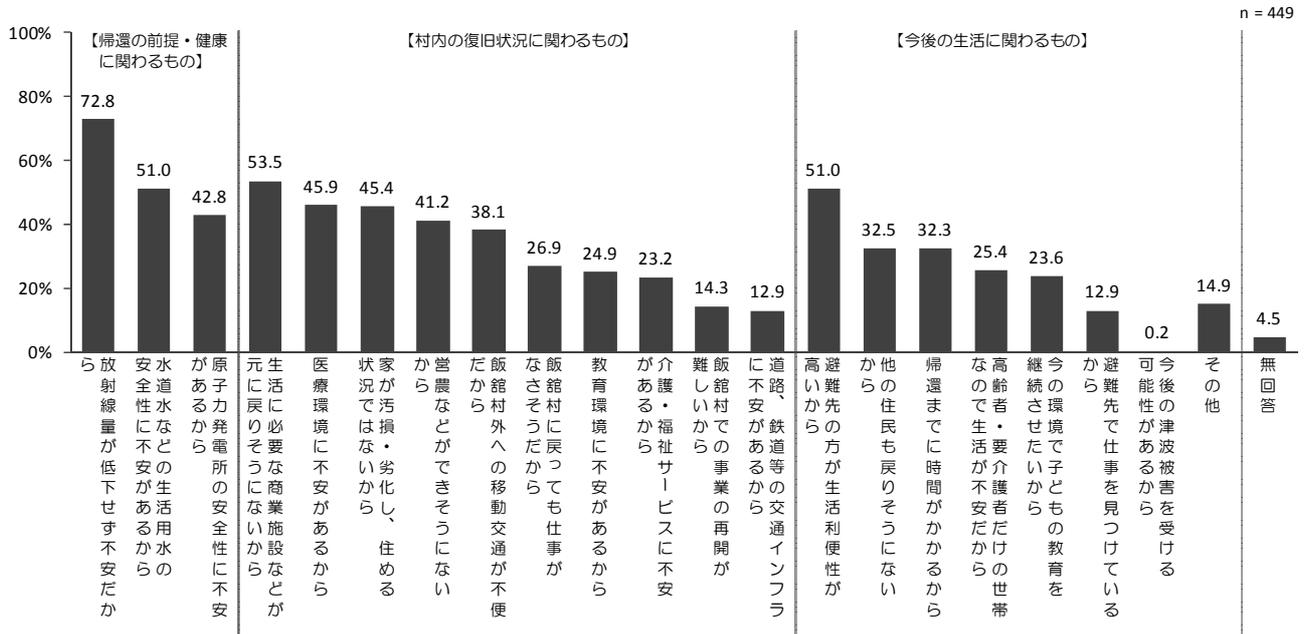
### 3-3-9 現時点で戻らないと決めている理由

【問 14 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-7 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

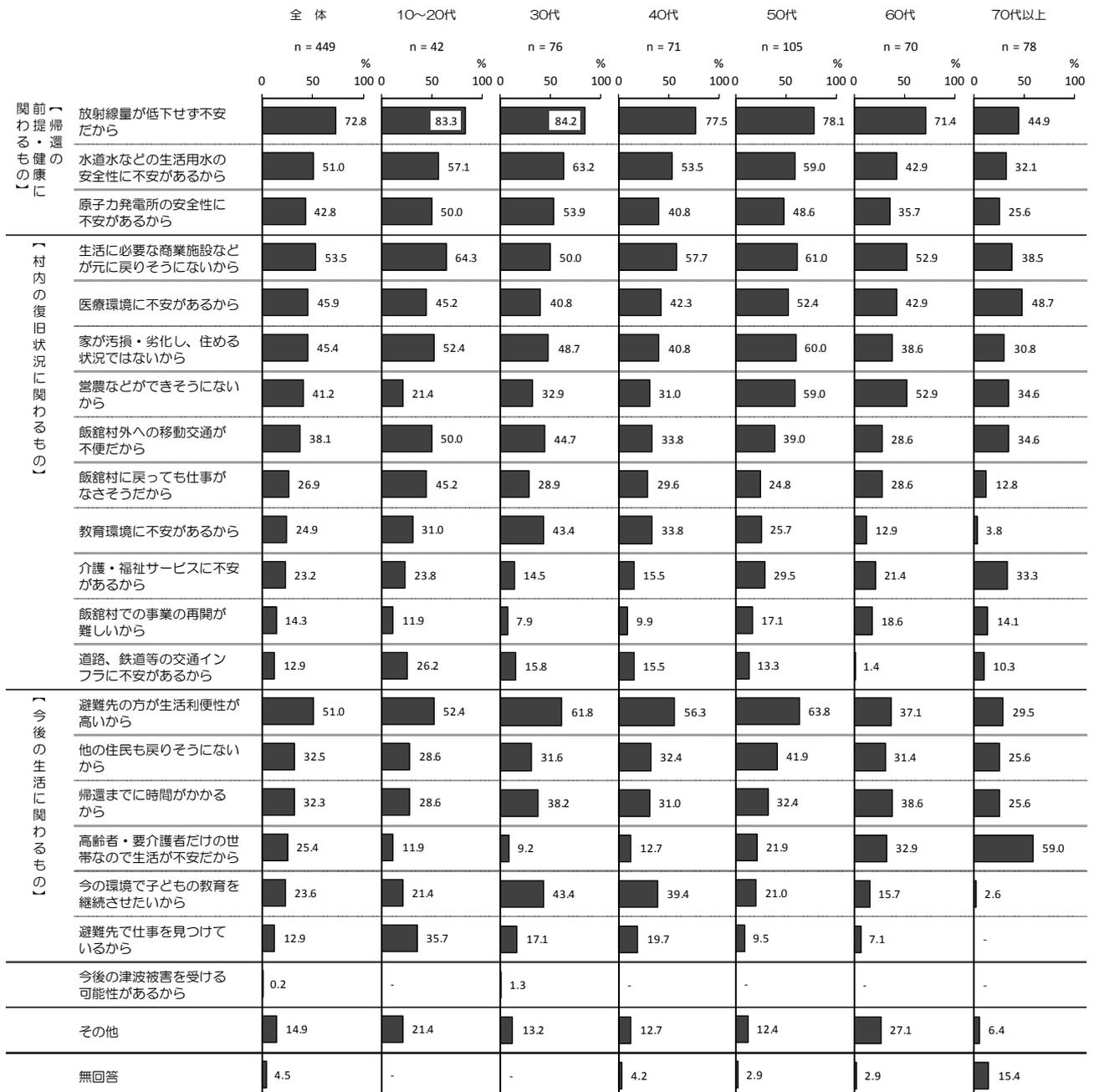
現時点で戻らないと決めている理由については、「放射線量が低下せず不安だから」が72.8%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が53.5%、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」、「避難先の方が生活利便性が高いから」が51.0%などとなっており、帰還の前提・健康に関わる理由が高くなっている。

＜図表3-3-9-1 現時点で戻らないと決めている理由＞



世帯主の年齢別にみると、「放射線量が低下せず不安だから」は、60代以下の年齢層で最も高くなっている。30～40代では「教育環境に不安があるから」、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」、70代以上では「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」が、他の年齢層と比べて高くなっている。

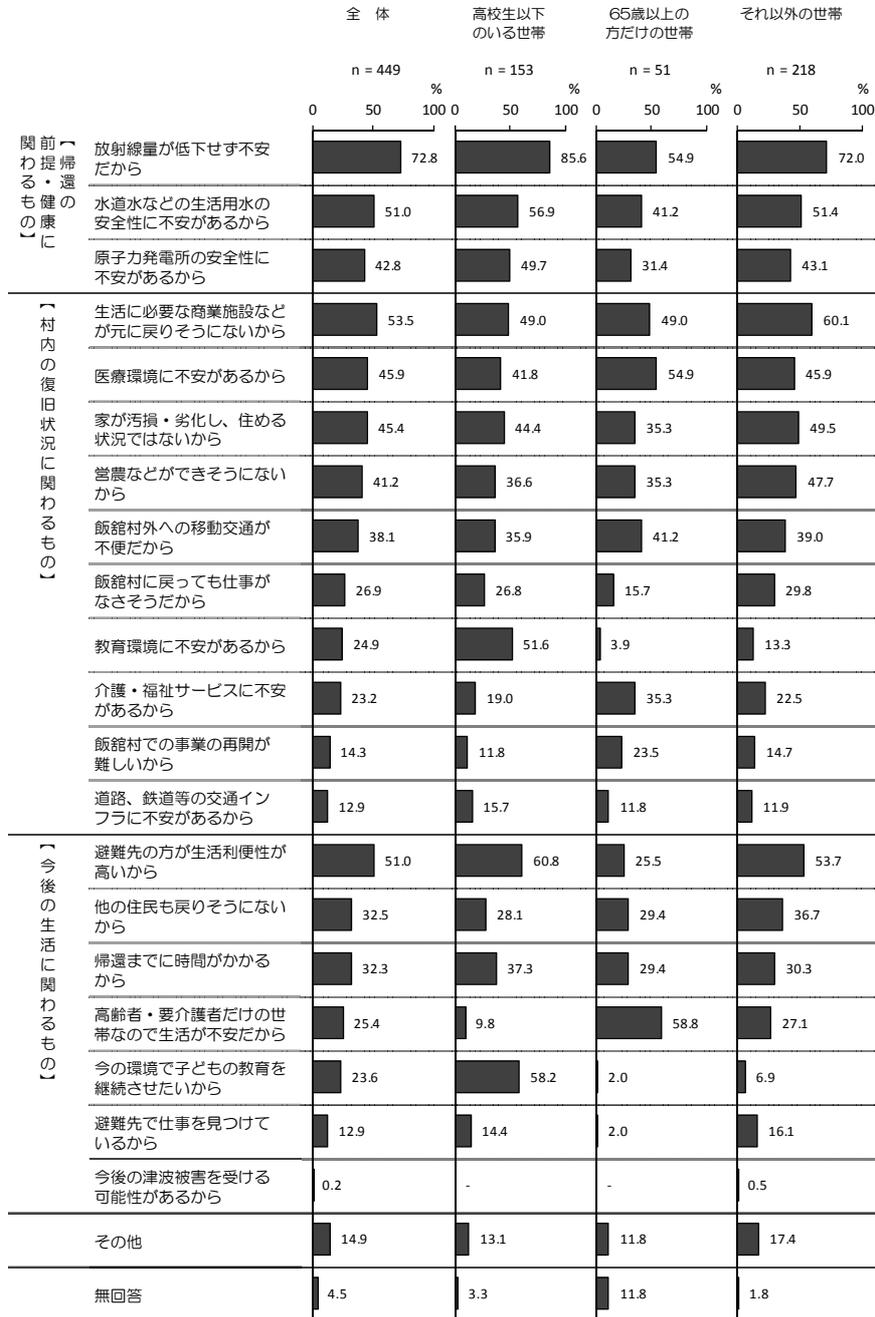
<図表3-3-9-2 現時点で戻らないと決めている理由（世帯主の年齢別）>



### III 調査結果

現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」(58.2%)、「教育環境に不安があるから」(51.6%)が、65歳以上の方だけの世帯では「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」(58.8%)が、他の世帯構成と比べて高くなっている。

<図表3-3-9-3 現時点で戻らないと決めている理由(現在の世帯構成別)>



### 3-3-10 帰還しない場合に居住したい自治体

#### (1) 帰還しない場合の居住予定

【問 14 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 現在のお住まいの自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(〇は1つ)

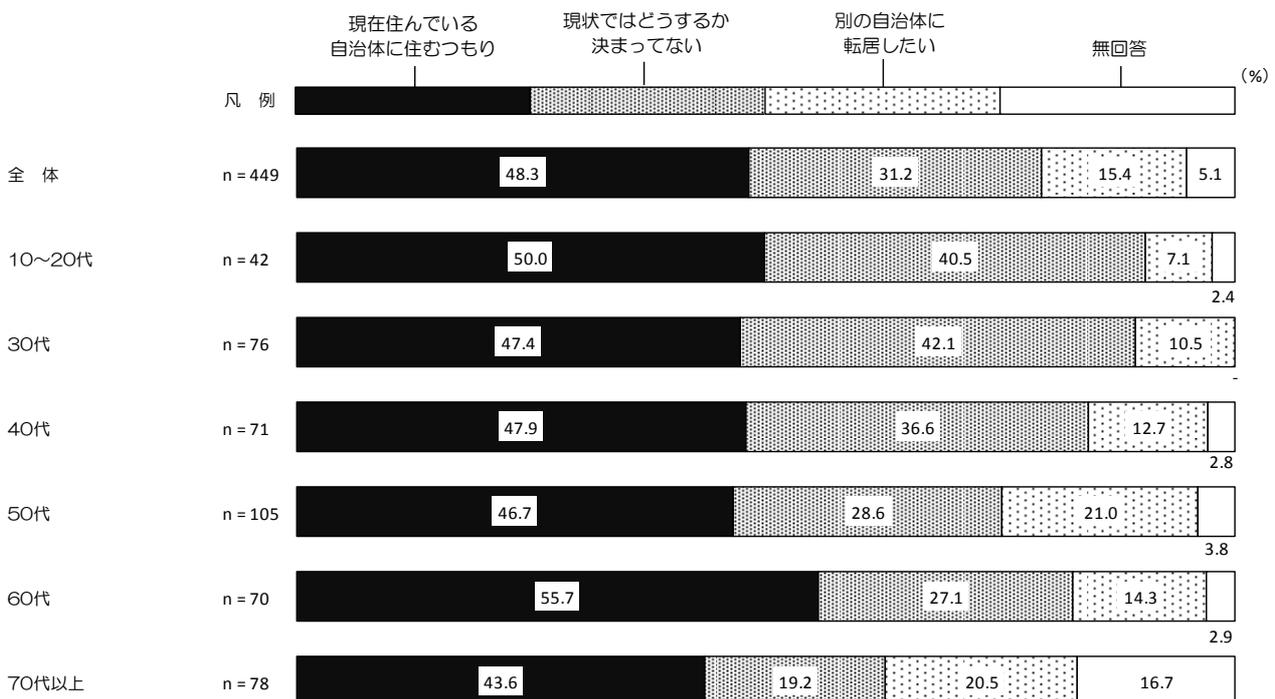
帰還しない場合に居住したい自治体については、「現在住んでいる自治体に住むつもり」が 48.3%と最も高く、「現状ではどうするか決まってない」が 31.2%、「別の自治体に転居したい」が 15.4%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」は、60代で 55.7%と他の年齢層に比べて高くなっている。

＜図表3-3-10-1 帰還しない場合の居住予定＞



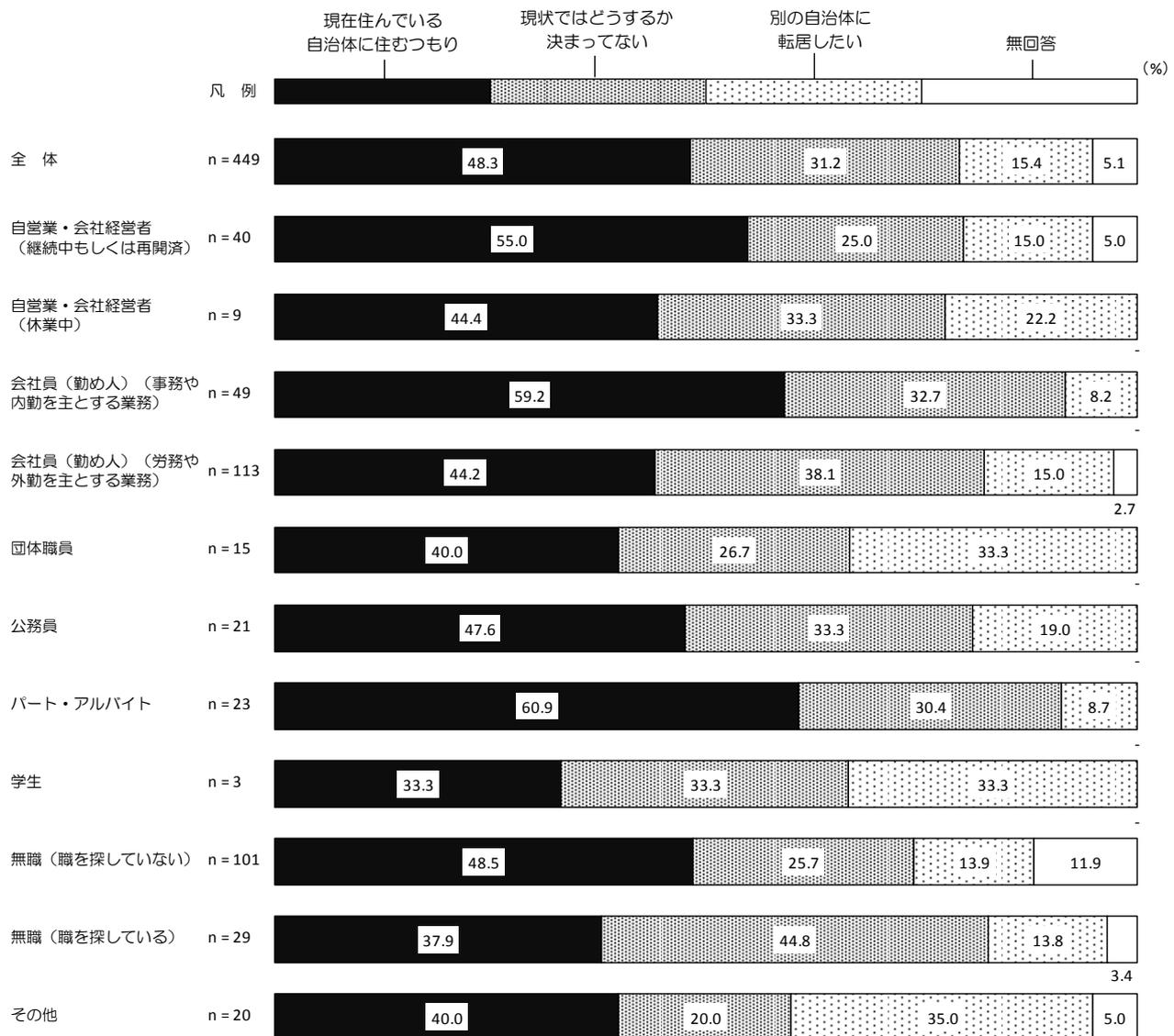
＜図表3-3-10-2 帰還しない場合の居住予定（世帯主の年齢別）＞



### Ⅲ 調査結果

現在の職業別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」は、概ねいずれの職業でも最も高くなっており、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）で59.2%、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）で55.0%と5割以上となっている。

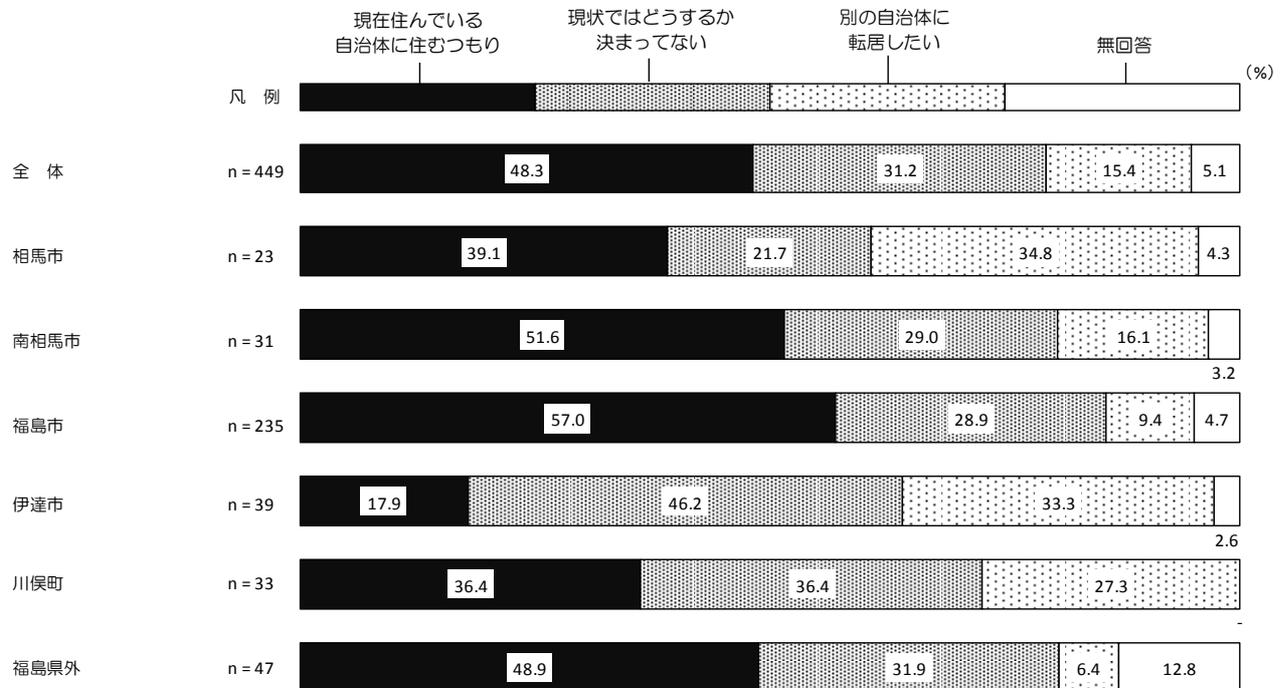
＜図表3-3-10-3 帰還しない場合の居住予定（現在の職業別）＞



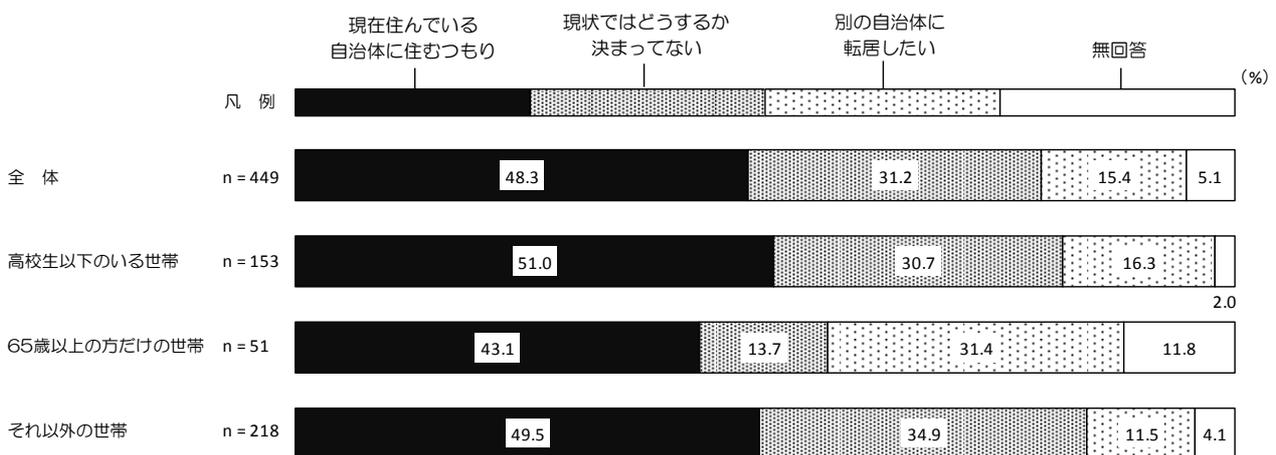
主な避難先自治体別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」は、福島市（57.0%）、南相馬市（51.6%）で5割以上となっている。

現在の世帯構成別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」は、高校生以下のいる世帯（51.0%）、それ以外の世帯（49.5%）で5割程度となっている。

<図表3-3-10-4 帰還しない場合の居住予定（主な避難先自治体別）>



<図表3-3-10-5 帰還しない場合の居住予定（現在の世帯構成別）>



(2) 転居を希望する自治体

【問 14-8 (1) で「3.別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 14-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

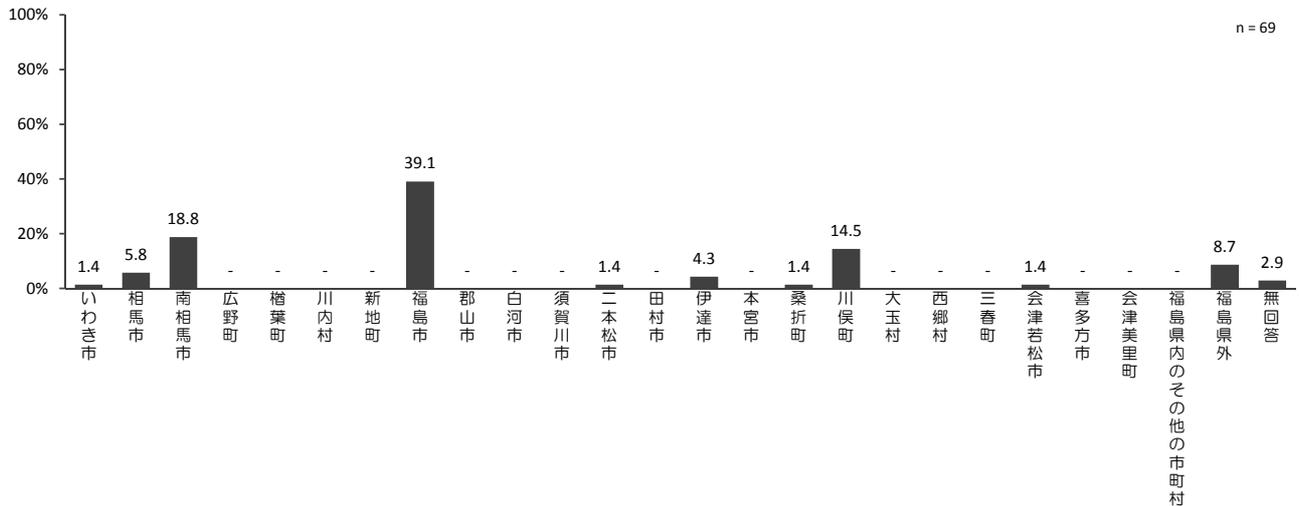
(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

帰還しない場合に居住したい自治体については、「福島市」が 39.1%と最も高く、次いで「南相馬市」が 18.8%、「川俣町」が 14.5%などとなっている。

主な避難先自治体別にみると、福島市に避難している世帯は「南相馬市」(22.7%)、「川俣町」(22.7%)を希望する割合が2割強などとなっている。

なお、参考として、帰還しない場合の居住予定(問 14-8 (1))で「現在住んでいる自治体に住むつもり」とした世帯について、現在の避難先自治体(問 7)の回答を合算して集計した結果が<図表 3-3-10-7>右の表である。これをみると、現在福島市に避難している世帯のうち8割以上がそのまま「福島市」に、現在南相馬市に避難している世帯のうち7割以上がそのまま「南相馬市」を希望しているということになる。

<図表 3-3-10-6 転居を希望する自治体>



<図表 3-3-10-7 転居を希望する主な自治体(主な避難先自治体別)>

※参考：問 14-8 (1) で「現在住んでいる自治体に住むつもり」と回答した世帯も合算した場合

	n	(%)				
		相馬市	南相馬市	福島市	川俣町	福島県外
全体	69	5.8	18.8	39.1	14.5	8.7
相馬市	8	-	62.5	12.5	-	12.5
南相馬市	5	-	-	80.0	20.0	-
福島市	22	18.2	22.7	-	22.7	13.6
伊達市	13	-	7.7	53.8	23.1	-
川俣町	9	-	22.2	77.8	-	-
福島県外	3	-	-	33.3	33.3	33.3

	n	(%)				
		相馬市	南相馬市	福島市	川俣町	福島県外
全体	286	4.5	10.1	56.3	7.7	10.1
相馬市	17	52.9	29.4	5.9	-	5.9
南相馬市	21	-	76.2	19.0	4.8	-
福島市	156	2.6	3.2	85.9	3.2	1.9
伊達市	20	-	5.0	35.0	15.0	-
川俣町	21	-	9.5	33.3	57.1	-
福島県外	26	-	-	3.8	3.8	92.3

現在の世帯構成別にみると、「福島市」は高校生以下のいる世帯（52.0%）が5割以上となっている。

<図表3-3-10-8 転居を希望する主な自治体（現在の世帯構成別）>

	n	(%)				
		相馬市	南相馬市	福島市	川俣町	福島県外
全 体	69	5.8	18.8	39.1	14.5	8.7
高校生以下のいる世帯	25	8.0	8.0	52.0	4.0	4.0
65歳以上の方だけの世帯	16	6.3	43.8	18.8	18.8	6.3
それ以外の世帯	25	4.0	16.0	36.0	20.0	16.0

### 3-3-11 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態

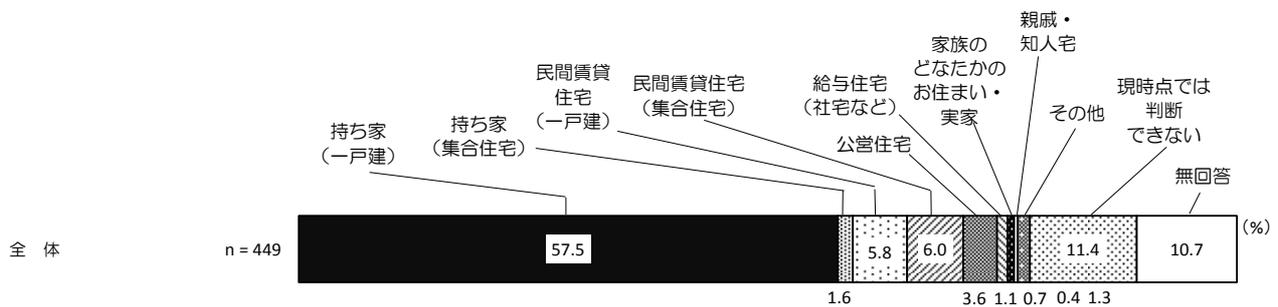
【問 14 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-9 転居する場合に、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

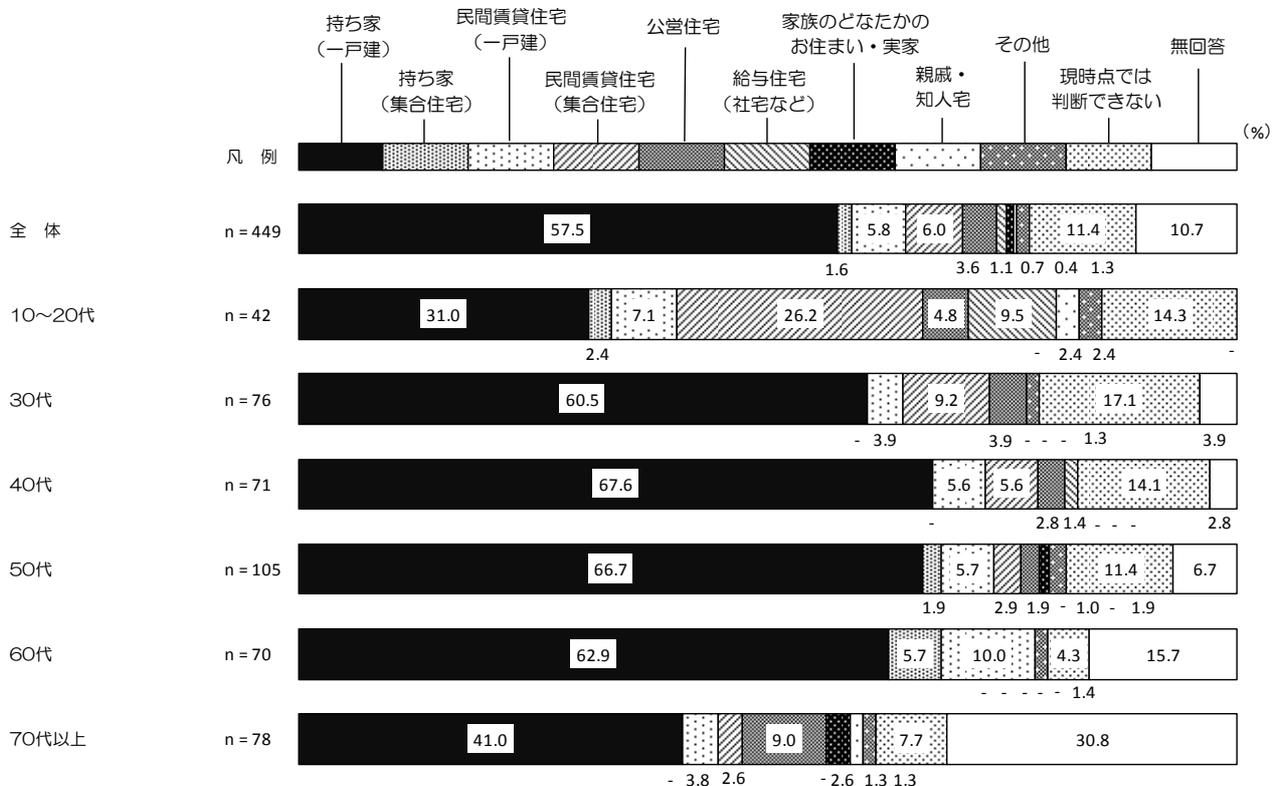
帰還せず別の自治体に転居する場合の住宅形態については、「持ち家（一戸建）」が57.5%と最も高く、5割以上となっている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は、いずれの年齢層でも最も高くなっており、30～60代では6割を超えている。また、10～20代では「民間賃貸住宅（集合住宅）」(26.2%)が2割を超え、他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-3-11-1 転居する場合の住居形態>



<図表3-3-11-2 転居する場合の住居形態（世帯主の年齢別）>



### 3-3-12 帰還しない場合に今後の生活において求める支援

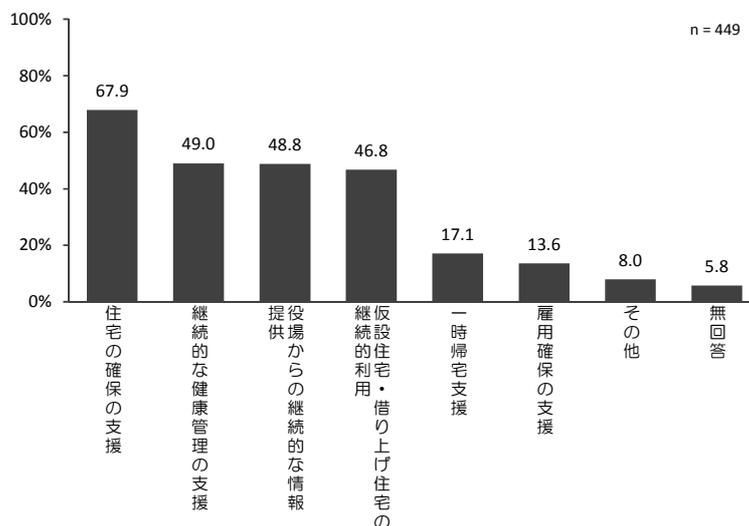
【問 14 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-10 震災時に居住されていた飯館村に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。  
(〇はいくつでも)

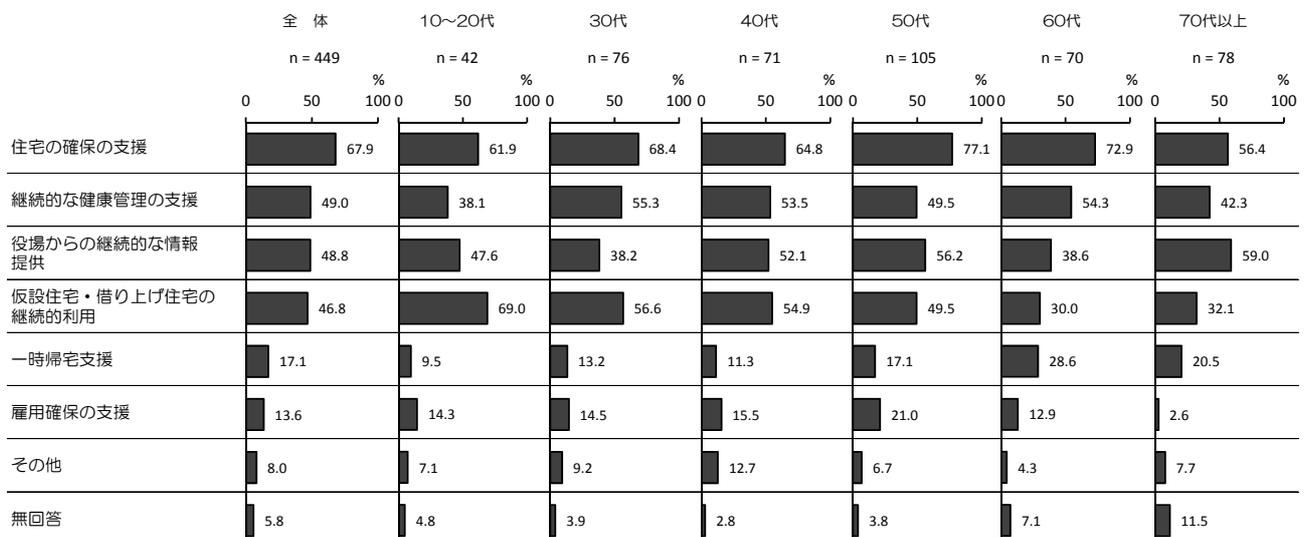
帰還しない場合に今後の生活において求める支援については、「住宅の確保の支援」が67.9%と最も高く、次いで「継続的な健康管理の支援」が49.0%、「役場からの継続的な情報提供」が48.8%、「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」が46.8%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、「住宅の確保の支援」は、概ねいずれの年齢層でも最も高くなっており、50代(77.1%)、60代(72.9%)では7割を超えている。一方、「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」は概ね年齢層が低くなるに従い高くなっており、10~20代(69.0%)では7割弱となっている。

<図表3-3-12-1 帰還しない場合に今後の生活において求める支援>



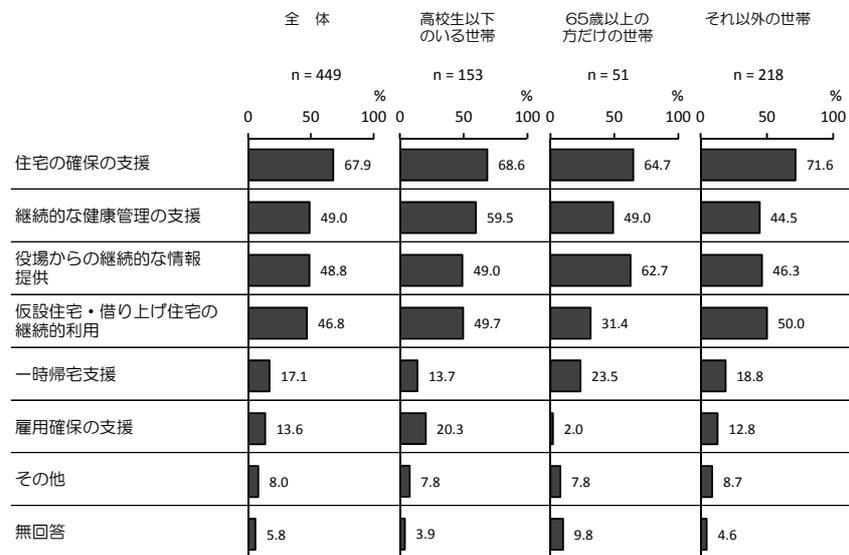
<図表3-3-12-2 帰還しない場合に今後の生活において求める支援(世帯主の年齢別)>



### Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「住宅の確保の支援」は、いずれの世帯構成でも最も高くなっている。

＜図表3-3-12-3 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（現在の世帯構成別）＞



### 3-4 意見・要望

問 15 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、694 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難生活の長期化への不安</li> <li>・元の生活が取り戻せるかどうかの不安</li> <li>・元の生活、安定した生活の回復</li> <li>・元の生活に戻ることについてのあきらめ</li> <li>・現在の生活の経済的な不安について</li> <li>・現在の生活の健康に関する不安について</li> <li>・現在の生活の仕事・学業に関する不安について</li> <li>・その他現在の生活の不安について</li> <li>・将来の生活の経済的な不安について</li> <li>・将来の生活の健康に関する不安について</li> <li>・将来の生活の仕事・学業に関する不安について</li> <li>・その他将来の生活の不安について</li> <li>・生活（再建）支援について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・除染作業の意義について</li> <li>・除染作業にかかる費用の他への活用について</li> <li>・除染作業の効果などについて</li> <li>・除染作業の実施箇所などについて</li> <li>・除染作業の早期・迅速・的確な実施について</li> <li>・除染作業スケジュール明確化について</li> <li>・中間貯蔵施設について</li> <li>・その他</li> </ul>
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰還困難区域への立入りについて</li> <li>・帰還困難区域等の設定について</li> <li>・所有する住まい・土地の買取りについて</li> <li>・自宅の現状（被害状況）について</li> <li>・自宅の再建・改築・解体について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復旧・復興の遅れ、長期化について</li> <li>・復旧・復興スケジュールについて</li> <li>・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について</li> <li>・町村合併について</li> <li>・ライフライン・インフラの整備について</li> <li>・社会福祉施設の整備について</li> <li>・住民の参加・自助努力について</li> <li>・早期の原状回復・復興実現について</li> <li>・その他</li> </ul>
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賠償内容・方法について</li> <li>・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について</li> <li>・その他所有する住まい・土地に対する賠償について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃炉作業の迅速な実施について</li> <li>・その他廃炉作業について</li> <li>・その他</li> </ul>
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰還への不安</li> <li>・帰還可能時期の明確化について</li> <li>・帰還したい</li> <li>・帰還しない</li> <li>・帰還に関する施策について</li> <li>・帰還を望まない人への対応について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や東電の対応について</li> <li>・対応の長期化、遅れについて</li> <li>・情報の開示・発信について</li> <li>・中長期的スケジュールについて</li> <li>・その他</li> </ul>
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興公営住宅の早期・迅速な建設について</li> <li>・復興公営住宅の建設地・形態等について</li> <li>・復興公営住宅に係る経済的負担について</li> <li>・復興公営住宅入居が可能かどうかの不安</li> <li>・復興公営住宅への入居について</li> <li>・居住場所の確保について</li> <li>・借上げ住宅について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のエネルギー政策について</li> <li>・行政に対する謝意、励まし</li> <li>・その他</li> </ul>

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

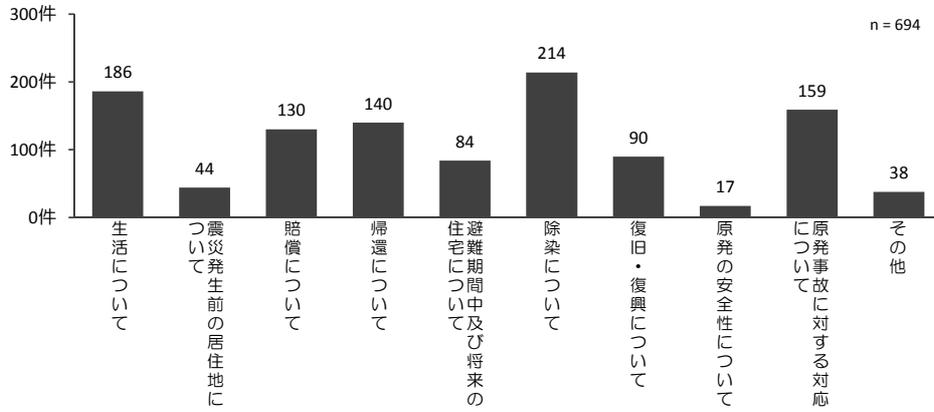
※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

### Ⅲ 調査結果

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「除染について」が214件と最も多く、次いで「生活について」が186件、「原発事故に対する対応について」が159件などとなっている。

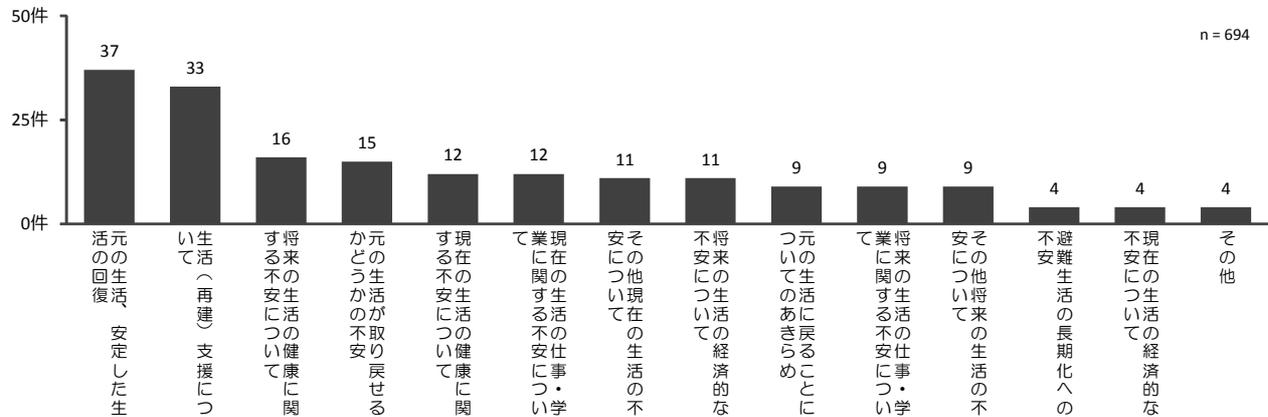
＜図表3-4-1 意見・要望に係る記入内容の分類結果＞



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「元の生活、安定した生活の回復」が37件と最も多く、次いで「生活（再建）支援について」が33件などとなっている。

<図表3-4-2 生活について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【元の生活、安定した生活の回復】**

- ・現状では人が生活できる環境では無いと思っています。子供も住めない様な状況では先行き不安です。本当に安全で安心に暮らせる状態に戻るまでは、戻れないと考えています。但し、生活の補償が無くなればそうも言ってもらえない。何としても前の状態に戻していただきたい。(50代)
- ・避難前と同じ生活ができるような補償をしてほしい。高齢者が疲れています。(50代)
- ・元の生活に戻れるようにしてほしい。畑に野菜を作ったり、庭の手入れ、山菜を採ったりしたい。(60代)

**【生活（再建）支援について】**

- ・震災前のように、50代、60代の人にも働く場と収入を与えてもらいたい。子供達にも安心して暮していける場所にしてもらいたい。安心して暮らせる元の場所で家族が生活できるようにしてもらいたい。(10~20代)
- ・小規模百姓ができる農地・空家等を紹介して欲しい。身体が動く間は、百姓をしたいのですが、だんだんと年をとり、小百姓に復活できるか心配です。(60代)
- ・地域で営農再開をしたいと思います。復興支援事業の自己負担なしで土壌改良、ハウス建設、農機の導入等をしてもらいたい。(60代)

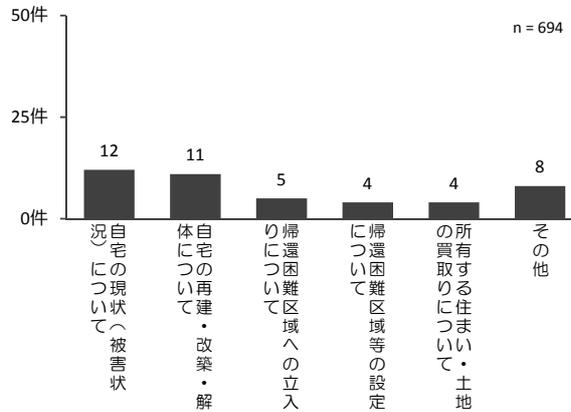
**【将来の生活の健康に関する不安について】**

- ・今の状況では子供を県内に戻し、生活できないと考えている。健康面での不安があり、安心、安全の中で子育てが出来ない。(30代)
- ・震災後飯舘村において、屋根の修理、葺き替え等続けて行っています。除染が終わっていない中、工事をしており、将来自分、職人の健康面が不安の為、自宅を他に求めました。(60代)
- ・ある講演会の中で、南相馬市から飯舘村へ避難した方が京都の方へ避難し、飯舘村で被ばくしたと言ったとの言葉を聞いて、自分達は皆被ばくしたのかと思い残念でありがっかりして帰途につきました。孫達の世代がふびんでなりません。(60代)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の現状（被害状況）について」が12件と最も多く、次いで「自宅の再建・改築・解体について」が11件、「帰宅困難区域への立入りについて」が5件となっている。

＜図表3-4-3 震災発生前の居住地について＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の現状（被害状況）について】

- 家はカビ臭く、床が湿気で傷んでいるので、床張りやリフォームをしなくては住めない状況にあり、何人、部落に帰村するか分からないし、防犯などの治安がよくなるのかが不安である。(50代)
- 家が古いほど劣化が進んでいます。もっと家を建て替えられる位の補償でないと今後の生活が不安です。家の汚れとか、放射能が気になります。そこで生活していくわけですから。(50代)
- 現在の住所はサルやイノシシの巣で生活出来ないと思います。近所の人も戻らない様なので1戸でとても無理です。(70代以上)

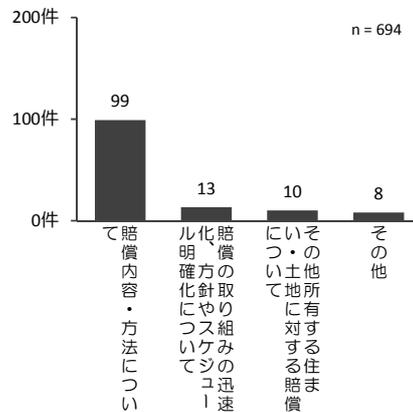
【自宅の再建・改築・解体について】

- どうしたらよいかわからない。帰村して住宅を一部解体するとお金がかかり、将来住む人もいないのにリフォームするのはと考える。(50代)
- 元の家を解体を国にしてもらいたい（別に家を造ると2重で固定資産税をはらうことになると思う）（帰れる時には家はだめになっていると思う）。(50代)
- 戻ったとしてもなにも出来ないと思う。年寄りばかり戻ると思うので何も出来ない事があると思う。それを村が見てくれるかどうかです。家に戻ってもリフォームをすることにとまどいがあります。(60代)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が99件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について」が13件などとなっている。

<図表3-4-4 賠償について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**[賠償内容・方法について]**

- 私は、放射能が0（ゼロ）になるまで絶対に戻りません。村に戻らない子育て世帯のために、村外で安心して子供を育てていける環境作り、戻らない人には戻らないように賠償金など支払うなどの支援が必要だと思う。（10～20代）
- 飯舘村の家に戻りたくても、小さい子供がいるためにしばらくは戻れないと考えている人は多くいると思う。避難先で住居等を求めた時などに、飯舘の家と避難先の住居と二重に所有しなければならない場合もある。そういうケースの時の行政からの支援をしっかりと検討して欲しい。（40代）
- 家族のある人、特に子どものいる世帯には、様々な支援があり補償も多いのですが、一人者は全く考慮されていないと感じます。村に戻ることができない事情は、個人々人によってそれぞれであり、地区ですべて同じ対応をするのではなく、もっと個人の事情を配慮してもらいたい。（40代）

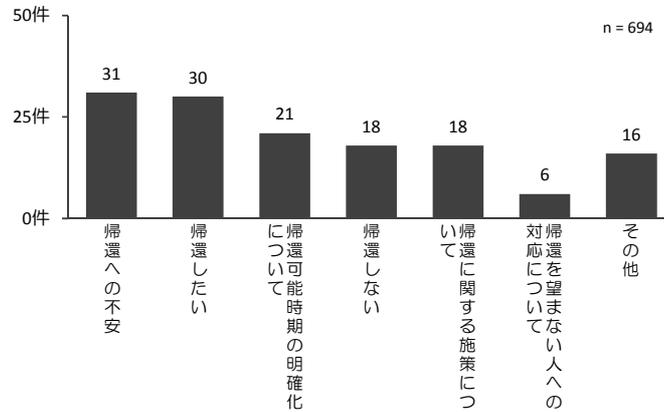
**[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について]**

- 平成何年の何月に帰れるのかはっきりさせろ。賠償額をはっきり決めろ。現時点では、いつ帰れるかわからないので、賠償金も未定（大体）では自宅にいつ戻れるかもわからないし、家の補修を何月にするか決めかねて、困っています。（50代）
- 将来の計画が立つように、早く賠償を進めてください。小出しの賠償でなく（計画を立てられない）まとまった金額で賠償してください。（50代）
- 賠償額の早い確定を願う。（70代以上）

#### (4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還への不安」が 31 件と最も多く、次いで「帰還したい」が 30 件、「帰還可能時期の明確化について」が 21 件などとなっている。

<図表3-4-5 帰還について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

##### 【帰還への不安】

- ・ 戻れるのか戻れないのかははっきりしてほしい。戻れるのなら時期をはっきりしてほしい。戻れないのなら、早いうちにはっきりしてほしい。(40代)
- ・ 原発が廃炉になるまで 40 年以上もかかるため再び事故など起きる可能性あり。まだまだ安全だとは言えない状況の中で、子供達や家族と一緒に生活出来るよう、村に帰れと言っても帰れないのが現状です。(50代)
- ・ 田畑が荒れている。けものに家の回りがあらされている。組(部落)で何人帰るのか。部落に 2~3 名では生活出来ない。(70代以上)

##### 【帰還したい】

- ・ いつまで分散した避難生活を送れば良いのでしょうか。30 分先には自宅があります。気持ち的には、仮設住宅よりも除染されていない自宅での生活の方が楽です。一刻でも早く、自宅での生活が送れることを望む。(50代)
- ・ 避難指示解除になればすぐにも自宅へ帰ります。農業者なので、国、自治体には私達の生産した物(米、野菜、牛)など販売出来る体制を整えて下さい。農業で生活が出来なければ、出来るまでは生活補償をお願いしたいです。(60代)
- ・ 私は二枚橋の除染を見ながら時々自宅へ行きますが、あれほどの時間をかけて除染したなら帰れないはずがないと信じています。が、「老人だけ帰ってどうなるの。何も出来ないし畑も作れない。山もだめ」。そう言う話をよく聞きますが、まず私ら老人から帰らなければ誰が帰るんですか。村へ帰りたいた人は、除染を早くしてもらいたい一言です。(70代以上)

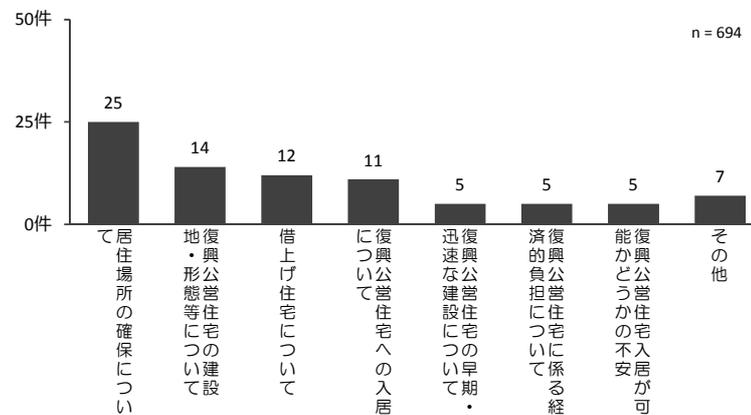
##### 【帰還可能時期の明確化について】

- ・ 国として、段階的、中、長期的な帰還時期の設定が必要不可欠のように思います。勇気ある決断を。(30代)
- ・ 避難解除をするなら、1 年や 2 年で戻さずに完全に除染を行い、安全に生活ができるようにしてから解除してもらいたい。(40代)
- ・ 何年後に戻れるのかの確かな情報がほしいです。(40代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が25件と最も多く、次いで「復興公営住宅の建設地・形態等について」が14件、「借上げ住宅について」が12件などとなっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【居住場所の確保について】**

- 家族みんなで住める家を建ててほしい。子供もいるので、安心して住める家を建ててほしい。多くの人数で住める家を建ててほしい。家族がバラバラにならないようにして下さい。(10~20代)
- 宅地がみつからないので、宅地を作ってほしい。南相馬市や相馬市では、津波被災者のための宅地の造成を行っている様です。相馬の方でも飯館の人が買う事のできる宅地を作ってほしいです。(30代)
- 仕事と住む環境が壊されたので今後を考えられない！子供達が東京に2人とも住んでいるので、近郊の自然環境の良い所に住みたいと思っているが、未だ場所は分かりません。その際に土地、住宅建設等の支援をしっかりとサポートしてほしい！(60代)
- 村民はかなりの人が村外に土地を求め、中古住宅を求め、家を建てているのが現状です。つまりこのまま村(村長)が言っているように、みんなで戻るんだとばかり言っていると、村はどんどんバラバラになって来ている。少しでも止めるには、早急に村外にある程度の面積を飯館用地として確保して、帰りたいたいけど帰れない人のためにお示しをしなければならない。(60代)
- 住宅地の確保と支援がほしい。村の集団移転もありなんじゃないかと思う。(60代)

**【復興公営住宅の建設地・形態等について】**

- 若い世代が住みやすい復興住宅にして下さい。(10~20代)
- 復興住宅については、村にいたころの様に家族が皆で住めるように4LDK、5LDK、6畳以上の部屋などについても考えてほしい。村は、都会のように核家族ばかりではない。核家族化を進めるような住宅整備は、やめていただきたい。(30代)
- 単身用もしくは、それに類似した人たちの復興公営住宅をもっと造ってほしい。(50代)
- 公営住宅に一戸建を希望する(花、野菜が作れること)。(60代)

### Ⅲ 調査結果

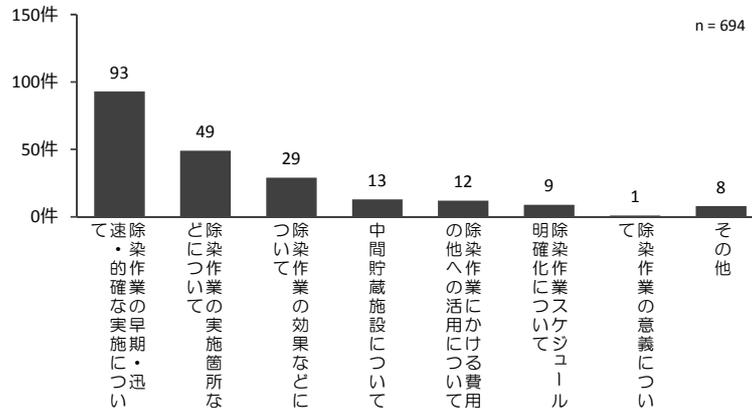
#### 〔借上げ住宅について〕

- 子供の教育を考えると福島市にいたいと思っている。妻は、この今の生活を崩したくないと思っているようなので、今現在の住宅に住めるように借り上げ住宅の継続を願っている。(30代)
- 今度、不動産屋の都合により、借上物件からの退去要請があり、現在の住居を出ざるを得ない状況となったため、急きょ代わりの物件を探しましたが見つからず、家を購入するに至りました。今後このようなケースが多発すると、被災者の方々は途方に暮れることとなり、家探しに拍車がかかることでしょう。そのような事態にならないためにも、借上げ制度の長期的な措置が必要だと思います。(40代)
- 継続的（避難中・後）な借り上げ住宅の無償化。(50代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が93件と最も多く、次いで「除染作業の実施箇所などについて」が49件、「除染作業の効果などについて」が29件などとなっている。

<図表3-4-7 除染について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**[除染作業の早期・迅速・的確な実施の要望]**

- とにかく除染をして村民が納得いく線量に下げて下さい。農業が出来ないならそれなりの方針を表して下さい！！(50代)
- 除染が進まない限り戻れないので、それが第一の希望。その他の事は考えられない状態。(50代)
- まだ半分も除染を終えていない現在、帰る、帰らないの判断がつきにくい。とにかく除染を早くしてほしい。若い人(子供)がいるため悩む。(60代)
- 元気なうちに家に帰りたと思うので、早く除染をしてもらいたいです。(70代以上)

**[除染作業の実施箇所などについて]**

- 水路、川、ため池、山林すべて除染してほしい。安全に生活出来るようにしてほしい。(50代)
- 住環境だけ除染をして、それで子供達が帰村して大丈夫なのか。村全体を除染しなければ戻るともりはない。(50代)
- 居住空間だけ除染をして戻す考えの様だが、田畑を除染しないうちは、戻っても何もやる事がない。毎日毎日、家の中にとじこもって生活をしろという事なのか。(70代以上)

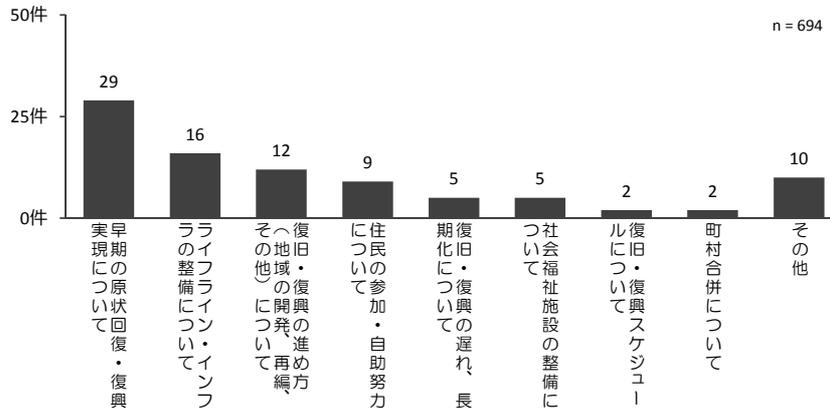
**[除染作業の効果などについて]**

- 現在除染が進められていますが、全く計画どおりに進んでおらず、時間ばかりかかって線量は下がっていませんが、このまま進めてもムダなのではないかと思えます。家の除染も外のみで、家の中は何もしてくれないようですが、家の中の線量も高いままです。中もキレイにしてもらえないと住めません。(30代)
- 除染の範囲が最初の話と違い、狭まって来ていると思うのですが。(60代)
- 山や川、自然があってこそその飯館。住宅だけの除染は住環境と言えない。従って子や孫を連れて帰る事はできないのです。意味がないのです。(60代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「早期の原状回復・復興実現について」が29件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が16件、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」について」が12件などとなっている。

<図表3-4-8 復旧・復興について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【早期の原状回復・復興実現について】

- どうか…どうか早く住めるまちにしてください。誇れる飯舘村を返して下さい。(10~20代)
- 事故（震災・原発）前の生活に戻る様に、『復旧』を急いでその後に復興を進めてほしい。(50代)
- 一日も早く除染復興をしてほしい！高年齢のため、先々が心配だ。国は何をしているのだ！（70代以上）

【ライフライン・インフラの整備について】

- 村の利便性を考えると、戻る1つの条件として、医療、商店、道路等々の環境インフラの充実を図ってほしい。(50代)
- 生活に必要なすべてが整ってはじめて戻ることができるので、医療、商店、福祉を整備してほしい。高齢者が寄りそって暮らせるシェアハウスがあるといいのではないかと。思う。(50代)
- 常磐線を早く開通させて下さい。(60代)

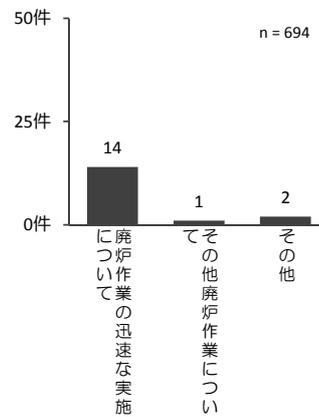
【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 村に誘致したいという企業があれば教えてほしい。村に新たな産業（職場）をつくりたい。鹿沼市との縁があるので麻の栽培も考えてほしい。線量が低く交通の便の良い地域を除染し、集合住宅をつくってほしい（村全体を除染するのはまだよい）。他地域と合併だけは絶対にしたくない！！（10~20代）
- 復興については、まず復旧ありきで進めるのではなく、復旧がその後の復興につながるかも考えて、進めて欲しい。特に、学校（教育）が大切で、人材を育てなければ将来の復興につながらないと思うからである。県教委を含めた県も規制の枠にとらわれない柔軟な考えで、復興に携わっていただきたい。(50代)
- もし戻るなら、深谷・草野などに居住区を作り、集団で生活できるようにしてはどうか（もちろん一戸建て）。各行政区にバラバラに居住者が点在していれば、行政側の対応にも限界があると思う。限界集落を持つ他県の先進的なお手本になるような村を作ってはいかがでしょうか。20行政区にこだわらず、居住区、商業区、労働区、食糧生産区を分けて作り、住民の生活重視を説明すれば納得できる方も多くなるのでは。(50代)
- 我々は土に生き、自然に活かされて来ました。木を育て、花を咲かせる事は最得意分野であり、熟年層も十分対応できましょ。国の復興事業のモデル事業として、環境、景観、将来的には福島の花見山のような観光的なものを残せたら、1等農地以外の土地も救われます。(60代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が14件と最も多くなっている。

<図表3-4-9 原発の安全性について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

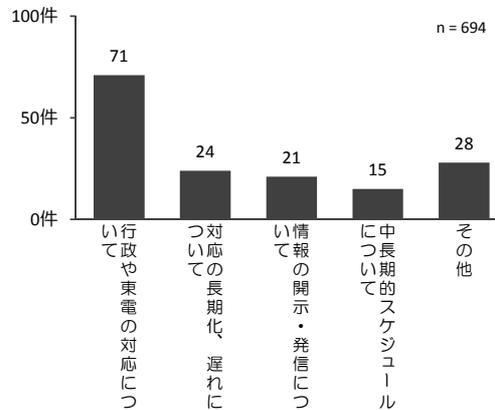
[廃炉作業の迅速な実施について]

- 県内全基の廃炉作業が完全に終わるまで安心できません。最後までしっかりやってほしい。(40代)
- 原発の早期廃炉（全基カバーをする）。正確な情報の早期発信。早期の除染と除染後のモニタリングの公表。(50代)
- すべての原発の再稼動をやめ、廃炉に向けた取り組みを開始すること。原発の輸出をやめること。(50代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が71件と最も多く、次いで「対応の長期化、遅れについて」が24件、「情報の開示・発信について」が21件となっている。

<図表3-4-10 原発事故に対する対応について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[行政や東電の対応について]

- 村は、賠償を求める事自体が悪だと言うようなスタンスに聞こえる事がしばしば見受けられるのですが、お金が無いと生活出来ないのが現実だと思います。他の村長さんをTV等で見てみると、村ありきの話ではなくて人ありきの話をなさっています。「村」と「人の命」どちらが大事な事なのかを一村民としてもっと良く考えて頂きたいです。(10～20代)
- 国は、人のいない復興をいつまでするつもりなののでしょうか。私たちはいつから棄民になったのでしょうか。役場は除染したのなら村長は戻っても良いのでは。大臣各位。現場と村民を同じ目線になって現場に来て下さい。仮設に住んでみて下さい。(30代)
- 人が流出する施策は本当に復興なのか疑問に思う。本当に復興させる気があるのであれば、国自ら職員(国家公務員)が飯舘村に住み生活し、住人でも安全なことを日本中の国民に知らせることが必要と思う。役場は早く村に戻り、先頭に立って安全なことを全国に発信してほしい(役場は一番初めに除染したのになぜ戻らない)。村職員議員は全て戻れ。(50代)
- いつまでも始まらない除染、線量の下がらない除染にかかる費用を今後の支援金としていただきたいです(持ち家確保の為)。既に一戸建てを購入している人も多いと聞きます。この状態で帰村を望む人は何人いるのでしょうか。特定秘密保護法案など、避難者に対するの誠意を感じられないばかりか、復興を遅らせることにもなると思います。(50代)

[対応の長期化、遅れについて]

- 除染を進める環境省と復旧・復興を支援する復興庁に期待していますが、机上の論理ばかりで遅々として進展せず、少しずつではなく大いに期待感が失せています。いつまで分散した避難生活を送れば良いのでしょうか。(50代)
- 何年仮設の生活が続くのか。戻れないなら戻れないとはっきり言ってほしい。身の振り方をどうすればいいのかわからない。(50代)
- 現在子育て中の方などは、深刻に悩んでいる事と思います。特に就学児童の保護者の方は、子供さんの事を考えると、いても立ってもいられないと思います。政府や東京電力は、そのような方達の貴重な時間を奪っている事を自覚して頂きたい。いたずらに時間を費す事なく、早急に政府と東京電力の対応を明確にして下さい。(60代)

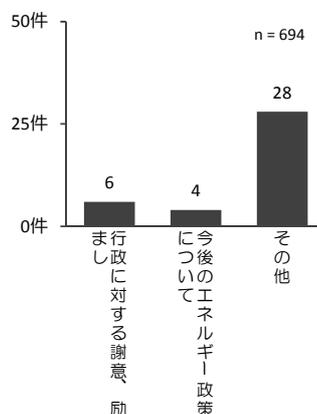
【情報の開示・発信について】

- 隠さず、全ての情報を正確に教えて欲しい。うそばかりで何も信用できない。国が定めている基準値は、どのような方法で決めているのか教えて欲しい。飯舘村は今後も戻れるような環境には絶対にならない。(10～20代)
- 国の責任において、もっと極め細かな情報の発信をお願いします。たとえば、除染については現在の効果の限界値と今後の対応策。又、湖底等高線量地帯の対応や行程（除染するとして）を明確化して下さい。森林除染も同様に。(50代)
- 自然界にもともとあった放射線量の公表(現在の全国各地の放射線量の公表を行い比較し、安全性をPR)。(50代)
- 行政情報の速報化。これはタブレット端末の有効活用により、実現可能では。人員不足ならスタッフ（情報取材、集約、発信）を採用しても。他の自治体では、議会中継もタブレットで視聴できるとのこと。古い情報では、誰もタブレットを見なくなっている。村民に不利な情報でも隠さず、明らかに伝えることが要求されているのでは。(60代)

#### (10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が6件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が4件、「その他」が28件となっている。

＜図表3-4-11 その他＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

#### 【行政に対する謝意、励まし】

- 情報は一方的に案内されてきます。ありがたいとは思いますが、なにか近くで共感する人もいなく、話題として話せる人もいないので、さびしい思いをする時もあります。将来ある子供達が輝ける誠意ある復興を願います。避難先の関係者に感謝しております。(40代)
- みんな頑張りますから、復興庁も福島県も飯舘村も頑張ってください。(70代以上)
- 県外から復興者の皆さんに感謝致します。(70代以上)

#### 【今後のエネルギー政策について】

- クリーンエネルギーの整備、開発を、飯舘村をベースに考えてほしい。(40代)
- 家では農業をしていたので、もう何もつけないのであれば、別の利用法も考えて前向きに復興すれば良いと思う。風力発電とかタッチパネルなど、エネルギーとなるものもどんどんつくって飯舘に資金が入れば、生活をして行く上でみんな楽になると思います。(40代)

## **IV 參考資料**



## 4-1 使用調査票

## 飯舘村住民意向調査

## 記入上の注意

## ● 調査をお願いする方

ご回答は、**世帯の代表者の方**をお願いいたします。

現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

## ● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、( ) 内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

## ➤ 個人情報について

- ・調査票は記名式でお願いしております。（最初のページに「住所」、「氏名」、「連絡先」のご記入をお願いします）。
- ・調査票に記載いただいた個人情報は、復興庁、福島県及び飯舘村において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用致しません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個別内容が公表されることはありません。

## ● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**11月29日（金）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

## 【お問い合わせ先】

調査の趣旨、記入方法について

**復興庁**  
**「住民意向調査」**  
**問い合わせセンター**

フリーダイヤル 0120-955-689

[設置期間：11月18日（月）～11月29日（金）10時～17時]  
土・日・祝を除く

復興公営住宅について

**福島県**

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号  
企画調整部避難地域復興局

Tel： 024-521-8617

飯舘村に関することについて

**飯舘村**

〒960-1301 福島県福島市飯野町字後川10番地の2  
飯野出張所 総務課企画係

Tel： 024-562-4246

はじめに、あなたご自身のことについて教えてください。

本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見や要望などをおうかがいすることを目的として実施しております。今後、改めて、復興公営住宅について、詳しくご意向をお聞きする場合がありますので、現在のご住所とご連絡先のご記入をお願いいたします。

なお、当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居の確約となるわけではありません。

**F1** 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

**F2** あなたの氏名

**F3** あなたの連絡先(電話番号)

【すべての方にかがいます。】

**問1** あなたの現在の年齢(○は1つ)

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳   | 8. 50~54歳  |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳  |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上  |

【すべての方にかがいます。】

**問2** 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

## (1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済)  | 7. パート・アルバイト         |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中)         | 8. 学生 ⇒問3へ           |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒問3へ |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒問3へ |
| 5. 団体職員                   | 11. その他 (具体的に        |
| 6. 公務員                    | )                    |

【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にかがいます。】

## (2) 業種 (○は1つ)

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業      | 7. 金融・保険業     |
| 2. 建設業            | 8. 医療・福祉      |
| 3. 製造業            | 9. 教育         |
| 4. 電気・ガス・水道業      | 10. 公務        |
| 5. 運輸業            | 11. その他 (具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | )             |

【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にかがいます。】

## (3) 就業先の所在自治体

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

**問3** 震災発生当時にお住まいだった行政区を、以下から教えてください。(○は1つ)

- |           |            |                             |
|-----------|------------|-----------------------------|
| 1. 草野     | 9. 宮内      | 17. 関根・松塚                   |
| 2. 深谷     | 10. 飯樋町    | 18. 白石                      |
| 3. 伊丹沢    | 11. 前田・八和木 | 19. 前田                      |
| 4. 関沢     | 12. 大久保・外内 | 20. 二枚橋・須萱                  |
| 5. 小宮     | 13. 上飯樋    | 21. その他(わからない場合住所を記載してください) |
| 6. 八木沢・芦原 | 14. 比曾     | }                           |
| 7. 大倉     | 15. 長泥     |                             |
| 8. 佐須     | 16. 蕨平     |                             |

【すべての方にうかがいます。】

**問4** あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(○は1つ)

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1. 当時世帯主だった | 2. 当時世帯主ではなかった |
|-------------|----------------|

【すべての方にうかがいます。】

**問5** 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者              | 7. 学生 ⇒問6へ             |
| 2. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 8. 無職(職を探していなかった) ⇒問6へ |
| 3. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していた) ⇒問6へ    |
| 4. 団体職員                   | 10. その他 [具体的に          |
| 5. 公務員                    | }                      |
| 6. パート・アルバイト              |                        |

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業      | 7. 金融・保険業     |
| 2. 建設業            | 8. 医療・福祉      |
| 3. 製造業            | 9. 教育         |
| 4. 電気・ガス・水道業      | 10. 公務        |
| 5. 運輸業            | 11. その他 [具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | }             |

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

【すべての方にうかがいます。】

**問 6** 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1. 持ち家(一戸建)     | 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舍など) |
| 2. 持ち家(集合住宅)    | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家  |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建)  | 8. 親戚・知人宅           |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他〔具体的に         |
| 5. 公営住宅         | 〕                   |

▼【問 6 で「1. 持ち家 (一戸建)」「2. 持ち家 (集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

**問 6-1** 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(○は1つ)

- |                          |
|--------------------------|
| 1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる |
| 2. 修理すれば住める状況            |
| 3. 特に損傷はない ⇒問 7 へ        |
| 4. わからない ⇒問 7 へ          |

【問 6-1 で「1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2. 修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

**問 6-2** 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。(○はいくつでも)

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1. 地震の影響と思われる大きな損壊等がある | 5. カビが多く発生している         |
| 2. 火災被害を受けている          | 6. 屋内の放射線量が高い(屋外と同等程度) |
| 3. 動物等が侵入した跡があり荒れている   | 7. その他〔具体的に            |
| 4. 雨漏りの形跡がみられる         | 〕                      |

**避難状況について教えてください。**

【すべての方にうかがいます。】

**問 7** あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 新地町

【 会 津 】

18. 会津若松市
19. 喜多方市
20. 会津美里町

【 中 通 り 】

5. 福島市
6. 郡山市
7. 白河市
8. 須賀川市
9. 二本松市
10. 田村市
11. 伊達市
12. 本宮市
13. 桑折町
14. 川俣町
15. 大玉村
16. 西郷村
17. 三春町

21. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)

→  (市・町・村)

22. 福島県外(具体的にご記入ください。)

→  (都・道・府・県)  (市・町・村・区)

#### IV 参考資料

【すべての方にうかがいます。】

**問 8** 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

**あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)**

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

(2) 震災発生当時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

**あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)**

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

(3) 震災発生当時ご一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

- |                            |               |
|----------------------------|---------------|
| 1. 世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む) | 3. 合計3か所に分散   |
| 2. 合計2か所に分散                | 4. 合計4か所以上に分散 |

【すべての方にうかがいます。】

**問 9** 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- |                                 |                     |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償)             | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家  |
| 2. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 7. 親戚・知人宅           |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償)               | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸(有償)                     | 9. その他 (具体的に        |
| 5. 給与住宅(社宅など)                   | )                   |

【すべての方にうかがいます。】

**問 10** 現在、自動車は何台保有していますか。(○は1つ)

- |            |
|------------|
| 1. 1台      |
| 2. 2台      |
| 3. 3台以上    |
| 4. 保有していない |

【すべての方にうかがいます。】

**問 11** 現在、ペットを飼っていますか。(○はいくつでも)

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. 中小型犬(両手で抱えられる程度の大きさ)を飼っている |
| 2. 大型犬(「1」以外)を飼っている           |
| 3. 猫を飼っている                    |
| 4. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に       |
| 5. ペットは飼っていない                 |

ここからは、①避難期間中の住居②将来に関するご意向について、二段階でお聞きします。

まずは、避難期間中の住居についてお聞かせください。

復興公営住宅は、長期避難を余儀なくされる方を対象とした住宅です。復興公営住宅の整備戸数については、**帰還困難区域及び居住制限区域の全世帯と、避難指示解除準備区域のうち避難が長期化せざるを得ない18歳未満の子育て世帯**を対象とした調査結果により検討いたします。

なお、復興公営住宅の入居には家賃が必要となります。避難中の家賃は原則として、避難指示解除後の相当期間までは賠償の対象となります。(ただし、原子力損害賠償紛争審査会の議論の結果等を踏まえ、家賃の取扱いについて再整理されることがあります。)

帰還困難区域：長泥

居住制限区域：草野、深谷、伊丹沢、関沢、小宮、宮内、飯樋町、前田・八和木、大久保・外内、上飯樋、比曾、蕨平、関根・松塚、白石、前田

避難指示解除準備区域：八木沢・芦原、大倉、佐須、二枚橋・須萱

## 福島県における原発避難者向け復興公営住宅について

福島県では、原発事故により避難されている方々のコミュニティの維持・形成の拠点となる復興公営住宅の整備計画を策定しています。

平成27年度までの入居を目指し、全体で概ね、3,700戸を整備する予定です。現在、受入自治体毎に、整備に向けた具体的な協議を進めているところです。

<整備戸数・箇所>

いわき市	南相馬市	郡山市	福島市	会津若松市	二本松市・桑折町・川俣町・大玉村・三春町 他
1,800 戸	410 戸	390 戸	170 戸	100 戸	830 戸

※ 整備戸数は、平成24年度に実施した住民意向調査の結果を基に算出した概ねのものであり、今後の関係市町村との協議や住民意向調査の結果等により、適宜見直しを行います。

現在、第1期分として、平成26年度からの入居を目指し、いわき市、郡山市、会津若松市において、合計500戸の整備を進めています(第1期分は集合住宅タイプ)。

## 飯舘村の村外子育て拠点の整備について

飯舘村では、村に戻りたくても戻れない子育て世帯のために、村外で安心して子供を育てられる環境を備えた「村外子育て拠点」の整備を復興計画に掲げています。現在、福島市飯野地区に村外子育て拠点となる村営の復興公営住宅の整備を進めています。

<整備概要>

- ・復興公営住宅23戸(一戸建てタイプ9戸、2戸連棟タイプ14戸)
- ・集会所

【すべての方にうかがいます。】

**問 12** 現在、福島県、飯舘村では上記の通り、復興公営住宅の整備を予定しています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(〇は1つ)

1. 入居を希望する ⇒問 12-2 へ
2. 現時点では判断できない ⇒問 12-1 へ
3. 入居を希望しない ⇒問 12-8 へ

IV 参考資料

【問 12 で「2. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

**問 12-1** 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 集合住宅に住むことに抵抗があるから         | 4. 周辺にある施設や住環境がわからないから |
| 2. どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから | 5. 近所にどうい人が住むかわからないから  |
| 3. 復興公営住宅の家賃、間取り等が詳細にわからないから | 6. 自身の生活の見通しが立っていないから  |
|                              | 7. その他〔具体的に〕           |

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

**問 12-2** 復興公営住宅に入居するに当たって、希望する地域と家族構成をお聞かせください。

<1世帯目>

(1)最も希望する自治体を教えてください。(○は1つ)

- |   |          |          |         |
|---|----------|----------|---------|
| <b>【村が具体的に検討中の市町村】</b><br>1. 福島市 飯野地区<br>2. 福島市(飯野地区を除く)<br>3. 南相馬市<br>4. 川俣町 | 5. 会津若松市 | 12. 白河市  | 19. 広野町 |
|   | 6. 郡山市   | 13. 須賀川市 | 20. 檜葉町 |
|   | 7. いわき市  | 14. 喜多方市 | 21. 川内村 |
|   | 8. 二本松市  | 15. 田村市  | 22. その他 |
|   | 9. 大玉村   | 16. 本宮市  | 〔具体的に〕  |
| 10. 三春町   | 17. 鏡石町  |          |         |
| 11. 桑折町   | 18. 小野町  |          |         |

(2)家族構成をご記入ください。(人数で回答)※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満(中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

<2世帯目>

分散して入居を希望しない場合は、(3)で「23」を選び、問 12-4 へ進んでください。

仕事の都合、家族の人数の都合等により分散して入居を希望する場合は、(3)「1」から「22」の中から、最も希望する自治体を選び、(4)にもご回答ください。

(3)最も希望する自治体を教えてください。(○は1つ)

- |   |          |          |                   |
|---|----------|----------|-------------------|
| <b>【村が具体的に検討中の市町村】</b><br>1. 福島市 飯野地区<br>2. 福島市(飯野地区を除く)<br>3. 南相馬市<br>4. 川俣町 | 5. 会津若松市 | 12. 白河市  | 19. 広野町           |
|   | 6. 郡山市   | 13. 須賀川市 | 20. 檜葉町           |
|   | 7. いわき市  | 14. 喜多方市 | 21. 川内村           |
|   | 8. 二本松市  | 15. 田村市  | 22. その他           |
|   | 9. 大玉村   | 16. 本宮市  | 〔具体的に〕            |
| 10. 三春町   | 17. 鏡石町  |          |                   |
| 11. 桑折町   | 18. 小野町  |          |                   |
|   |          |          | 23. 分散して入居する希望はない |

(4)家族構成をご記入ください。(人数で回答)※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満(中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

【分散して復興公営住宅へ入居を希望する方（問 12-2(3)で「1」から「22」に回答した方）にうかがいます。】

**問 12-3** 復興公営住宅へ2戸以上に分かれて入居する場合、現在ご一緒にお住まいの家族との生活について、どのような形を希望しますか。(○はいくつでも)

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 隣接する別の住宅で生活          | 3. 隣接、近接しない別の住宅で生活 |
| 2. 同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活 | 4. その他(具体的に)       |

【現在分散して避難されている方（問8(3)で「2」から「4」と回答した方）にうかがいます。】

**問 12-4** 復興公営住宅に入居する場合、分散して避難している家族との同居について、どのような形を希望しますか。（○はいくつでも）

- |                         |                                   |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1. 同じ住宅での生活             | 4. 隣接、近接しない別の住宅で生活                |
| 2. 隣接する別の住宅で生活          | 5. その他(具体的に )                     |
| 3. 同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活 | 6. 分散して避難している家族は、復興公営住宅への入居を希望しない |

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

**問 12-5** あなたが希望する自治体としてご回答になられた理由はどのような理由ですか。

（○はいくつでも）

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 放射線量や原子力被害の危険性が少ない(ない)から     |
| 2. 気候や風土が良いから                   |
| 3. 飯舘村に近いから                     |
| 4. 現在の避難先に近いから                  |
| 5. 人間関係やコミュニティ活動を大切にしたいから       |
| 6. 地域の方が多く住んでいるから               |
| 7. 分かれて住んでいる家族が近くにいるから          |
| 8. 電車やバスなど公共交通機関が整っているから        |
| 9. 医療機関(病院・診療所)が整っているから         |
| 10. 介護・福祉サービスが整っているから           |
| 11. 学校など教育施設が整っているから(仮設学校が近いから) |
| 12. 子どもに適した教育(保育)環境があるから        |
| 13. 商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから |
| 14. 働く場所や機会が多いから                |
| 15. 自分の事業用地や事業に適しているから          |
| 16. 従業員を雇用しやすいから                |
| 17. その他(具体的に )                  |

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

**問 12-6** 復興公営住宅に入居する場合に、その住宅に近接する施設、機能として必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1. 医療施設    | 6. 役所(役場)出張所  |
| 2. 介護・福祉施設 | 7. 公園・広場      |
| 3. 学校      | 8. 貸し農園、家庭菜園  |
| 4. 保育施設    | 9. その他(具体的に ) |
| 5. 商店      |               |

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

**問 12-7** 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1. 避難住民同士の交流会等の開催 | 5. 健康相談員の設置   |
| 2. 地元住民との交流会等の開催  | 6. その他(具体的に ) |
| 3. 高齢者向けの見守り(巡回等) |               |
| 4. 子どもの学習支援       |               |



問 12-12 へ  
お進みください

**IV 参考資料**

【問 12 で「3. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

**問 12-8** あなたは今後の避難期間中の住居をどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 今の住居で当面、継続して暮らしたい ⇒問 12-9 へ
2. 現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい ⇒問 12-11 へ
3. 現在居住している市町村以外へ引っ越したい ⇒問 12-10 へ
4. 現時点ではわからない、判断できない ⇒問 12-12 へ

【問 12-8 で「1. 今の住居で当面、継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

**問 12-9** 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。(○はいくつでも)

- |                        |                                       |
|------------------------|---------------------------------------|
| 1. 今の地域コミュニティになじんでいるから | 7. 子どもを転校させたくないから                     |
| 2. 立地が気に入っているから        | 8. 自分又は家族の持ち家だから                      |
| 3. 間取り等今の住宅が気に入っているから  | 9. 今の住宅の家賃が無償だから<br>(家賃が賠償対象になっているから) |
| 4. 現在の職場が近くて便利だから      | 10. 引っ越しを繰り返すのがいやだから                  |
| 5. 買い物等の日常生活に便利だから     | 11. その他 [ 具体的に                        |
| 6. 防犯上安心だから            | ]                                     |

→ 問 12-12 へお進みください

【問 12-8 で「3. 現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

**問 12-10** 避難期間中に、転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

24. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)

→  (市・町・村)

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

25. 福島県外(具体的にご記入ください。)

→  (都・道・府・県)  (市・町・村・区)

【問 12-8 で「2. 現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」

「3. 現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

**問 12-11** 避難期間中の現在の居住地から他への避難先への移動を希望する場合、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建)                | 6. 給与住宅(社宅など)      |
| 2. 持ち家(集合住宅)               | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建)             | 8. 親戚・知人宅          |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅)            | 9. その他 [ 具体的に      |
| 5. 公営住宅(居住制限者向けの復興公営住宅を除く) | ]                  |

【すべての方にうかがいます。】

**問 12-12** 避難期間中の住宅や居住環境についてご意見があればお書きください。

【すべての方にうかがいます。】

**問 12-13** 避難期間中の生活において困っていること、改善を求めることがあればお書きください。  
(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)

次に、将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 13 今後の職業についてどのように考えていますか。(○は1つ)

【震災時の職業が自営業・会社経営者以外の方は、下記にご回答ください。】

1. 震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい
2. 震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働き続けたい
3. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近で職場が用意されるなら、そこで働きたい
4. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近以外の職場で働きたい

→ 希望地があれば、具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

5. 今後、働く予定はない
6. その他 (具体的に

【震災時の職業が自営業・会社経営者の方は、下記にご回答ください。】

1. 現在仕事をしており、今後も続けたい
2. 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が元の場所で見通しが立っている
3. 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が元の場所以外で見通しが立っている

→ 具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

4. 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい
5. 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所以外で再開させたい

→ 具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

6. 今後、仕事をする予定はない
7. その他 (具体的に

【問 13 で「3. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近で職場が用意されるなら、そこで働きたい」「4. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近以外の職場で働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1 職場を選ぶ際に、重要視することは何ですか。(○は3つまで)

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1. 職場までの通勤時間    | 6. 雇用形態      |
| 2. 勤務地(通勤時間を除く) | 7. 社会保険の有無   |
| 3. 職種・業種        | 8. 所定労働時間    |
| 4. 給料           | 9. その他 (具体的に |
| 5. 職場の規模        | )            |

【すべての方にうかがいます。】

**問 14** 将来、飯館村の避難指示が解除された後の飯館村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。（現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください）（○は1つ）

- |                                |                               |                                |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 現時点で戻りたいと考えている<br>⇒問 14-3 へ | 2. 現時点でまだ判断がつかない<br>⇒問 14-1 へ | 3. 現時点で戻らないと決めている<br>⇒問 14-7 へ |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|

【問 14 で「2. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-1** 飯館村へ戻ることを判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。（○はいくつでも）

1. 避難解除となる時期の目安に関する情報
2. 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途
3. どの程度の住民が戻るか
4. 放射線量の低下の目途、除染成果の状況
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 働く場の確保の目途
9. 受領する賠償額の確定
10. その他（具体的に \_\_\_\_\_）
11. 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない ⇒問 15 へ

【問 14-1 で「1」から「10」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-2** 上記（問 14-1）で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。

そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。具体的な条件の内容をお書きください。

選択肢番号	具 体 的 な 内 容
(例) 3	元の人口の半分でも戻ってくるのであれば

➡ 問 15 へお進みください

【問 14 で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-3** 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（○は1つ）

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1. 元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）     | 7. 給与住宅（社宅など）       |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい | 8. 家族のどなたかのお住まい・実家  |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい    | 9. 親戚・知人宅           |
| 4. 民間賃貸住宅（一戸建）              | 10. その他（具体的に _____） |
| 5. 民間賃貸住宅（集合住宅）             | 11. 現時点では判断できない     |
| 6. 公営住宅                     |                     |

「1.元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」を選んだ方 ⇒ 次ページ 問 14-4 へお進みください

「2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい」から  
「10.その他」を選んだ方 ⇒ 次ページ 問 14-5 へお進みください

「11.現時点では判断できない」を選んだ方 ⇒ 次ページ 問 14-6 へお進みください

#### IV 参考資料

【問 14-3 で「1. 元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-4** 元の持ち家に戻る場合、ご自宅に対してどのような修繕などが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- |                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 1. 震災で壊れた部分の修繕 | 7. 解体し建替え                        |
| 2. 住宅外壁の修繕     | 8. その他〔具体的に〕                     |
| 3. 屋根などの修繕     |                                  |
| 4. 住宅内部のリフォーム  | 9. 修繕の必要はない                      |
| 5. 家財などの買換え    | 10. 帰還時期がわからないためどの程度の修繕が必要かわからない |
| 6. 住宅の清掃・消毒    |                                  |

➡ 問 14-6 へお進みください

【問 14-3 で「2」から「10」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-5** 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。（〇はいくつでも）

- |                              |                       |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから | 4. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから |
| 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから  | 5. その他〔具体的に〕          |
| 3. 飯舘村内の新たな場所で生活を開始したいから     |                       |

【問 14 で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-6** 戻る場合に行政にどのような支援を望みますか。（〇はいくつでも）

- |                      |                                    |
|----------------------|------------------------------------|
| 1. 住宅再建、確保の支援        | 9. 放射線に関する説明会などの実施                 |
| 2. 継続的な健康管理の支援       | 10. きめ細かいモニタリングとその継続(空間線量率、水、食料品等) |
| 3. 雇用確保の支援           | 11. 地域自治会等のコミュニティ活動への支援            |
| 4. 役場からの継続的な情報提供     | 12. イノシシ・ネズミ等の駆除                   |
| 5. 商店の再開             | 13. その他〔具体的に〕                      |
| 6. バス等の公共交通機関の再開     |                                    |
| 7. 医療機関・介護・福祉サービスの再開 |                                    |
| 8. 学校や教育施設の再開        |                                    |

➡ 問 15 へお進みください

【問 14 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-7** 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

- |  |  |
|--|--|
| <p>【帰還の前提・健康に関わるもの】</p> <p>1. 放射線量が低下せず不安だから</p> <p>2. 原子力発電所の安全性に不安があるから</p> <p>3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから</p>   | <p>【今後の生活に関わるもの】</p> <p>14. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから</p> <p>15. 他の住民も戻りそうにないから</p> <p>16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから</p> <p>17. 帰還までに時間がかかるから</p> <p>18. 避難先で仕事を見つけているから</p> <p>19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから</p> <p>20. 避難先の方が生活利便性が高いから</p> <p>21. その他〔具体的に〕</p> |
| <p>【村内の復旧状況に関わるもの】</p> <p>4. 飯舘村に戻っても仕事がなさそうだから</p> <p>5. 飯舘村での事業の再開が難しいから</p> <p>6. 営農などができそうにないから</p> <p>7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから</p> <p>8. 飯舘村外への移動交通が不便だから</p> <p>9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから</p> <p>10. 医療環境に不安があるから</p> <p>11. 介護・福祉サービスに不安があるから</p> <p>12. 教育環境に不安があるから</p> <p>13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから</p> |  |

【問 14 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-8** 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 現在のお住まいの自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(○は1つ)

1. 現在住んでいる自治体に住むつもり	} ⇒問 14-9 へ
2. 現状ではどうするか決まってない	
3. 別の自治体に転居したい	

【問 14-8(1) で「3. 別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <p>1. いわき市</p> <p>2. 相馬市</p> <p>3. 南相馬市</p> <p>4. 広野町</p> <p>5. 檜葉町</p> <p>6. 川内村</p> <p>7. 新地町</p>	<p>【 会 津 】</p> <p>21. 会津若松市</p> <p>22. 喜多方市</p> <p>23. 会津美里町</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)</p> <p>→ <input type="text"/> (市・町・村)</p>
<p>【 中 通 り 】</p> <p>8. 福島市</p> <p>9. 郡山市</p> <p>10. 白河市</p> <p>11. 須賀川市</p> <p>12. 二本松市</p> <p>13. 田村市</p> <p>14. 伊達市</p> <p>15. 本宮市</p> <p>16. 桑折町</p> <p>17. 川俣町</p> <p>18. 大玉村</p> <p>19. 西郷村</p> <p>20. 三春町</p>	<p>25. 福島県外(具体的にご記入ください。)</p> <p>→ <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区)</p>

【問 14 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-9** 転居する場合に、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)	
2. 持ち家(集合住宅)	
3. 民間賃貸住宅(一戸建)	
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)	
5. 公営住宅	
6. 給与住宅(社宅など)	
7. 家族のどなたかのお住まい・実家	
8. 親戚・知人宅	
9. その他(具体的に	)
10. 現時点では判断できない	

#### IV 参考資料

【問 14 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

**問 14-10** 震災時に居住されていた飯舘村に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

1. 住宅の確保の支援
2. 継続的な健康管理の支援
3. 雇用確保の支援
4. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用
5. 役場からの継続的な情報提供
6. 一時帰宅支援
7. その他(具体的に

)

【すべての方にうかがいます。】

**問 15** 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、  
11月29日(金)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**飯舘村 住民意向調査  
報告書**

**平成26年3月**

**復興庁**

**調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター**